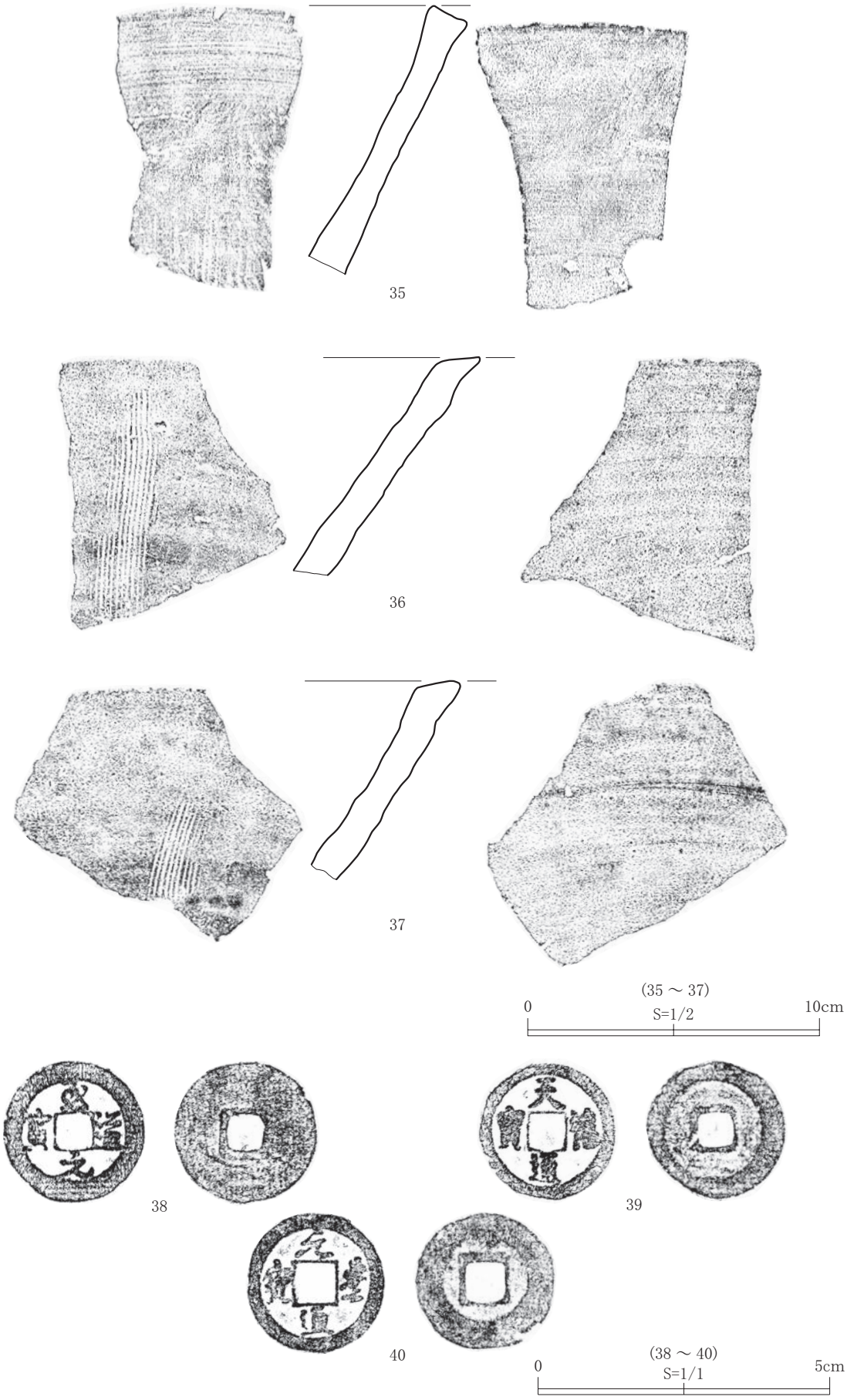
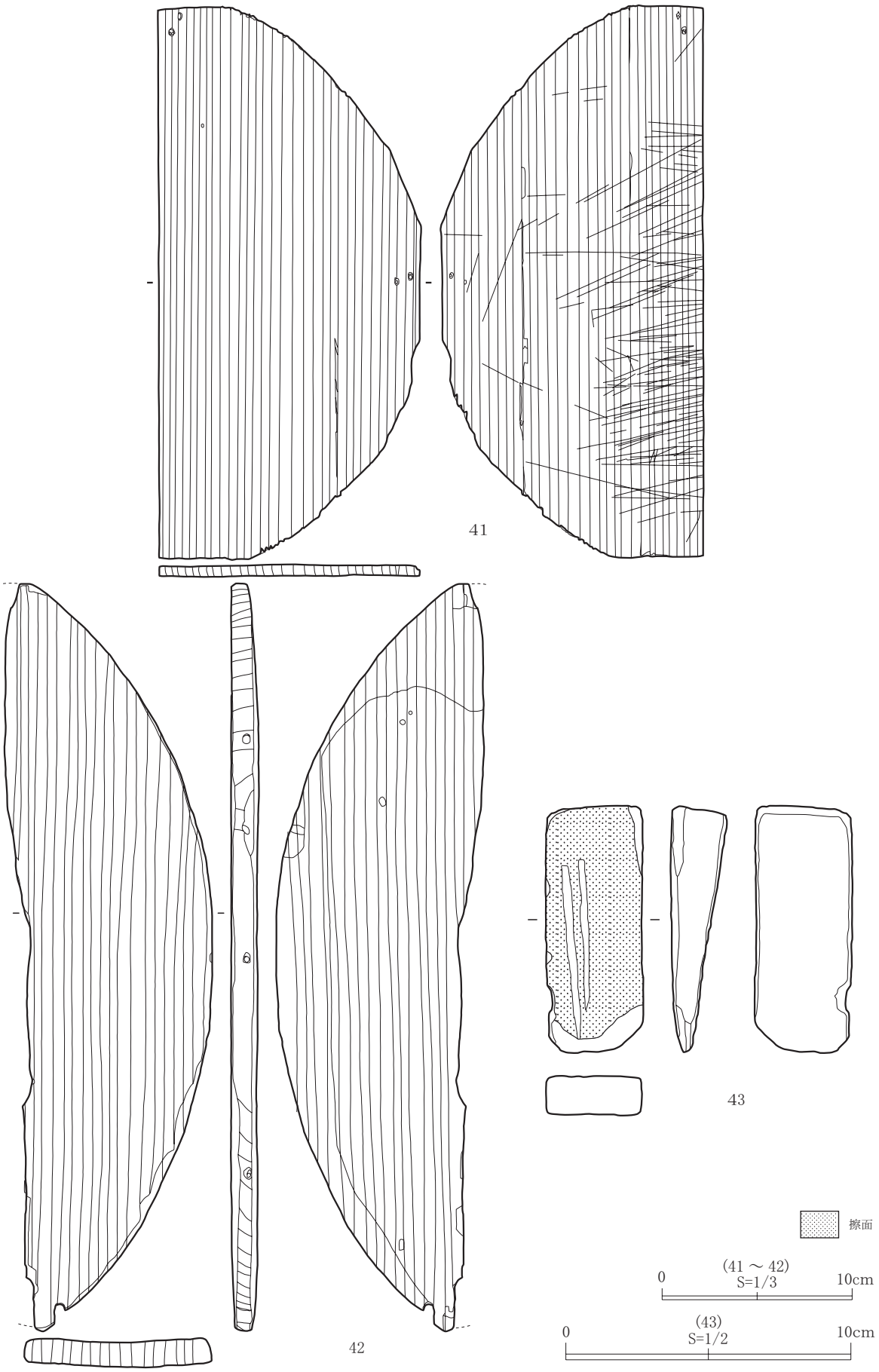


第28図　井戸跡出土遺物（Ａ区）（５）



第29図　井戸跡出土遺物（Ａ区）（６）

第13表　井戸跡出土遺物一覧表（Ａ区）（１）

挿図番号	図版番号	遺構名	種別	器種	部位	法　量〔cm〕			備　考
						A	B	C	
24- 1	13- 1	SE14	白磁	皿	口縁部	—	—	—	中国産　12世紀後半
2	2	SE14	須恵器系陶器	甕壺類	胴部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
3	3	SE14	木製品	箸	—	(21.4)	0.6	0.5	
4	4	SE14	木製品	箸	—	20.8	0.6	0.5	
5	5	SE14	木製品	箸	—	(18.3)	0.6	0.3	
6	6	SE22	木製品	箸	—	(17.3)	0.6	0.5	
7	7	SE26	須恵器系陶器	甕	胴部	—	—	—	珠洲系　13世紀前半代
8	8	SE26	須恵器系陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
9	9	SE26	須恵器系陶器	擂鉢	口縁部～胴部	[33.0]	—	—	珠洲系13世紀～14世紀
25-10	10	SE26	須恵器系陶器	擂鉢	口縁部～底部	[28.8]	[11.0]	11.9	珠洲系13世紀～14世紀 ロクロからの切り離し静止糸切り
11	11	SE26	須恵器系陶器	擂鉢	底部	—	[6.0]	—	珠洲系13世紀～14世紀 ロクロからの切り離し静止糸切り ＳＤ94出土胴部片と接合
12	12	SE26	木製品	椀	胴部～底部	—	[7.4]	—	漆塗り
13	13	SE26	木製品	椀	口縁部～底部	[13.8]	7.0	5.2	漆塗り
14	14-14	SE26	木製品	箸	—	20.7	0.5	0.4	
15	15	SE26	木製品	棒状木製品	—	(16.2)	0.5	0.3	先端が炭化している
16	16	SE26	木製品	底板	—	20.6	—	1.0	樽か桶の底　１枚板で円盤を作出 まな板に転用されて、その調理具の跡が見られる
26-17	17	SE26	木製品	底板	—	20.6	—	1.1	樽か桶の底　１枚板で円盤を作出 両面に漆が付着
18	18	SE26	木製品	篦	—	23.1	(5.1)	0.6	
19	19	SE26	木製品	篦	—	31.6	3.5	0.7	
20	20	SE26	木製品	自在	—	10.3	3.1	1.2	
21	21	SE26	木製品	自在	—	14.2	5.4	2.6	
—	15-22	SE26	木製品	折敷	—	28.6	(7.3)	0.4	
—	23	SE26	木製品	板材	—	(70.3)	16.5	2.7	
—	24	SE26	木製品	板材	—	(68.1)	17.2	2.5	
—	25	SE26	木製品	杭	—	57.6	9.4	7.2	
—	26	SE26	木製品	板材	—	70.2	10.5	3.8	
27-22	27	SE26	石製品	温石	—	12.3	11.8	1.6	
23	16-28	SE45	木製品	皿	底部	—	6.6	—	両面漆塗り　底部ロクロ爪痕あり
24	29	SE45	木製品	箸	—	20.5	0.6	0.5	
25	30	SE45	木製品	箸	—	(21.4)	0.5	0.7	
26	31	SE45	木製品	箸	—	19.6	0.6	0.4	
27	32	SE45	木製品	箸	—	19.6	0.65	0.35	
28	33	SE45	木製品	箸	—	18.2	0.6	0.4	
29	34	SE45	木製品	箸	—	18.4	0.7	0.4	

※法量のＡ・Ｂ・Ｃは、陶磁器と木製品の椀・皿ではＡ：口径、Ｂ：底径、Ｃ：器高。木製品の箸・棒状木製品・篦・自在と石製品ではＡ：長さ、Ｂ：幅、Ｃ：厚さ、木製品の底板ではＡ：底径、Ｃ：厚さを示す。なお、(　)内の数値は残存値で、[　] 内の数値は推定値である。

第14表　井戸跡出土遺物一覧表（Ａ区）（２）

挿図番号	図版番号	遺構名	種別	器種	部位	法　量〔cm〕			備　考
						A	B	C	
27-30	16-35	SE45	木製品	箸	—	(19.5)	0.7	0.4	
31	36	SE45	木製品	箸	—	19.0	0.4	0.5	
32	37	SE45	木製品	箸	—	(16.6)	0.6	0.5	
33	38	SE45	木製品	箸	—	(17.2)	0.6	0.6	
34	39	SE45	木製品	斎串	—	15.1	4.4	0.4	
28-35	40	SE93	須恵器系陶器	擂鉢	口縁部～胴部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
36	41	SE98	須恵器系陶器	擂鉢	口縁部～胴部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
37	42	SE98	須恵器系陶器	擂鉢	口縁部～胴部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
—	43	SE98	木製品	折敷	—	15.2	11.5	0.4	
38	44	SE98	金属	銭貨	—	2.5	0.1	3.0	至道元寳〔北宋995年初鋳〕
39	45	SE98	金属	銭貨	—	2.4	0.1	2.7	天禧通寳〔北宋1017年初鋳〕
40	46	SE98	金属	銭貨	—	2.4	0.1	2.6	元豊通寳〔北宋1078年初鋳〕
29-41	17-47	SE164	木製品	底板	—	(29.1)	(13.8)	0.6	半分ほど残存
42	48	SE195	木製品	底板	—	(39.3)	(9.9)	1.4	1/3ほど残存　断面には２枚の板を接合して円盤にするための目釘の穴が３つ見られる
—	49	SE195	木製品	曲物	側板	(50.5)	8.3	0.3	
43	50	SE195	石製品	砥石	—	8.7	3.3	1.9	
—	51	SE200	木製品	板材	—	46.4	9.2	2.0	

※法量のＡ・Ｂ・Ｃは、木製品の箸・斎串・底板・曲物と石製品ではＡ：長さ、Ｂ：幅、Ｃ：厚さを示し、銭貨ではＡ：径、Ｂ：厚さ、Ｃ：重さｇを示す。なお、(　)内の数値は残存値である。

（５）かまど状遺構

【ＳＯ216】（第30図、図版６－１）

《位置・確認》ＭＡ27に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＥ224と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《平面形・規模》平面形は不整な楕円形である。規模は長軸（北東－南西）2.38m、短軸（北西－南東）1.00m、深さ0.33mである。南西側が焚口部で、北東側が燃焼部である。

《壁・底面》壁の傾きは急で、北東壁はややオーバーハングしている。底面はほぼ平坦で、焚口部から燃焼部へ緩やかに傾斜している。燃焼部はやや窪んでおり、壁・底面には被熱を受けて焼土化した箇所が部分的に認められた。また、焚口部の壁には被熱を受けて赤化した部分が見られた。

《堆積土》13層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＯ300】（第30図、図版６－２）

《位置・確認》ＬＴ・ＭＡ25グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＫＰ494と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《平面形・規模》平面形は不整な楕円形である。規模は長軸（東－西）1.39m、短軸（北－南）0.72m、深さ0.16mである。東側が焚口部で、西側が燃焼部である。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかである。底面は幾分凸凹しており、焚口部から燃焼部へ緩やかに傾斜

している。燃焼部の底面は鍋底ぎみで、壁面には被熱を受けて赤化した箇所が部分的に認められた。

《堆積土》５層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》放射性年代測定から中世に帰属する。

【ＳＯ407】（第31図、図版６－３）

《位置・確認》ＭＢ36に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》西側が調査区外にかかり全容を把握できなかったが、その平面形は楕円形を呈するものと推測される。確認した範囲の規模は長軸（北－南）0.73ｍ、短軸（東－西）0.56ｍ、深さ0.18ｍである。この部分は燃焼部と思われる。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。燃焼部の底面は僅かに窪んでおり、壁・底面には被熱を受けて赤変した個所が部分的に認められた。

《堆積土》３層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＯ416】（第31図、図版６－４）

《位置・確認》ＬＴ23・24に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。西側を北東－南西方向に延びる旧水路で削られている。

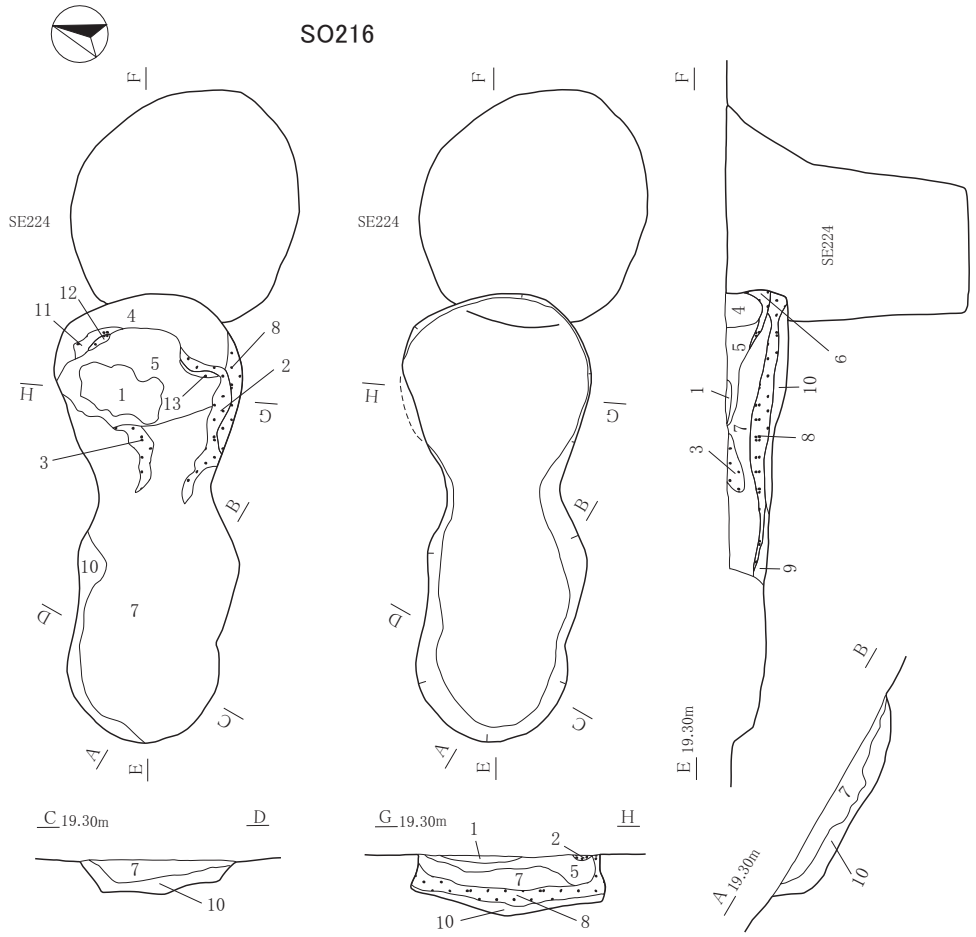
《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は不整な楕円形である。規模は長軸（北－南）2.10ｍ、短軸（東－西）1.02ｍ、深さ0.20ｍである。南側が焚口部で、北側が燃焼部である。

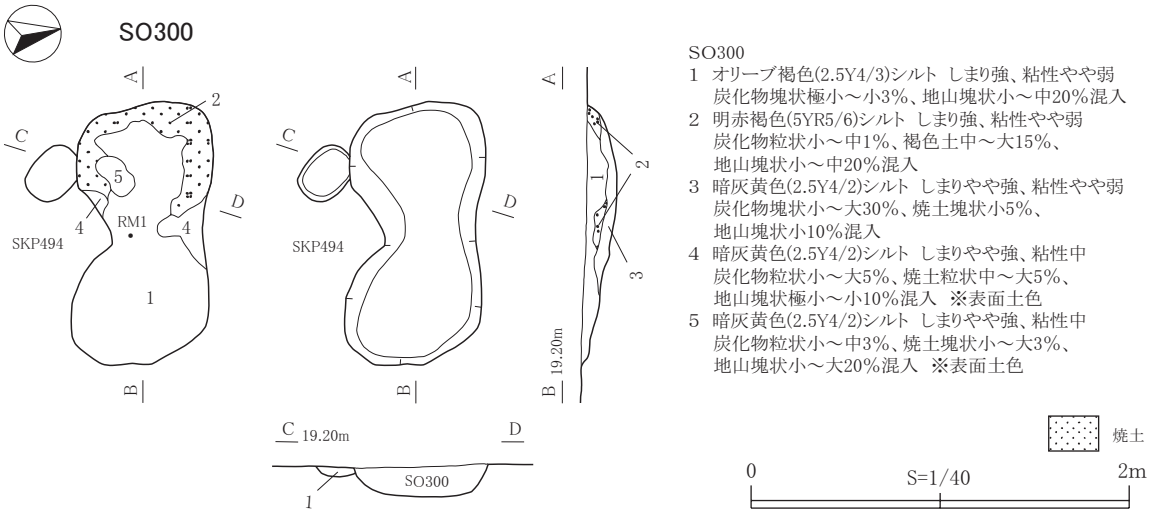
《壁・底面》壁の傾きは急で、北東部が幾分オーバーハングしている。底面はやや凸凹しており、焚口部から燃焼部へ緩やかに傾斜している。燃焼部の壁・底面には被熱を受けて赤変した個所が部分的に認められた。

《堆積土》６層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》放射性年代測定から中世に帰属する。

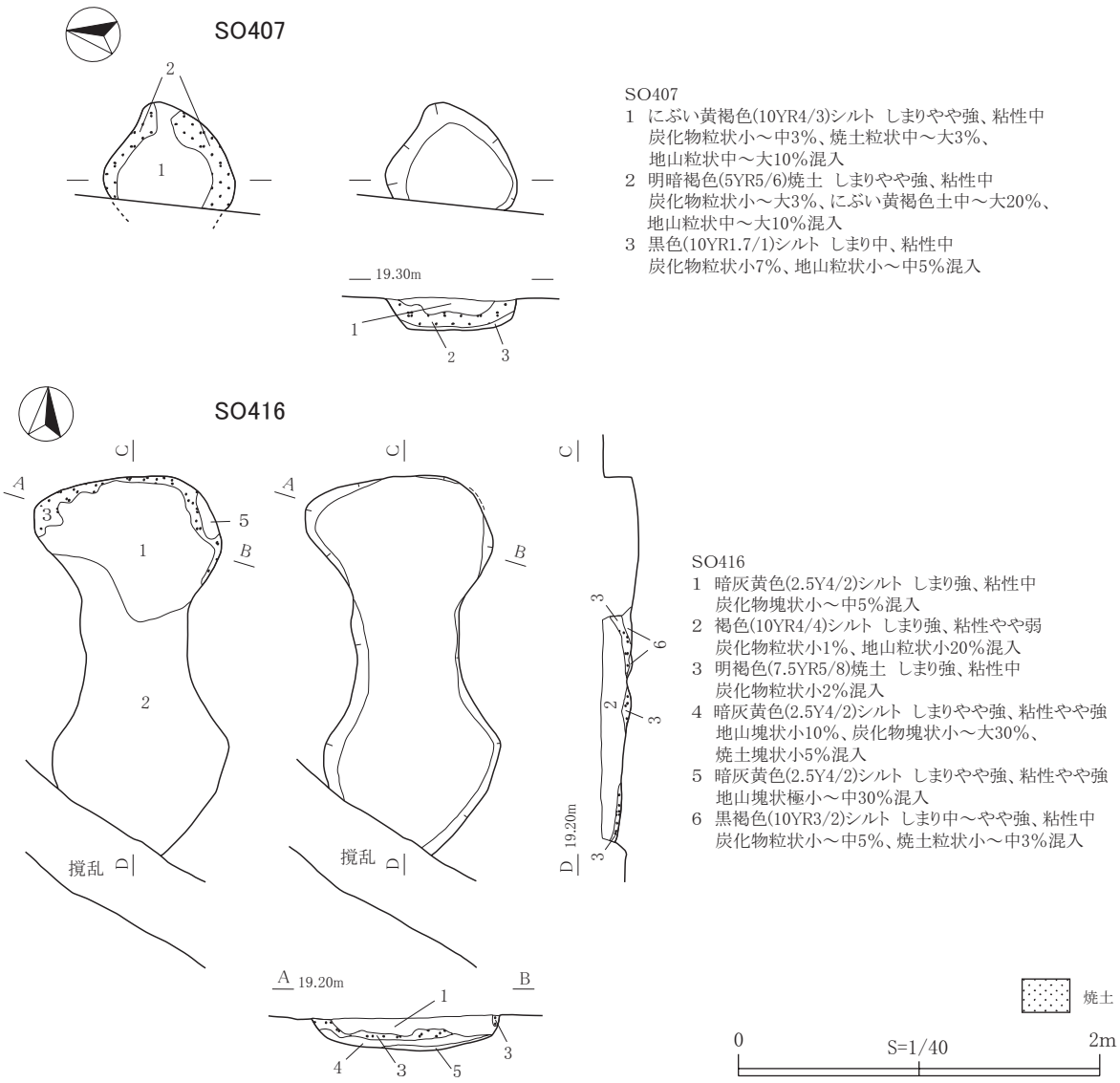


SO216
1 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト しまり強、粘性やや弱
炭化物粒状小～中2%、地山粒状小2%混入
2 暗赤褐色(5YR3/2)シルト しまり強、粘性やや弱
炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%混入
3 暗赤褐色(5YR3/2)シルト しまり強、粘性やや弱～中
炭化物粒状極小1%、明赤褐色粒状小1%、
地山粒状小～中2%混入
4 暗褐色(10YR3/3)シルト しまり強、粘性中
炭化物粒状小2%、焼土粒状小1%、地山粒状小2%混入
5 暗褐色(10YR3/4)シルト しまり強、粘性やや弱
地山粒状小～中3%、炭化物粒状小2%、焼土粒状小1%混入
6 黒褐色(7.5YR3/2)シルト しまりやや強、粘性中
炭化物粒状小1%、焼土塊状中15%、地山粒状小1%混入
7 暗褐色(10YR3/3)シルト しまりやや強、粘性やや弱～中
炭化物塊状小2%、焼土塊状小～中5%、地山塊状中15%混入
8 褐色(7.5YR4/3)シルト しまり強、粘性中
焼土塊状小～中15%、炭化物粒状中3%混入
9 褐色(10YR4/4)シルト しまりやや強、粘性中
地山粒状小2%、炭化物粒状極小1%、焼土粒状小1%混入
10 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト しまりやや強～強、粘性やや弱～中
地山粒状中5%、炭化物塊状小1%、焼土塊状小2%混入
11 暗赤褐色(5YR3/2)シルト しまり強、粘性やや弱 ※表面土色
12 明赤褐色(5YR5/6)シルト しまり強、粘性やや弱 ※表面土色
13 明赤褐色(5YR5/6)シルト しまり強、粘性やや弱 ※表面土色



SO300
1 オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト しまり強、粘性やや弱
炭化物塊状極小～小3%、地山塊状小～中20%混入
2 明赤褐色(5YR5/6)シルト しまり強、粘性やや弱
炭化物粒状小～中1%、褐色土中～大15%、
地山塊状小～中20%混入
3 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト しまりやや強、粘性やや弱
炭化物塊状小～大30%、焼土塊状小5%、
地山塊状小10%混入
4 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト しまりやや強、粘性中
炭化物粒状小～大5%、焼土粒状中～大5%、
地山塊状極小～小10%混入 ※表面土色
5 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト しまりやや強、粘性中
炭化物粒状小～中3%、焼土塊状小～大3%、
地山塊状小～大20%混入 ※表面土色

第30図　ＳＯ216・300



第31図　ＳＯ407・416

（６）焼土遺構

【ＳＮ130】（第32図、図版６－５）

《位置・確認》ＭＢ45に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北西－南東）0.87ｍ、短軸（北東－南西）0.45ｍ、深さ0.05ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はやや凸凹している。壁と底面は全体的に被熱によって赤変している。

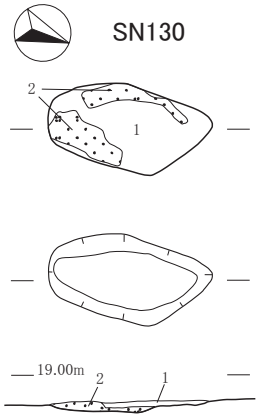
《堆積土》２層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

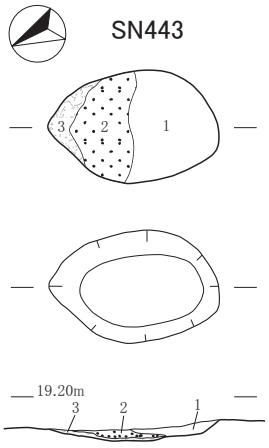
【ＳＮ442】（第32図、図版６－６）

《位置・確認》ＬＴ21に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

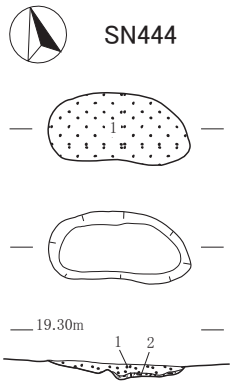
《重複遺構》ＳＫ491と重複する。新旧は本遺構の方が古い。
《平面形・規模》残存部の平面形は不整な楕円形で、その規模は長軸（北－南）0.82m、短軸（東－西）0.46m、深さ0.07mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。壁と底面は部分的に被熱によって赤変している。
《堆積土》１層である。
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。
【ＳＮ443】（第32図、図版６－７）
《位置・確認》ＬＴ21に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。
《重複遺構》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）0.90m、短軸（北西－南東）0.60m、深さ0.06mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、壁の東側と西側が部分的に被熱している。底面は幾らか凸凹しており、北側と南側の一部が被熱によって赤変している。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。
【ＳＮ444】（第32図、図版６－８）
《位置・確認》ＬＳ22に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。
《重複遺構》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北西－南東）0.76m、短軸（北東－南西）0.36m、深さ0.08mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はやや凸凹している。また、壁と底面は部分的に被熱を受けて赤変している。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。
【ＳＮ465】（第32図、図版６－９）
《位置・確認》ＬＴ・ＭＡ66に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。
《重複遺構》なし。
《平面形・規模》平面形は不整な楕円形である。規模は長軸（北西－南東）1.50m、短軸（北東－南西）1.00m、深さ0.08mである。
《壁・底面》壁の傾きはやや急で、底面は凸凹している。壁と底面が部分的に被熱によって赤変している。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。



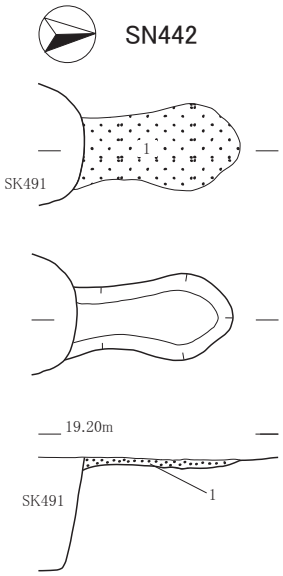
SN130
1　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまりやや強、粘性やや強
　炭化物塊状小～中7%、地山粒状小～中3%混入
2　暗赤褐色(5YR3/3)シルト　しまりやや強、粘性やや強
　炭化物粒状小3%、明赤褐色土粒状小2%、
　地山粒状小2%混入



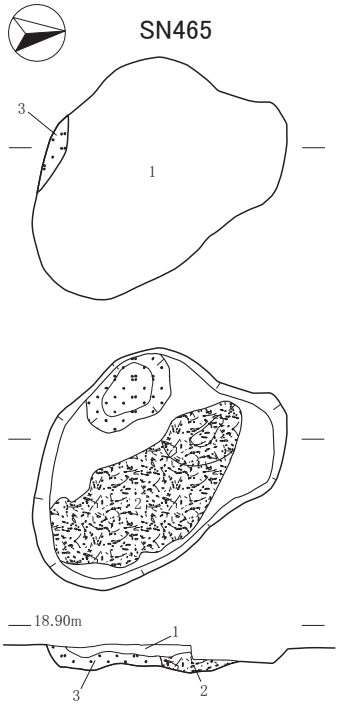
SN443
1　暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物塊状小2%、地山粒状小～中5%混入
2　褐色(7.5YR4/3)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状小～中1%、焼土塊状極小～中20%、
　地山粒状中20%混入
3　褐色(7.5YR4/3)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物塊状中30%混入



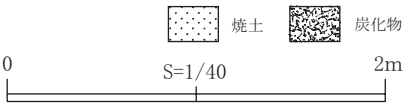
SN444
1　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト　しまり強、粘性やや弱
　炭化物粒状小～極大10%、焼土塊状極小～大15%、
　地山塊状小5%混入
2　炭化物層



SN442
1　暗灰黄色(2.5Y4/2)焼土　しまり強、粘性中
　炭化物塊状極小～中20%、焼土塊状小～大15%、
　地山粒状小・塊状小2%混入



SN465
1　にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状極小3%、焼土塊状中10%混入
2　赤褐色(5YR4/8)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状大25%・板状薄い25%、
　にぶい黄褐色土粒状小10%混入
3　にぶい赤褐色(5YR4/4)シルト　しまり中、粘性やや強
　炭化物粒状極小～小3%、赤褐色土粒状小～中5%混入



第32図　ＳＮ130・442・443・444・465

（７）土坑

【ＳＫ34】（第33図、図版６-10）

《位置・確認》ＬＳ33に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は円形である。規模は長軸（北－南）0.50ｍ、短軸（東－西）0.49ｍ、深さ0.21ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は鍋底状を呈している。

《堆積土》２層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ36】（第33図、図版６-11）

《位置・確認》ＬＳ・ＬＴ33に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は円形である。規模は長軸（北西－南東）0.82ｍ、短軸（北東－南西）0.75ｍ、深さ0.23ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ43】（第33図、図版６-12）

《位置・確認》ＬＳ32・33に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は円形である。規模は長軸（北東－南西）0.94ｍ、短軸（北西－南東）0.73ｍ、深さ0.20ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。

《堆積土》２層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ44】（第33図、図版６-13）

《位置・確認》ＬＳ32に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は円形である。規模は長軸（北東－南西）1.02ｍ、短軸（北西－南東）0.92ｍ、深さ0.22ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》３層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ85】（第33図、図版６-14）

《位置・確認》ＬＳ30・31に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）1.29ｍ、短軸（北西－南東）1.17

ｍ、深さ0.23ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》６層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ138】（第34図、図版６-15）

《位置・確認》ＬＴ32・33に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。北東端付近の上部が北西－南東方向に延びる暗渠で削られている。

《重複遺構》ＳＫＰ419と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（北－南）1.94ｍ〔残存部〕、短軸（東－西）1.40ｍ、深さ0.26ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは南側が緩やかで、他壁は急である。底面はほぼ平坦であるが、北側でやや窪んでいる。

《堆積土》２層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ154】（第34図、図版７－１・２）

《位置・確認》ＬＴ25・26に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＫＰ469と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（東－西）1.18ｍ、短軸（北－南）0.92ｍ、深さ0.20ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは北・東側が急で、南・西側が緩やかである。底面は中央に向かって緩やかに傾斜しており、鍋底状を呈している。

《堆積土》４層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》１層から須恵系陶器片１点が出土した（第40図44、図版17-52）。遺物から中世に帰属する。

【ＳＫ160】（第34図、図版７－３）

《位置・確認》ＬＴ・ＭＡ26に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北－南）0.80ｍ、短軸（東－西）0.66ｍ、深さ0.10ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は鍋底状である。

《堆積土》２層に分けられた。

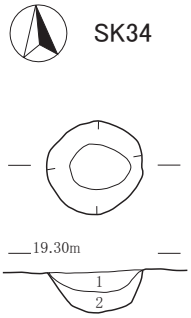
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ169】（第34図、図版７－４）

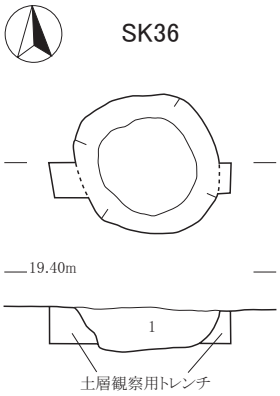
《位置・確認》ＬＳ26に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。また、中央の北東側が北西－南東方向に延びる暗渠で削られている。

《重複遺構》なし。

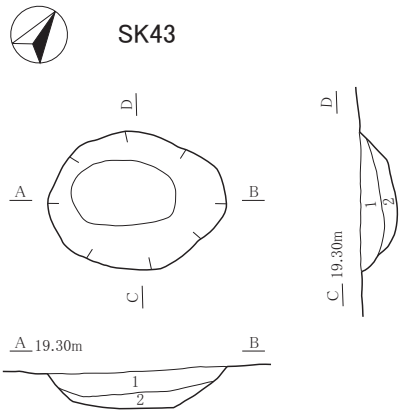
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）0.86ｍ、短軸（北西－南東）0.26



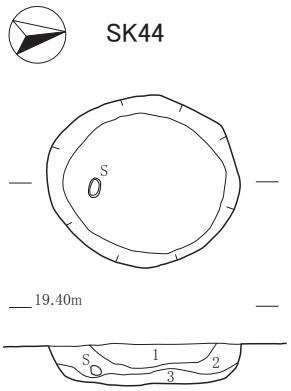
SK34
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状小～中2%、焼土粒状極小1%、
　地山粒状小3%混入
2　褐色(10YR4/4)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中5%混入



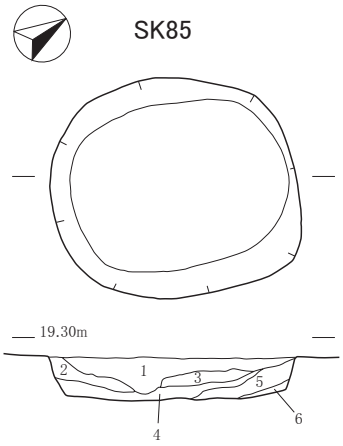
SK36
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状大2%、焼土粒状中1%、地山塊状中20%混入



SK43
1　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状小～中5%、焼土粒状小～中2%、
　地山粒状小～中3%混入
2　褐灰色(10YR4/1)シルト　しまり強、粘性やや強
　炭化物粒状小1%、地山土粒状中25%混入



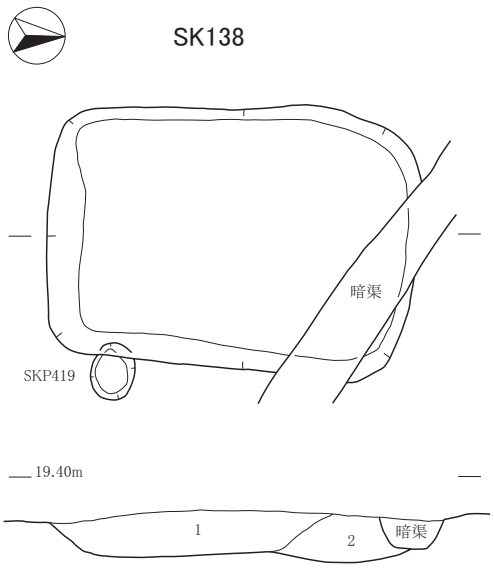
SK44
1　黒褐色(10YR3/2)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状中2%、焼土粒状中3%、
　地山粒状中5%混入
2　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状中1%、焼土粒状中1%、
　地山粒状中10%混入
3　黒褐色(10YR3/2)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状中1%、焼土粒状中2%、
　地山粒状中3%混入



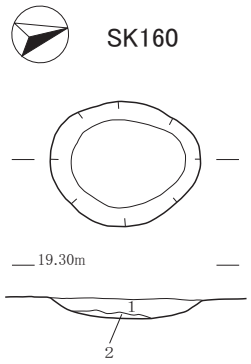
SK85
1　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状小～中2%、地山粒状小～中3%混入
2　にぶい黄橙色(10YR6/3)シルト　しまり強、粘性やや強
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%混入
3　にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト　しまり強、粘性やや強
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%混入
4　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり強、粘性やや強
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%混入
5　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり強、粘性やや強
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中7%混入
6　にぶい黄橙色(10YR6/4)シルト　しまり強、粘性やや強
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%

0　S=1/40　2m

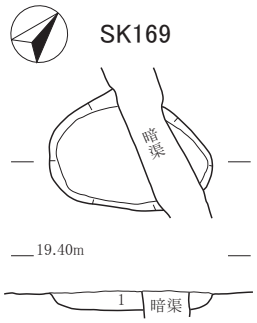
第33図　ＳＫ34・36・43・44・85



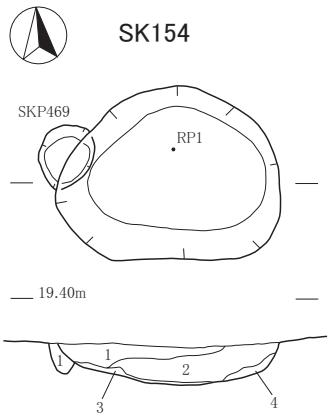
SK138
1　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小～中3%、焼土粒状小1%、
　地山粒状小～中5%混入
2　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小～小2%、焼土粒状小～中2%・塊状小2%、
　地山粒状小～大5%混入



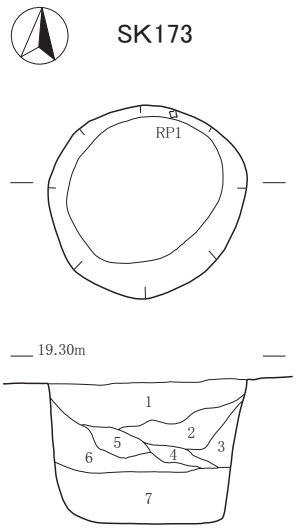
SK160
1　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%混入
2　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　地山粒状小3%混入



SK169
1　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小2%、地山粒状小2%混入



SK154
1　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%混入
2　褐灰色(10YR4/1)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小2%混入
3　にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　地山粒状小5%混入
4　にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　地山粒状小5%混入



SK173
1　暗褐色(10YR3/3)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状極小～小2%、焼土粒状極小1%、
　地山粒状極小～小2%混入
2　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、焼土粒状小2%、
　地山粒状小1%混入
3　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小1%混入
4　黒色(10Y2/1)シルト　しまり中、粘性やや強
　灰黄褐色土塊状小5%混入
5　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、焼土粒状極小1%、
　地山粒状小2%混入
6　褐色(10YR4/4)シルト　しまり中、粘性やや強
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小1%
7　灰色(5Y4/1)シルト　しまり中、粘性やや強
　炭化物粒状極小1%混入

0　S=1/40　2m

第34図　ＳＫ138・154・160・169・173

ｍ、深さ0.10ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ173】（第34図、図版７－５）

《位置・確認》ＬＲ・ＬＳ23に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形はほぼ円形である。規模は長軸（北東－南西）1.06ｍ、短軸（北西－南東）1.00ｍ、深さ0.76ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは垂直に近い。底面は平坦である。

《堆積土》７層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》１層から須恵器片１点が出土した（第40図45、図版17-53）。遺物から遺構は中世に帰属する。

【ＳＫ198】（第35図、図版７－６）

《位置・確認》ＭＡ30に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）0.64ｍ、短軸（北西－南東）0.54ｍ、深さ0.13ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。

《堆積土》２層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ213】（第35図、図版７－７）

《位置・確認》ＭＡ31・32、ＭＢ31・32に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北西－南東）0.86ｍ、短軸（北東－南西）0.66ｍ、深さ0.25ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は鍋底状である。

《堆積土》４層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ214】（第35図、図版７－８）

《位置・確認》ＭＢ32に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

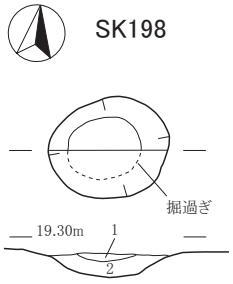
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）0.62ｍ、短軸（北西－南東）0.58ｍ、深さ0.33ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は幾分凸凹ぎみである。

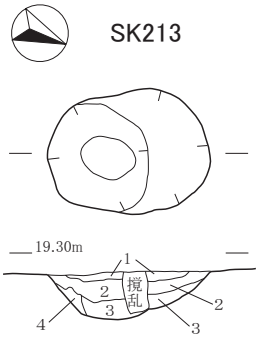
《堆積土》２層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

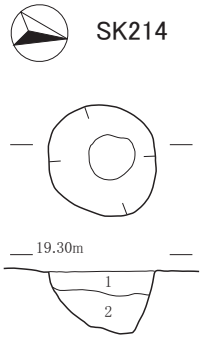
【ＳＫ217】（第35図、図版７－９）
《位置・確認》ＭＡ27に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。
《重複遺構》ＳＢ236-Ｐ２と重複する。新旧は本遺構の方が古い。
《平面形・規模》平面形はほぼ楕円形である。規模は長軸（東－西）1.32ｍ、短軸（北－南）0.73ｍ、深さ0.08ｍである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。
【ＳＫ218】（第35図、図版７-10）
《位置・確認》ＭＡ27に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。
《重複遺構》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北西－南東）0.71ｍ、短軸（北東－南西）0.50ｍ、深さ0.12ｍである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦であり、北西側に傾斜している。
《堆積土》１層である。
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。
【ＳＫ220】（第35図、図版７-11）
《位置・確認》ＭＡ28・29に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。
《重複遺構》ＳＤ94、ＳＫＰ498と重複する。新旧は本遺構の方がＳＤ94より古く、ＳＫＰ498より新しい。
《平面形・規模》北側をＳＤ94に切られているが、その平面形は楕円形を呈するものと推測される。残存部の長軸（北東－南西）は1.16ｍ、短軸（北西－南東）は0.53ｍで、深さは0.17ｍである。また、南に長さ0.38ｍ、幅0.24ｍ～0.29ｍの張り出しがある。
《堆積土》１層である。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面はほぼ平坦である。
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。
【ＳＫ221】（第36図、図版７-12）
《位置・確認》ＬＴ28・29、ＭＡ28・29に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。
《重複遺構》ＳＤ94、ＳＫ476と重複する。新旧は本遺構の方がＳＤ94より古く、ＳＫ476より新しい。
《平面形・規模》北側をＳＤ94に切られているが、その平面形は楕円形を呈するものと推測される。残存部の長軸（北東－南西）は1.32ｍ、短軸（北西－南東）は1.24ｍで、深さは0.17ｍである。
《壁・底面》壁の傾きは垂直に近く、底面は平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。
【ＳＫ222】（第36図、図版７-13）
《位置・確認》ＭＡ27・28に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。
《重複遺構》ＳＢ236-Ｐ３、ＳＫＰ262と重複する。新旧は本遺構の方が古い。



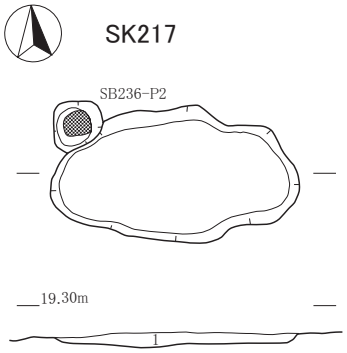
SK198
1　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまりやや強、粘性やや弱
　炭化物粒状極小～小2%、焼土塊状小～大15%、
　地山粒状極小1%混入
2　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小3%混入



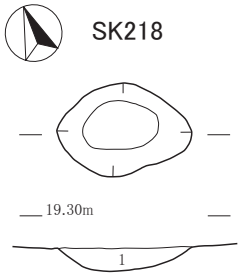
SK213
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状小2%、焼土粒状小1%、
　地山粒状小3%混入
2　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状小2%、地山粒状小3%混入
3　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%混入
4　にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト　しまり強、粘性中



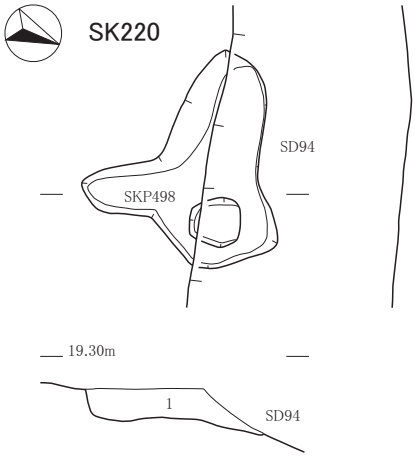
SK214
1　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状小～大2%、地山粒状小3%混入
2　にぶい褐色(10YR4/3)シルト　しまり強、粘性中



SK217
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性やや弱
　炭化物粒状小～中1%、地山塊状中10%混入



SK218
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状小1%、焼土粒状小～中1%、地山粒状中3%混入



SK220
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%・塊状小3%混入

第35図　ＳＫ198・213・214・217・218・220

《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（北－南）1.39m、短軸（東－西）0.66m、深さ0.08mである。

《壁・底面》壁の傾きは北側が急で、南側は緩やかである。底面はほぼ平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ225】（第36図、図版７-14）

《位置・確認》ＬＴ27・28に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＢ146、ＳＫＰ271・272と重複する。新旧は本遺構の方がＳＢ146、ＳＫＰ271・272より新しい。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）1.30m、短軸（北西－南東）0.82m、深さ0.10mである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ325】（第36図、図版７-15）

《位置・確認》ＬＱ25・26に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（北東－南西）1.52m、短軸（北西－南東）0.76m、深さ0.16mである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ328】（第36図、図版８-1）

《位置・確認》ＬＱ29に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＫＰ425と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（北－南）0.60m、短軸（東－西）0.54m、深さ0.21mである。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》２層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ330】（第36図、図版８－２）

《位置・確認》ＬＴ・ＭＡ30に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＫＰ342・343と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（北西－南東）0.62m、短軸（北東－南西）0.56m、深さ0.12mである。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ331】（第37図、図版８－３）

《位置・確認》ＭＡ・ＭＢ30に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。南西側を暗渠が北西－南東方向に横切っている。

《重複遺構》ＳＤ332・ＳＫＰ348と重複する。新旧は本遺構の方がＳＤ332より古く、ＳＫＰ348より新しい。

《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（東－西）1.38m、短軸（北－南）0.73m、深さ0.11mである。

《壁・底面》壁の傾きは東側が急で、西側は緩やかである。底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ380】（第37図、図版８－４）

《位置・確認》ＬＴ32に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＫＰ49と重複する。新旧は本遺構の方が古い。

《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（東－西）0.68m、短軸（北－南）0.54m、深さ0.05mである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ382】（第37図、図版８－５）

《位置・確認》ＬＴ33・34に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＢ63、ＳＫ383、ＳＫＰ450と重複する。新旧は本遺構の方がＳＫ383、ＳＫＰ450より古いが、ＳＢ63との新旧関係は不明である。

《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（北西－南東）1.39m、短軸（北東－南西）1.13m、深さ0.36mである。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ383】（第37図、図版８－６）

《位置・確認》ＬＴ33・34に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

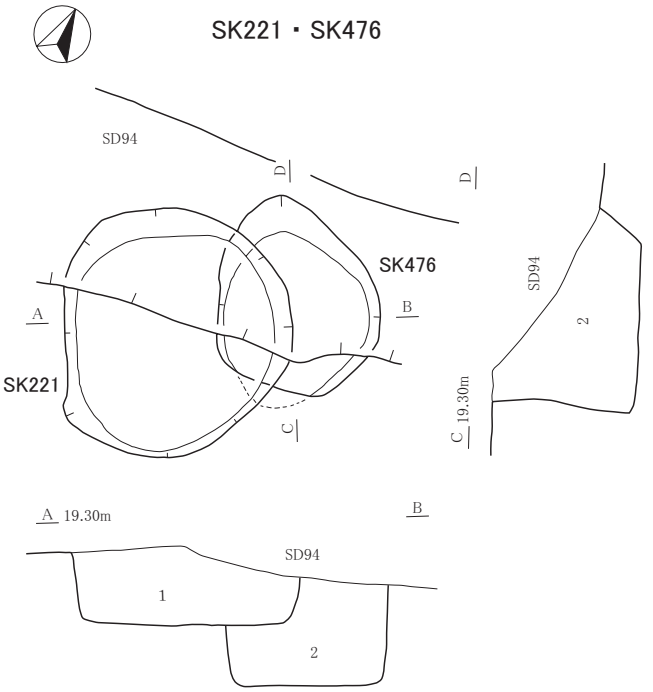
《重複遺構》ＳＢ63、ＳＫ382、ＳＫＰ441と重複する。新旧は本遺構の方がＳＫ382、ＳＫＰ441より新しいが、ＳＢ63との新旧関係は不明である。

《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（北－南）1.32m、短軸（東－西）1.24m、深さ0.10mである。

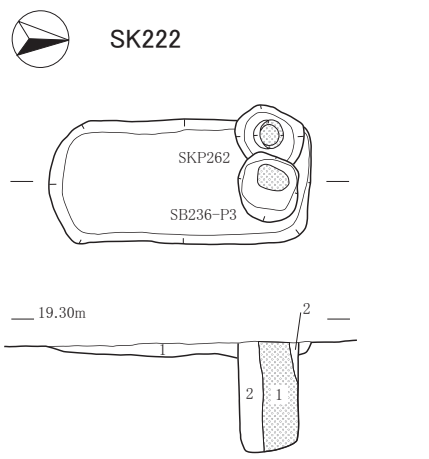
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》２層に分けられた。

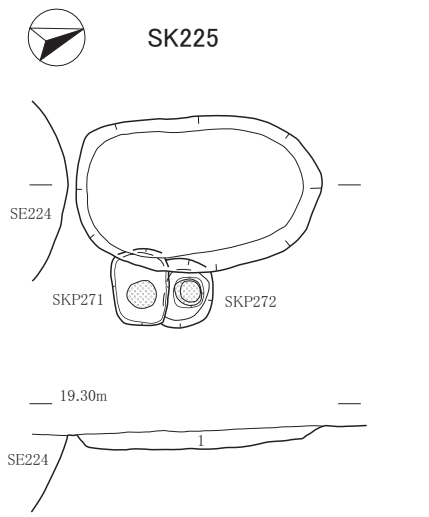
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。



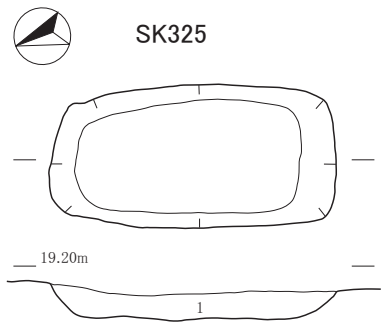
SK221
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状極小～小2%、焼土粒状小～大2%、地山粒状小3%混入
SK476
2　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物塊状小1%、焼土粒状小1%、地山塊状小～中5%混入



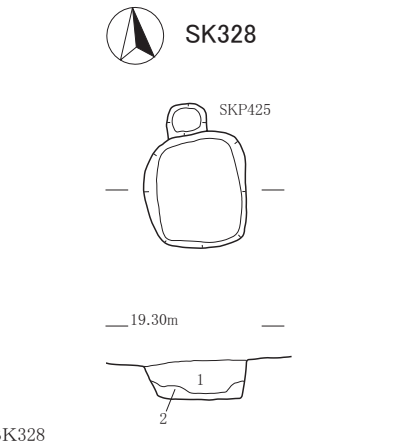
SK222
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性やや弱
　炭化物粒状小2%、焼土粒状小1%、地山粒状中20%混入



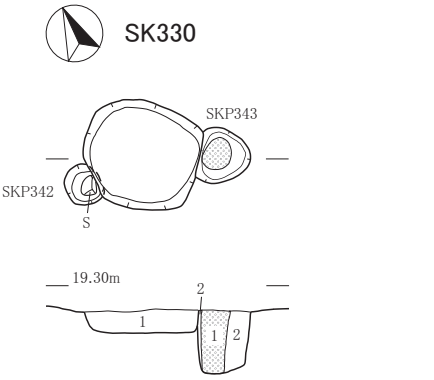
SK225
1　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまり強、粘性やや弱
　炭化物粒状小～中1%、焼土粒状中2%、
　地山粒状中5%混入



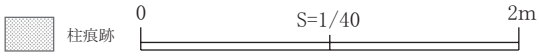
SK325
1　灰色(5Y4/1)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状極小～中1%、地山粒状小2%混入



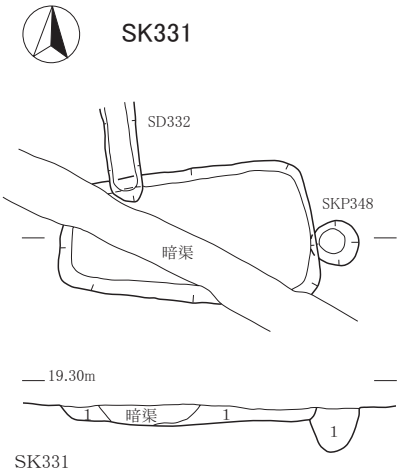
SK328
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小2%、地山粒状小3%混入
2　褐色(10YR4/4)シルト　しまり中、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%混入



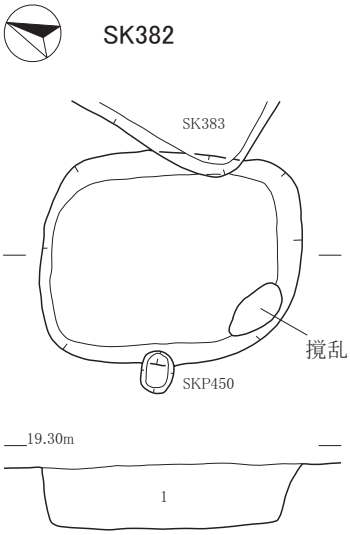
SK330
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%混入



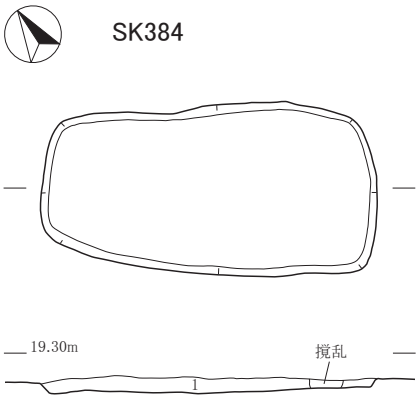
第36図　ＳＫ221・222・225・325・328・330・476



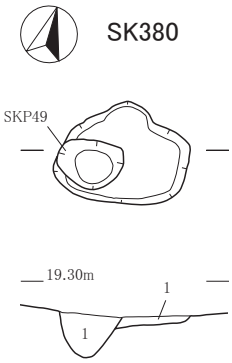
SK331
1　褐色(10YR4/4)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%混入



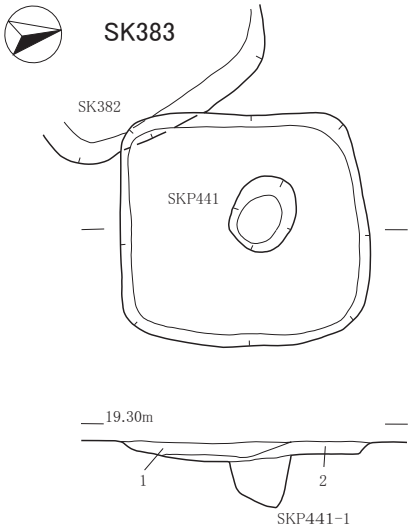
SK382
1　褐色(10YR4/4)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状極小～小2%、焼土粒状小1%、
　地山粒状小～大5%混入



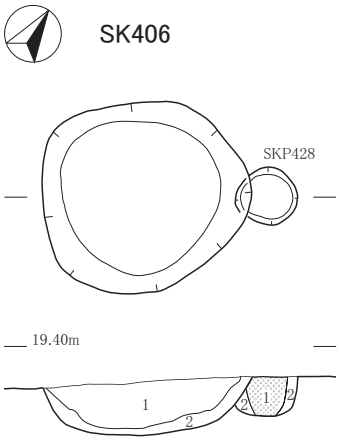
SK384
1　褐色(10YR4/4)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小～大10%混入



SK380
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状小～中2%、焼土粒状小1%、
　地山粒状小～中5%・塊状小5%混入



SK383
1　褐色(10YR4/4)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%混入
2　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%混入



SK406
1　褐色(10YR4/4)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小7%混入
2　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまりやや強、粘性中
　地山粒状小5%混入

第37図　ＳＫ331・380・382・383・384・406

【ＳＫ384】（第37図、図版８－７）

《位置・確認》ＬＴ・ＭＡ34に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＢ63と重複する。新旧関係は不明である。

《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（北西－南東）1.78m、短軸（北東－南西）0.92m、深さ0.08mである。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ406】（第37図、図版８－８）

《位置・確認》ＬＲ32・33に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＫＰ428と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）1.10m、短軸（北西－南東）1.00m、深さ0.28mである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》２層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ412】（第38図、図版８－９）

《位置・確認》ＬＱ25・26、ＬＲ25・26に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（東－西）1.18m、短軸（北－南）0.92m、深さ0.48mである。

《壁・底面》壁の傾きは東側が急で、西側は緩やかである。底面は若干凸凹である。

《堆積土》２層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ413】（第38図、図版８-10）

《位置・確認》ＬＲ・ＬＳ25に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。北東端を暗渠で削られている。

《重複遺構》ＳＫＰ490と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（東－西）0.84m、短軸（北－南）0.56m、深さ0.19mである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。

《堆積土》２層に分けられた。

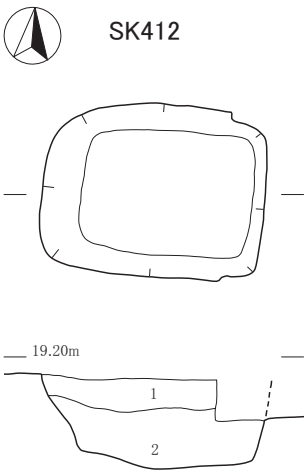
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ414】（第38図、図版８-11）

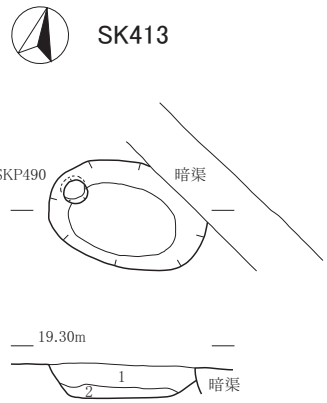
《位置・確認》ＬＲ25に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

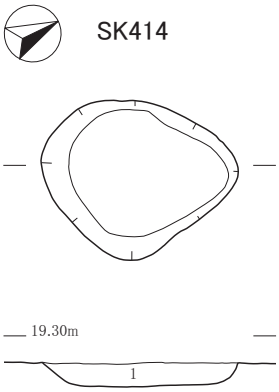
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）1.04m、短軸（北西－南東）0.84m、深さ0.07mである。



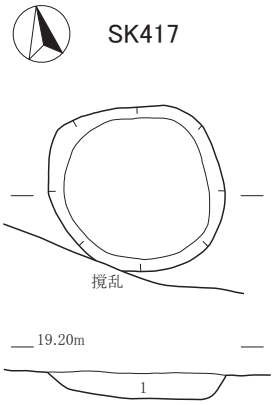
SK412
1　黄灰色(2.5Y4/1)シルト　しまり強、粘性やや弱
　炭化物粒状小～中3%・塊状小～大3%
　地山粒状小2%混入
2　灰色(5Y4/1)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状小～中2%、地山粒状小～中2%混入



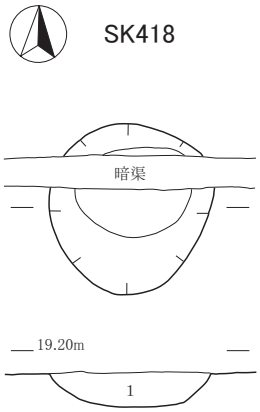
SK413
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%混入
2　褐色(10YR4/4)シルト　しまりやや強、粘性中
　地山粒状小3%混入



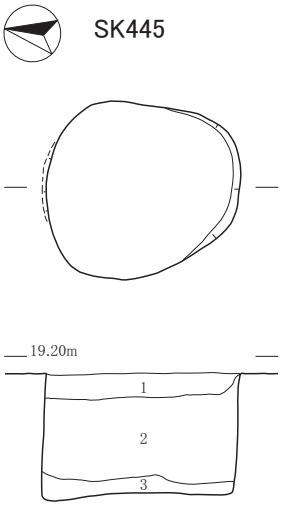
SK414
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状小2%、地山粒状小～中3%・塊状中3%混入



SK417
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状小～中2%、地山粒状小～中5%混入



SK418
1　褐色(10YR4/4)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状極小2%、地山粒状小3%混入



SK445
1　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト　しまり強、粘性やや弱
　炭化物粒状小2%、地山粒状小～中2%混入
2　暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状小～中3%・塊状小～中3%、
　地山粒状小～中3%混入
3　灰オリーブ色(5Y5/2)シルト　しまりやや強、粘性やや強
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%混入

0　S=1/40　2m

第38図　ＳＫ412・413・414・417・418・445

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ417】（第38図、図版８-12）

《位置・確認》ＬＴ23・24に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。南西端を僅かに旧水路で削られている。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北西－南東）1.00ｍ、短軸（北東－南西）0.91ｍ、深さ0.14ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ418】（第38図、図版８-13）

《位置・確認》ＬＴ・ＭＡ24に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。中央よりやや北寄りを暗渠が東西に横切っている。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北－南）0.91ｍ、短軸（東－西）0.87ｍ、深さ0.18ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ445】（第38図、図版８-14）

《位置・確認》ＬＳ21に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北西－南東）1.09ｍ、短軸（北東－南西）0.96ｍ、深さ0.66ｍである。

《壁・底面》壁の傾きはほぼ垂直で、北側は僅かにオーバーハングしている。底面はほぼ平坦である。

《堆積土》３層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ446】（第39図、図版８-15）

《位置・確認》ＬＳ52・53に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

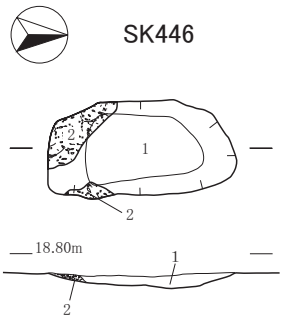
《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北－南）1.00ｍ、短軸（東－西）0.51ｍ、深さ0.07ｍである。

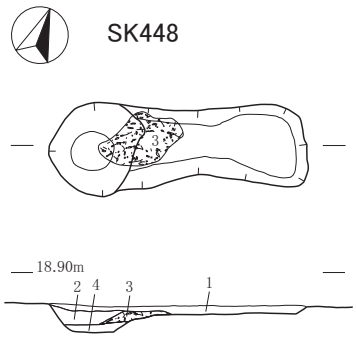
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》２層に分けられた。

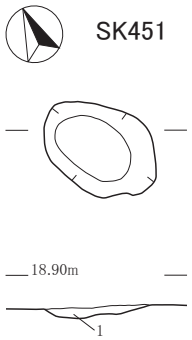
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。



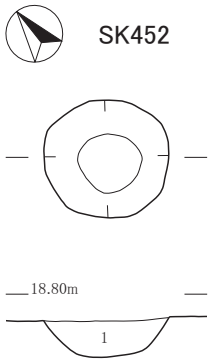
SK446
1　黒褐色(10YR3/2)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小25%、焼土塊状小2%混入
2　炭化物層



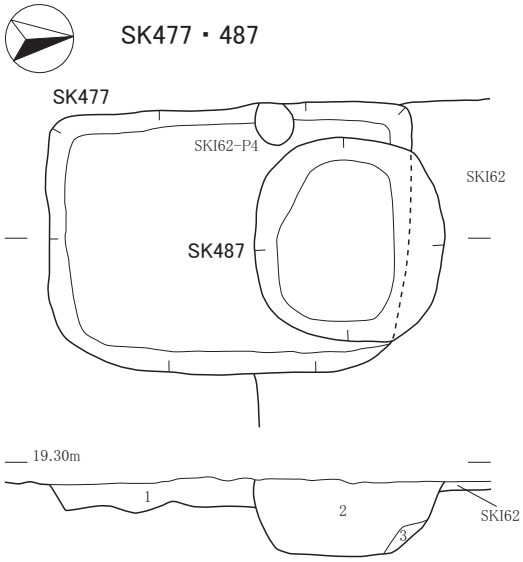
SK448
1　灰黄褐色(10YR5/2)シルト　しまり中、粘性やや強
　炭化物粒状小～中5%、焼土粒状小～中7%・塊状小7%
　地山粒状小～中3%混入
2　暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト　しまり中、粘性やや強
　炭化物粒状小2%、焼土粒状小1%、
　地山粒状小3%混入
3　黒色(10YR1.7/1)シルト、しまり中、粘性やや強
　炭化物粒状小～中15%、焼土粒状小2%、
　地山粒状小2%混入
4　黄褐色(2.5Y5/3)シルト　しまり中、粘性やや強
　炭化物粒状極小1%混入



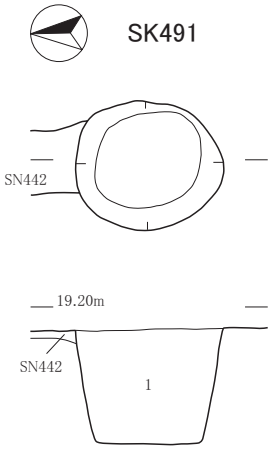
SK451
1　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状小～中3%、焼土粒状小7%・塊状小7%、
　地山粒状小～大3%混入



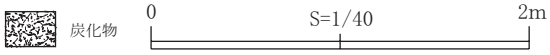
SK452
1　褐灰色(10YR5/1)シルト　しまり強、粘性やや強
　炭化物粒状小10%混入



SK477
1　褐色(10YR4/4)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状小1%、地山粒状小～中5%混入
SK487
2　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状小2%、地山粒状小～中3%混入
3　褐色(10YR4/6)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%混入



SK491
1　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト　しまり強、粘性中
　炭化物粒状小～中3%、地山粒状小2%混入



第39図　ＳＫ446・448・451・452・477・487・491

【ＳＫ448】（第39図、図版９－１）

《位置・確認》ＬＳ52に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北東－南西）1.36m、短軸（北西－南東）0.50m、深さ0.14mである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は南西側が窪み、ほかは平坦である。

《堆積土》４層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ451】（第39図、図版９－２）

《位置・確認》ＬＴ・ＭＡ51に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北西－南東）0.66m、短軸（北東－南西）0.47m、深さ0.06mである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はやや凸凹している。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ452】（第39図、図版９－３）

《位置・確認》ＬＴ52・53に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は円形である。規模は長軸（北西－南東）0.66m、短軸（北東－南西）0.62m、深さ0.19mである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ476】（第36図、図版９－４）

《位置・確認》ＬＴ28・29、ＭＡ29に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＤ94、ＳＫ221と重複する。新旧は本遺構の方が古い。

《平面形・規模》残存部の平面形は楕円形である。規模は長軸（北西－南東）1.08m、短軸（北東－南西）0.88m、深さ0.76mである。

《壁・底面》壁の傾きは北西側が緩やかで、以外はほぼ垂直である。南東側は僅かにオーバーハングしている。底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

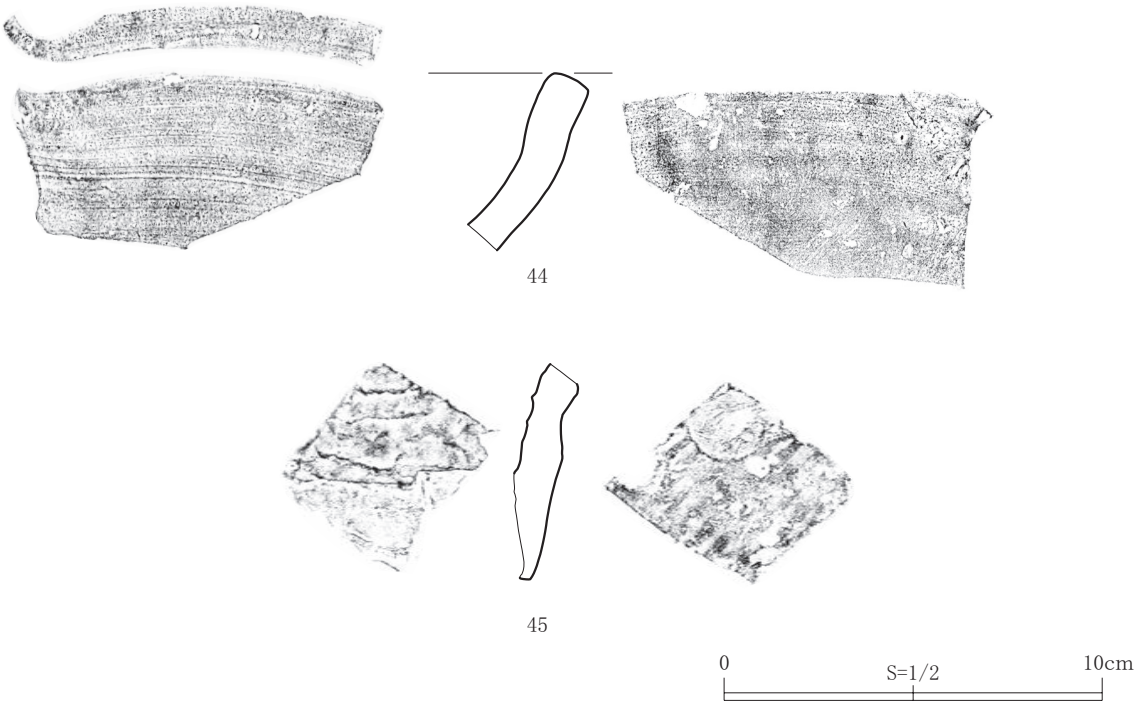
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ477】（第39図、図版９－５）

《位置・確認》ＬＳ・ＬＴ33に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＩ62、ＳＫ487と重複する。新旧は本遺構の方がＳＩ62より新しく、ＳＫ487より古い。

《平面形・規模》北側をＳＫ487に切られているが、その平面形は隅丸方形を呈すものと推測される。



第40図　土坑出土遺物（Ａ区）

第15表　土坑出土遺物一覧表（Ａ区）

挿図番号	図版番号	遺構名	種別	器種	部位	法　量〔cm〕			備　考
						口径	底径	器高	
40-44	17-52	SK154	須恵器系陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
45	53	SK173	須恵器	甕	胴部	—	—	—	９世紀代

残存部の規模は長軸（北東－南西）1.93m、短軸（北－南）1.42m、深さ0.16mである。

《壁・底面》壁の傾きはやや急で、底面は幾らか凸凹している。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ487】（第39図、図版９－５）

《位置・確認》ＬＳ・ＬＴ33に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＩ62、ＳＫ477と重複する。新旧は本遺構の方が古い。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（東－西）1.08m、短軸（北－南）1.01m、深さ0.40mである。

《壁・底面》壁の傾きは南側がやや急で、北側は緩やかである。底面は平坦である。

《堆積土》２層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ491】（第39図、図版９－６）

《位置・確認》ＭＡ27・28に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（北－南）1.39m、短軸（東－西）0.66m、深さ0.61mである。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

（８）火葬施設

【ＳＫＣ427】（第41図、図版９－７・８・９）

《位置・確認》ＭＡ・ＭＢ73に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円を基調として、東壁中央に張り出しを持つ凸形である。規模は長軸（北－南）1.04m、短軸（東－西）0.58m、深さ0.10mで、張り出し部の大きさは長さ0.27m、幅0.34mである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。壁と底面は全体的に被熱によって赤変している。

《堆積土》５層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》放射性年代測定から中世に帰属する。

【ＳＫＣ447】（第41図、図版９-10・11・12）

《位置・確認》ＬＴ52に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。南西側が攪乱で多少削られている。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円を基調として、東西両壁中央に張り出しを持つ十字形である。規模は長軸1.24m、短軸0.45m、深さ0.15mで、張り出し部の大きさは、東側が長さ0.20m、幅0.28m、西側が長さ0.25m、幅0.26mである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は中央部が窪み、他は平坦である。壁と底面は全体的に被熱によって赤変している。

《堆積土》３層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》２層から焼骨片が出土した。遺物から遺構は中世に帰属する。

【ＳＫＣ449】（第41図、図版９-13・14・15）

《位置・確認》ＭＡ67に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

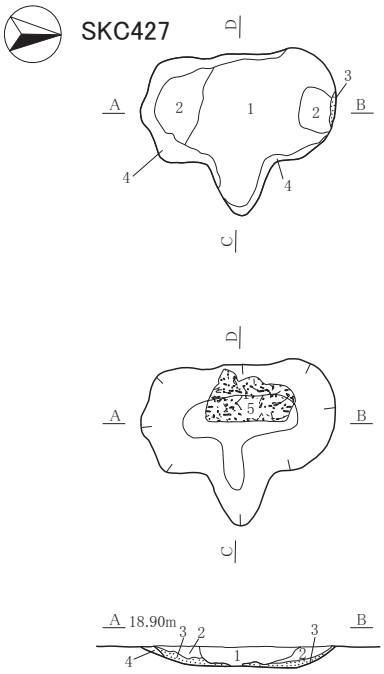
《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円を基調として、東西両壁中央に張り出しを持つ十字形である。規模は長軸1.25m、短軸0.63m、深さ0.12mで、張り出し部の大きさは、東側が長さ0.12m、幅0.37m、西側が長さ0.21m、幅0.32mである。

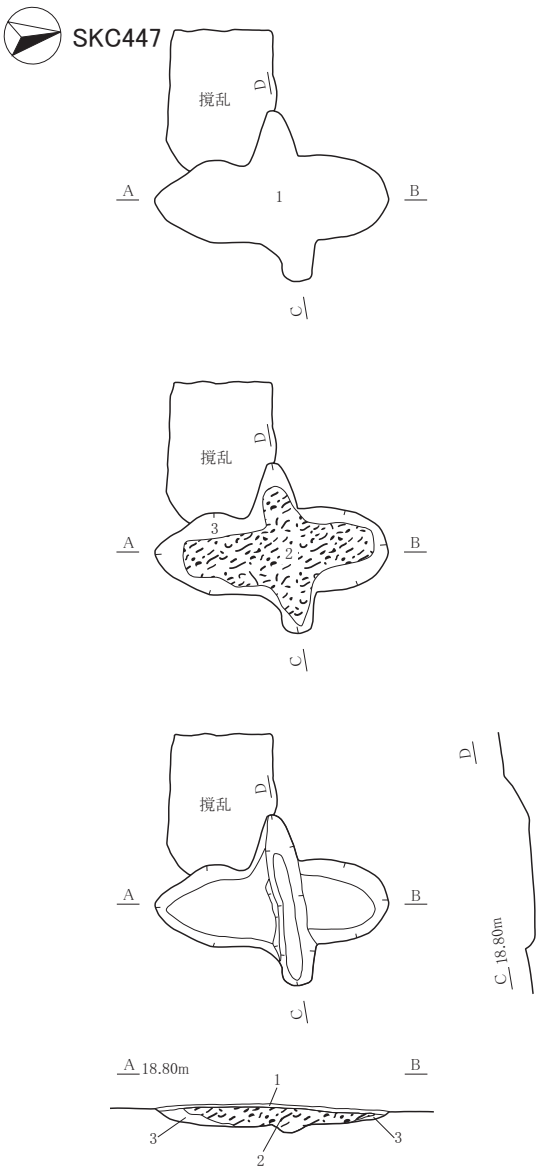
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

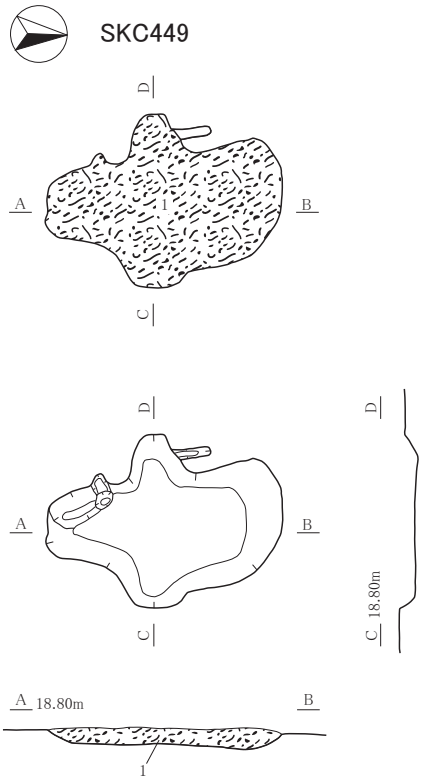
《出土遺物と遺構帰属時期》１層から焼骨片が出土した（図版34）。遺物から遺構は中世に帰属する。



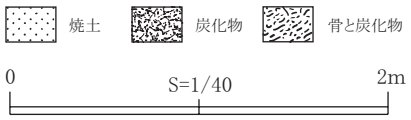
SKC427
1　褐灰色(10YR4/1)シルト　しまり強、粘性中
　　炭化物塊状極小～小2%混入
2　暗褐色(10YR3/4)シルト　しまり強、粘性中
　　炭化物塊状小1%混入
3　暗赤褐色(5YR3/2)シルト　しまりやや強、粘性中
　　炭化物粒状極小～小3%、赤褐色土板状中30%
　　黒色土塊状小7%混入
4　にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　しまりやや強、粘性中
　　炭化物板状薄い20%、焼土板状極薄い7%混入
5　炭化物層



SKC447
1　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまりやや強、粘性やや弱
　　炭化物塊状小～中10%、焼土板状薄い2%混入
2　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまり強、粘性やや弱
　　炭化物粒状小～中7%・塊状小～中7%、焼土塊状小～中2%、
　　焼骨片2%混入
3　暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト　しまりやや強、粘性やや強
　　炭化物粒状小2%、地山粒状小3%混入



SKC449
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　　炭化物粒状極小～中5%・塊状極小～中5%
　　焼土塊状小～中5%、焼骨片1%混入



第41図　ＳＫＣ427・447・449

（９）溝跡

【ＳＤ94】（第42図、図版10−１）

《位置・確認》ＬＪ33・34、ＬＬ31・32、ＬＰ30・31、ＬＱ30・31、ＬＲ29・30、ＬＳ29・30、ＬＴ29・30、ＭＡ28・29、ＭＢ28・29に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＫ220・221・476と重複する。新旧は本遺構の方が古い。

《規模》確認した範囲で長さ21.24ｍ、幅2.44〜3.28ｍ、深さ0.48〜0.67ｍである。東－西に向かって深さを増しながら延びている。北東－南東方向に延びており、両端とも調査区外に延伸している。

《壁・底面》壁の傾きはやや急で、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》３層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》須恵器系陶器片が９点出土した（うち７点を掲載した：第44図〜45図、図版18）。遺物から遺構は中世に帰属する。

【ＳＤ219】（第43図、図版10−２）

《位置・確認》ＭＡ28に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＫＰ326と重複する。新旧は本遺構の方が古い。

《規模》確認した範囲で長さ2.71ｍ、幅0.06〜0.27ｍ、深さ0.06ｍである。中央で一旦長さ0.19ｍほど途切れるが、北－南－西方向に延びており、西端が調査区外に延伸している。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＤ256】（第43図、図版10−３）

《位置・確認》ＭＡ46・47に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《規模》確認した範囲で長さ6.54ｍ、幅0.20〜0.30ｍ、深さ0.05ｍである。北西－南東方向に延びており、北西端は調査区外に延伸している。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＤ332】（第43図、図版10−４）

《位置・確認》ＭＡ30・31、ＭＢ30・31に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＫ331、ＳＫＰ351と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《規模》長さ2.16ｍ、幅0.17〜0.30ｍ、深さ0.08ｍである。北－南方向に延びている。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はやや鍋底状である。

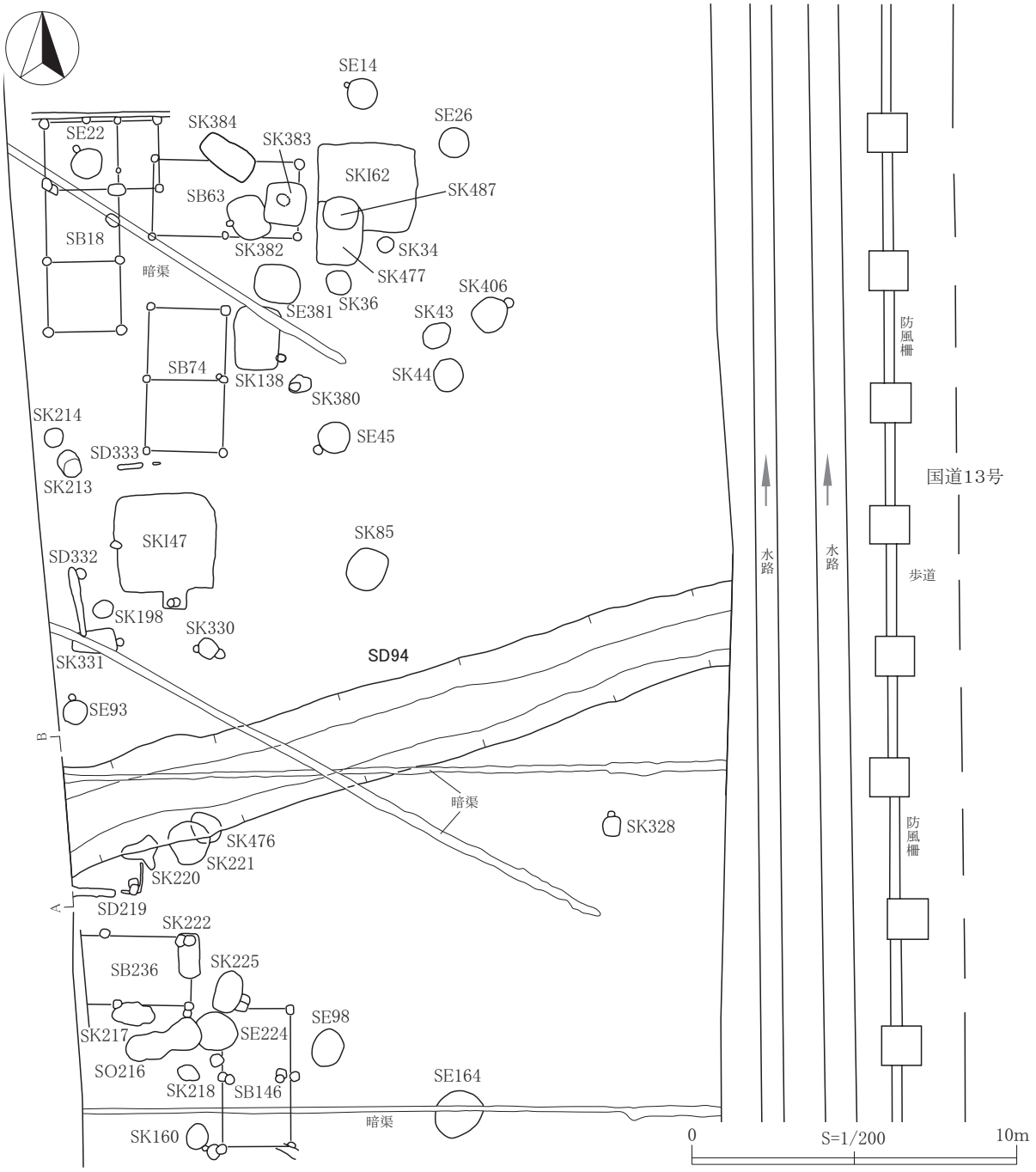
《堆積土》１層である。

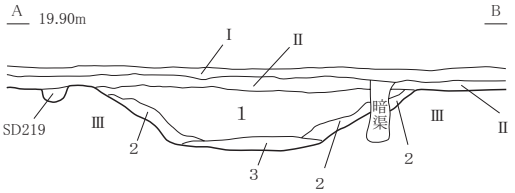
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＤ333】（第43図、図版10−５）

《位置・確認》ＭＡ31に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

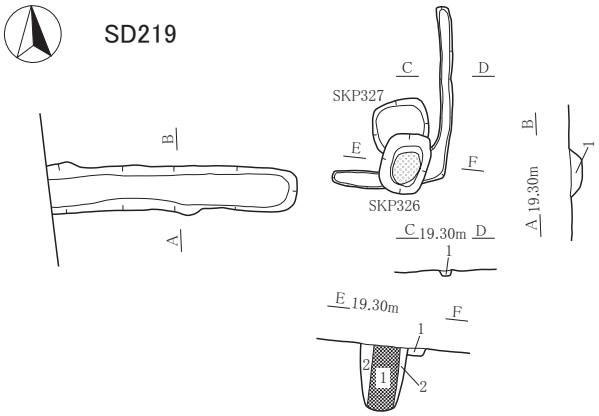




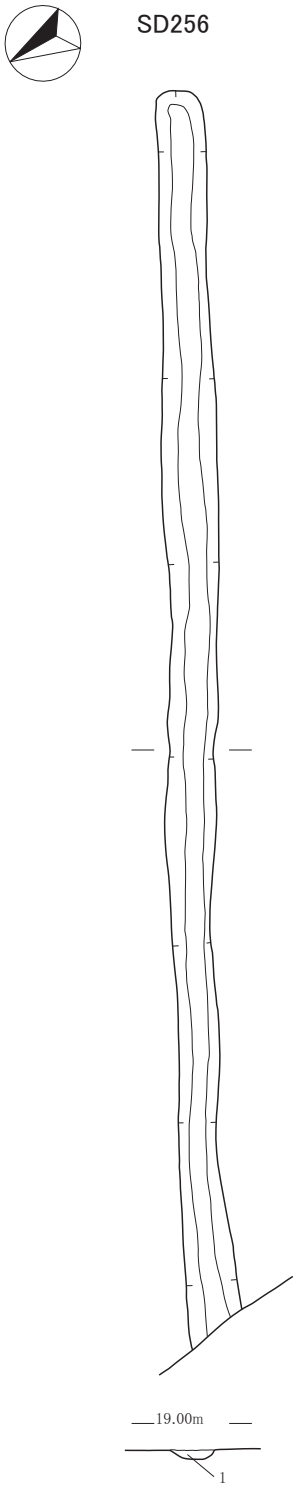
SD94
1　暗褐色(10YR3/3)シルト　しまりやや強、粘性中
　炭化物粒状小1%、地山粒状小2%混入
2　暗褐色(10YR3/3)シルト　しまり中、粘性中
　炭化物粒状小～中1%、
　地山粒状小～大5%・塊状小5%混入
3　灰色(5Y4/1)シルト　しまり中、粘性やや強

0　S=1/80　5m

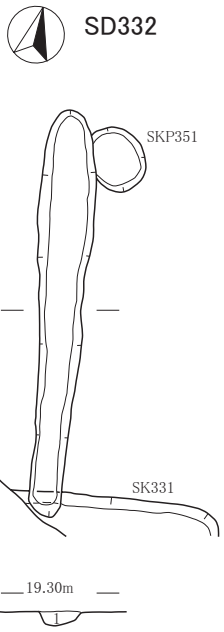
第42図　ＳＤ94（Ａ区）



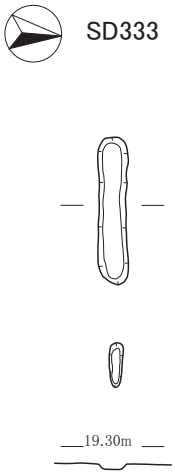
SD219
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり強、粘性中
　　炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小3%混入



SD256
1　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　しまり強、粘性中
　　炭化物粒状小1%、地山粒状2%混入

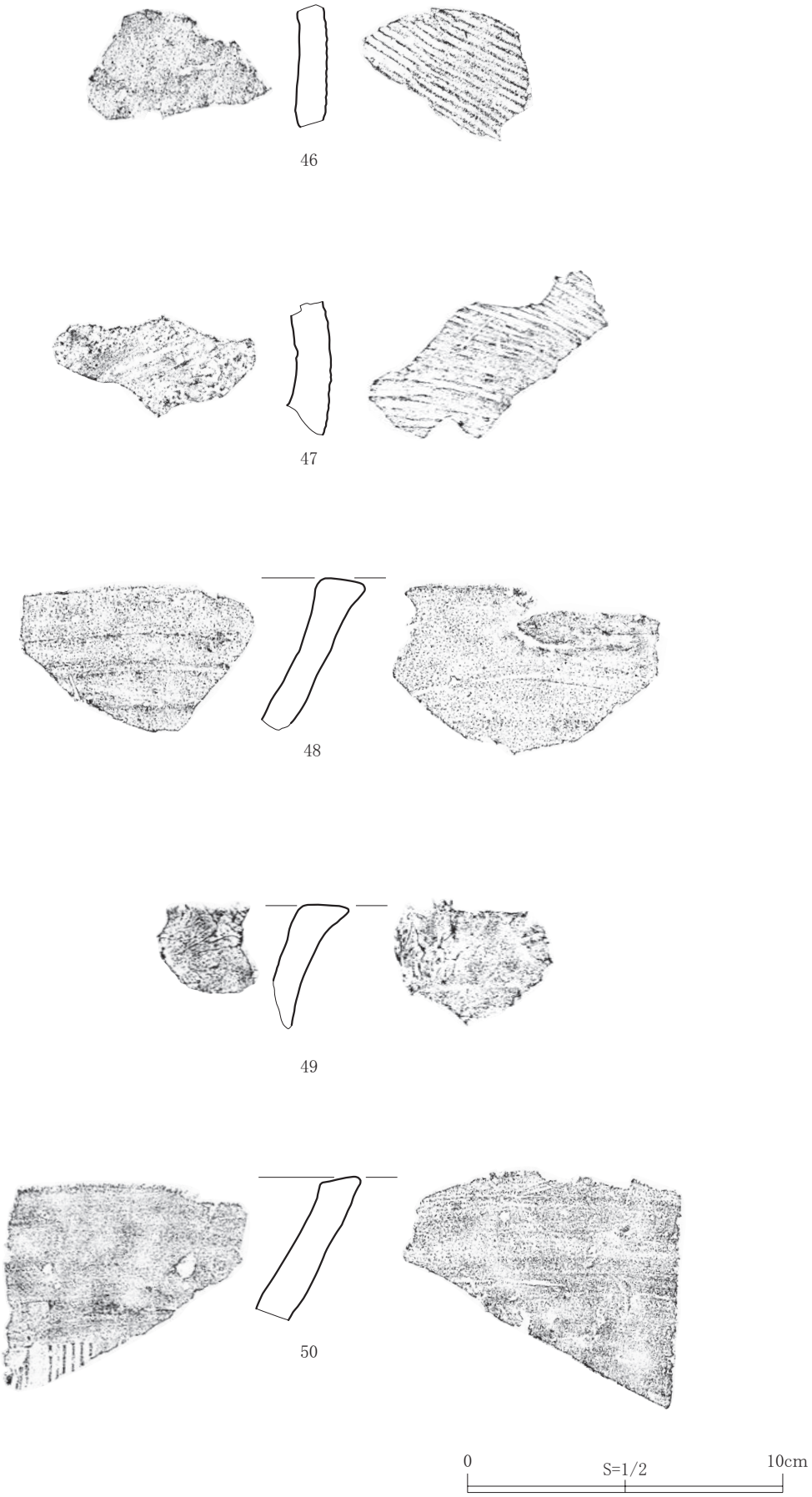


SD332
1　褐色(10YR4/4)シルト　しまり強、粘性中
　　炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%混入

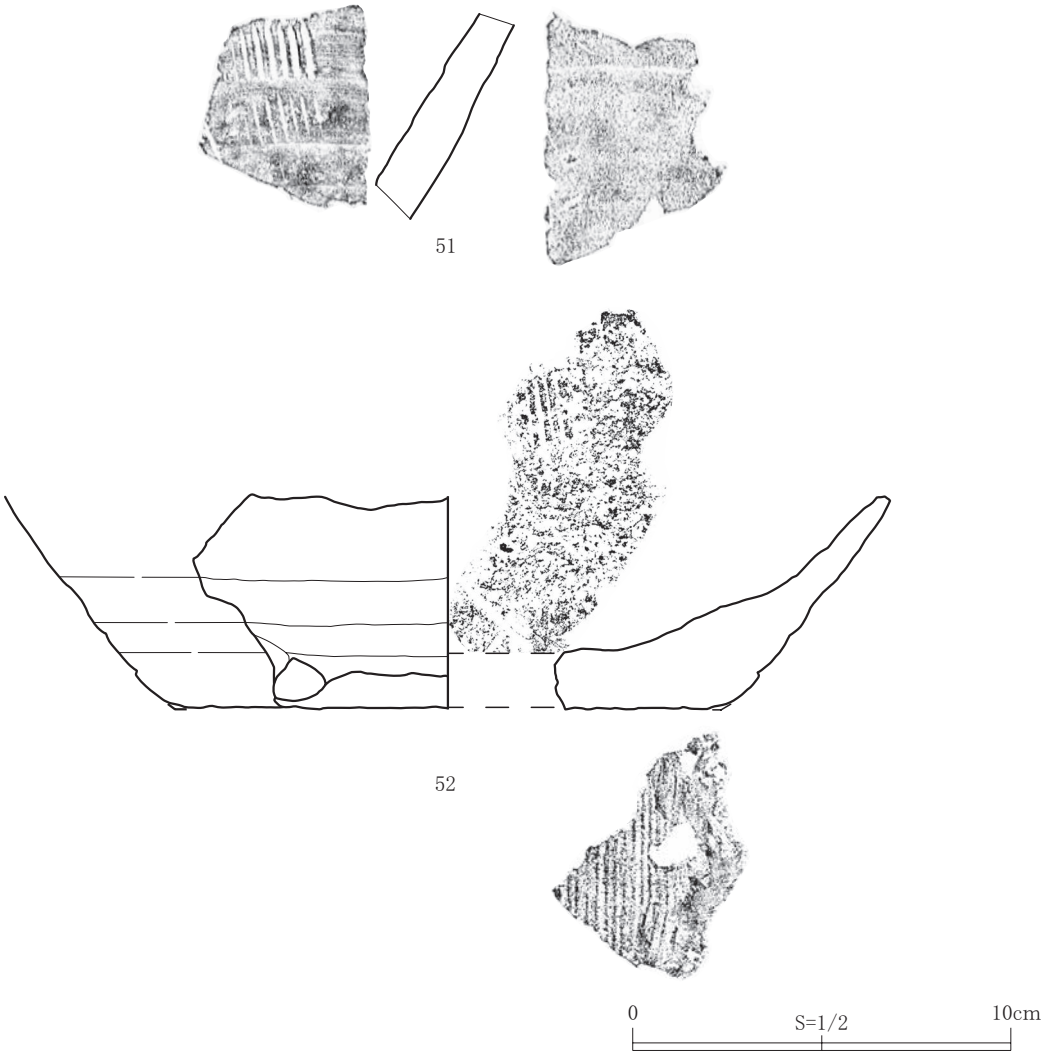


柱痕跡　0　S=1/40　2m

第43図　ＳＤ219・256・332・333



第44図　溝跡出土遺物（Ａ区）（１）



第45図　溝跡出土遺物（Ａ区）（２）

第16表　溝跡出土遺物一覧表（Ａ区）

挿図番号	図版番号	遺構名	種別	器種	部位	法　量〔cm〕			備　考
						口径	底径	器高	
44-46	18-54	SD94	須恵器系陶器	甕壺類	胴部	—	—	—	珠洲系
47	55	SD94	須恵器系陶器	甕壺類	胴部	—	—	—	珠洲系
48	56	SD94	須恵器系陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
49	57	SD94	須恵器系陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
50	58	SD94	須恵器系陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
45-51	59	SD94	須恵器系陶器	擂鉢	胴部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
52	60	SD94	須恵器系陶器	擂鉢	胴部～底部	—	[14.4]	—	珠洲系　13世紀～14世紀 底部外面に糸切り痕が認められる。

※［　］内の数値は推定値である。

《規模》確認した範囲で長さ1.02m、幅0.06～0.16m、深さ0.03mである。東側は一旦0.30mほど途切れて僅かに残っており、さらに東側に延びていたものと推測される。西側は調査区外となる。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

（10）柱穴様ピット

Ａ区で検出された柱穴様ピットはＡ区南部23ライン～37ライン間の第Ⅲ層上面で315基、北部47ライン～59ライン間の第Ⅲ層上面で９基の計324基を検出した。これらの柱穴様ピットでは柱痕跡を確認できるものもあったが規則的な配列は認められず、掘立柱建物跡を復元するまでに至らなかった。平面形は円形や楕円形、方形を呈しており、その大きさは長軸0.12～0.49m、短軸0.10～0.46m、深さ0.03～0.65mである。柱痕跡を77基の柱穴で確認した。柱痕跡は径0.09m～0.27mの円形である。堆積土は暗褐色土（10ＹＲ3/4）・褐灰色土（10ＹＲ4/1）・灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）・にぶい灰黄褐色土（10ＹＲ4/3・10ＹＲ5/3・10ＹＲ5/4）・褐色土（10ＹＲ4/4・10ＹＲ4/6）である。ＳＫＰ272から種実類が出土したが、それ以外からは遺物は出土しなかった。個々の柱穴は第17～24表のとおりである。

（11）遺構外出土遺物

出土した遺物は、土師器、須恵器系陶器、青磁、砥石、銭貨である。これらの遺物は遺構が集中するＡ区南部から少量出土した。

１）土師器

土師器の破片が１点（第46図53、図版18－61）出土した。53は底部片である。非ロクロ成形である。外面・内面ともナデ調整が認められる。また、底面には籾と藁の圧痕が見られる。

２）須恵器系陶器

須恵器系陶器の甕か壺の破片が１点（第46図54、図版18－62）、擂鉢の破片が６点（第46図55・56、第47図57～60、図版18－63～65、図版19－66～68）出土した。54は胴部片である。成形はロクロで行われ、成形後の調整は外面が平行叩きされており、内面には当て具痕が認められる。55・56は口縁から胴部の破片、57～59は胴部、60は胴部～底部の破片である。55・56・57の成形はロクロで行われ、成形後の調整は内外面とも認められない。58・59・60も成形はロクロで行われ、成形後の調整は外面には認められないが、内面には底面から口縁に向けてほぼ直線に卸目が施されている。胎土は砂粒を多く含み緻密で、焼成は良好である。

３）青磁

青磁の破片が１点（図版19－69）出土した。69は碗の胴部片である。鎬蓮弁文が施されている。

４）砥石

砥石が１点（第48図61、図版19－70）出土した。ＭＢ35の第Ⅲ層から出土した。大きさは残存長9.7cm、幅4.2cm、厚さ2.1cmであり、石材は凝灰岩である。両面を使用面としている。

５）銭貨

Ａ区南部の中央付近で１枚（第48図62、図版19－71）表採した。江戸時代に流通した「寛永通寶」であり、背（銭の裏）には文字が刻まれていない。

第17表　柱穴様ピット一覧表（Ａ区）（１）

SKP番号	検出グリッド	平面形	大きさ〔m〕長軸	短軸	深さ	底面標高〔m〕	層位	土色	土性	備考	
01	ＭＢ36	円形	0.12	0.12	0.12	19.05	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
02	ＭＡ36 ＭＢ36	楕円形	0.25	0.21	0.08	19.07	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状3%	
05	ＬＴ36	楕円形	0.31	0.22	0.22	18.96	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小～大3%、地山粒状小～中3%	
06	ＬＴ35 ＬＴ36	楕円形	0.13	0.13	0.16	19.01	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
07	ＬＳ36	楕円形	0.16	0.15	0.09	19.09	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
08	ＬＳ36	楕円形	0.25	0.24	0.29	18.86	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状中3%	
09	ＬＴ36	楕円形	0.23	0.18	0.10	19.07	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状中3%	
12	ＬＴ35	楕円形	0.40	0.39	0.33	18.87	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小～中3%、地山粒状小～中5%	>SKP121
13	ＭＡ36	楕円形	0.34	0.25	0.27	18.92	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小3%	
15	ＬＴ34	楕円形	0.24	0.22	0.15	19.01	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小～中3%	
16	ＬＴ34	楕円形	0.20	0.17	0.29	18.84	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小～中2%、地山粒状小3%	
17	ＭＡ34	楕円形	0.32	0.30	0.18	19.00	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状小3%、地山粒状小～中5%	
20	ＭＡ34	楕円形	0.16	0.13	0.20	18.98	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小～大2%、焼土粒状小1%、地山粒状小3%	
21	ＭＡ34	楕円形	0.24	(0.19)	0.19	18.98	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状小1%、地山粒状小2%	<暗渠
23	ＬＳ35 ＬＴ35	楕円形	0.29	0.27	0.13	19.06	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物塊状小2%、地山粒状小～中3%	
24	ＭＡ33	楕円形	0.42	0.34	0.31	18.88	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、焼土塊状小1%、地山粒状小5%	
25	ＭＡ33	楕円形	0.31	0.28	0.15	19.05	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡 径0.12m 円形
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	
28	ＬＲ34	楕円形	0.20	0.20	0.09	19.13	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
29	ＬＳ33	楕円形	0.15	0.13	0.12	19.12	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	
30	ＬＳ33	楕円形	0.25	0.18	0.04	19.17	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
31	ＬＳ33	楕円形	0.28	0.25	0.23	18.95	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	
32	ＬＳ33	楕円形	0.16	0.14	0.18	19.05	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土塊状小1%、地山粒状小3%	
33	ＬＳ33	楕円形	0.17	0.14	0.16	19.05	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
37	ＬＳ33	楕円形	0.34	0.31	0.23	18.99	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
38	ＬＳ33	楕円形	0.18	0.16	0.13	19.05	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
39	ＬＳ33	楕円形	0.18	0.14	0.20	18.99	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
40	ＬＳ33	楕円形	0.17	0.16	0.20	19.03	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
41	ＬＳ33	楕円形	0.25	0.24	0.19	19.01	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
42	ＬＳ32	楕円形	0.34	0.25	0.21	19.02	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土塊状大5%、地山粒状小～中3%	
46	ＬＴ32	楕円形	0.29	0.26	0.42	18.75	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、焼土粒状小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡 径0.24m 円形
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	
48	ＭＡ30	楕円形	0.30	0.25	0.06	19.05	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小3%	
49	ＬＴ32	楕円形	0.36	0.26	0.26	18.88	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土塊状小1%、地山粒状小3%	
50	ＬＴ32	楕円形	0.19	0.12	0.14	19.01	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
51	ＬＳ31	方形	0.27	0.24	0.24	18.98	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡 径0.11m 円形
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	
52	ＬＳ31	楕円形	0.31	0.26	0.30	18.87	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡 径0.14m 円形
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	
53	ＬＴ31	楕円形	0.35	(0.25)	0.24	18.97	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡 径0.12m 円形
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	<SKP54
54	ＬＴ31	楕円形	0.20	0.18	0.20	18.98	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	>SKP53
59	ＬＴ31	方形	0.20	0.20	0.12	19.05	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状極小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡 径0.14m 円形
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状極小1%、地山粒状小～中7%	
60	ＬＴ31	楕円形	0.25	0.22	0.20	18.97	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小2%、焼土粒状極小1%、地山粒状小～中3%	１層：柱痕跡 径0.13m 円形
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	

※（　）内の平面形は推定形で、数値は残存値である。※重複は新>旧である。

第18表　柱穴様ピット一覧表（Ａ区）（２）

SKP番号	検出グリッド	平面形	大きさ〔m〕長軸	短軸	深さ	底面標高〔m〕	層位	土色	土性	備考	
61	ＬＴ31	楕円形	0.17	0.13	0.09	19.05	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	
67	ＭＢ34	楕円形	0.25	0.23	0.20	19.01	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状小1%、地山粒状小3%	>SKP395
68	ＭＢ33	楕円形	0.22	0.16	0.20	19.00	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	>SKP389
69	ＭＡ33	円形	0.22	0.20	0.16	19.01	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小3%	
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	
71	ＭＡ33	楕円形	0.18	0.13	0.03	19.10	1	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
72	ＭＡ33	楕円形	0.35	0.31	0.28	18.85	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	径0.12m 円形
73	ＭＡ33	楕円形	0.16	0.12	0.19	18.90	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、焼土粒状小1%、地山粒状小5%	
75	ＭＡ33	円形	0.30	0.29	0.22	18.90	1	にぶい黄褐色(10YR5/3)	シルト	炭化物粒状小～中1%、地山粒状小～中5%	
76	ＭＡ33	楕円形	0.17	0.15	0.12	19.00	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
77	ＭＡ33	楕円形	0.26	0.23	0.11	19.03	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小～中3%	
78	ＭＡ32	楕円形	0.24	0.20	0.35	18.89	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
80	ＬＴ32	楕円形	0.31	0.27	0.14	19.03	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小～中5%	
81	ＬＴ32 ＭＡ32	楕円形	0.34	0.32	0.34	18.84	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小～大7%	径0.17m 円形　>SKP367
82	ＬＴ32	円形	0.25	0.25	0.20	19.01	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中5%	径0.15m 円形
83	ＭＡ31	楕円形	0.20	0.17	0.12	19.04	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	>SKP354
84	ＬＳ31	楕円形	0.21	0.18	0.19	19.00	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
87	ＬＴ30	楕円形	0.26	0.22	0.26	18.93	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	
88	ＬＴ30	楕円形	0.19	0.18	0.14	19.00	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小3%	
89	ＭＡ30	楕円形	0.24	0.23	0.19	18.93	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中5%	径0.12m 円形　>SKP90
90	ＭＡ30	楕円形	(0.19)	0.18	0.13	18.96	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	<SKP89
91	ＭＡ30	方形	0.28	0.28	0.17	18.96	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	径0.12m 円形
92	ＭＢ30	楕円形	0.21	0.19	0.08	19.05	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	径0.10m 円形
96	ＬＳ27	方形	0.43	0.40	0.46	18.72	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.24m 円形
97	ＬＳ27	円形	0.35	0.33	0.15	19.05	1	黒褐色(10YR3/1)	シルト	炭化物粒状極小～中2%、焼土粒状小1%、地山粒状小～中3%	
							2	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中7%	
99	ＬＳ27 ＬＴ27	楕円形	0.49	0.44	0.29	18.90	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状小～中2%、地山粒状小3%	
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小1%	
102	ＬＳ34	方形	0.28	0.22	0.11	19.05	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	径0.11m 円形
103	ＬＳ35	楕円形	0.23	0.13	0.14	19.04	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状小5%、地山粒状小～中3%	
104	ＬＳ35	楕円形	0.26	0.19	0.34	18.85	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小～中3%	
105	ＬＳ35	楕円形	0.28	0.22	0.25	18.95	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物塊状小5%、地山粒状小～中3%	
106	ＬＳ35	楕円形	0.20	0.18	0.10	19.08	1	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	
108	ＬＳ27	楕円形	0.17	0.13	0.16	19.03	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
109	ＬＳ27	円形	0.17	0.16	0.08	19.11	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
110	ＬＳ27	方形	0.16	0.14	0.09	19.09	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小3%	
111	ＬＲ27	楕円形	0.21	0.17	0.28	18.92	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
112	ＬＳ27	楕円形	0.35	0.25	0.38	18.79	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
113	ＬＳ27	方形	0.34	0.25	0.44	18.75	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	地山粒状小～中5%	径0.18m 円形
114	ＬＳ27	楕円形	0.27	0.24	0.04	19.14	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	
115	ＬＳ35	円形	0.21	0.21	0.28	18.92	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
116	ＬＳ35	楕円形	0.26	0.19	0.25	18.91	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小～中3%	
118	ＬＳ36	楕円形	0.24	0.19	0.26	18.91	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
119	ＬＳ35	楕円形	0.29	0.26	0.23	18.95	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小～中3%	
120	ＬＳ35	円形	0.19	0.18	0.21	18.99	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小～中3%	
121	ＬＴ35	(楕円形)	0.12	(0.07)	0.19	19.01	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	<SKP12

※（　）内の平面形は推定形で、数値は残存値である。※重複は新>旧である。

第19表　柱穴様ピット一覧表（Ａ区）（３）

SKP番号	検出グリッド	平面形	大きさ〔m〕長軸	短軸	深さ	底面標高〔m〕	層位	土色	土性	備考	
123	ＬＲ36	楕円形	0.17	0.14	0.15	18.96	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
144	ＬＳ28	楕円形	0.40	0.37	0.08	19.12	1	褐色(10YR4/6)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
145	ＬＴ27 ＬＴ28	楕円形	0.26	0.23	0.03	19.12	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、焼土粒状極小1%、地山粒状小3%	
149	ＬＳ28	方形	0.17	0.16	0.14	19.04	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小3%	
150	ＬＳ28	方形	0.15	0.14	0.21	18.98	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
151	ＬＳ28	楕円形	0.35	0.33	0.26	18.92	1	黒褐色(10YR3/1)	シルト	炭化物粒状極小～中2%、焼土粒状小1%、地山粒状小～中5%、地山塊状小5%	
152	ＬＳ28	円形	0.26	0.25	0.34	18.84	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
155	ＬＴ25	楕円形	0.19	0.16	0.19	18.93	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
156	ＬＴ25	方形	0.30	0.28	0.19	18.87	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小～中1%、地山粒状小3%	
158	ＬＴ26	楕円形	0.19	0.16	0.03	19.07	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
161	ＬＴ26 ＭＡ26	方形	0.22	0.21	0.06	19.04	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小3%	
162	ＬＳ26	方形	0.48	0.44	0.48	18.72	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状小1%、地山粒状小～中7%	
163	ＬＳ25･26 ＬＴ25･26	方形	0.40	0.36	0.31	18.85	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小～中2%、炭化物塊状中～大2%、焼土粒状小1%、地山粒状小～中3%	
165	ＬＳ26	楕円形	0.32	0.27	0.14	18.95	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	>SKP312
170	ＬＳ25	楕円形	0.25	0.23	0.32	18.85	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小3%	
171	ＬＳ23 ＬＳ24	方形	0.40	0.37	0.49	18.63	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小～中3%	
172	ＬＲ23 ＬＳ23	方形	0.32	0.30	0.37	18.62	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小3%	>SKP475
180	ＬＳ23	(楕円形)	(0.30)	0.30	0.09	19.03	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小3%	
181	ＬＳ23	円形	0.14	0.14	0.04	19.08	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
182	ＬＳ23	円形	0.20	0.18	0.25	18.87	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
183	ＬＳ23	楕円形	0.21	0.17	0.33	18.81	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小3%	
184	ＬＳ23	楕円形	0.42	0.36	0.36	18.77	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、焼土粒状小1%、地山粒状小3%	
185	ＬＳ23	楕円形	0.39	0.34	0.57	18.57	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小～中2%、地山粒状小3%	
186	ＬＳ23	円形	0.15	0.14	0.08	19.06	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小2%	
191	ＭＡ33	方形	0.27	0.24	0.30	18.87	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状小1%、地山粒状小5%	１層：柱痕跡 径0.09m 円形
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	
192	ＭＡ33	方形	0.45	0.33	0.26	18.92	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状小～中5%、炭化物塊状小5%、地山粒状小3%	
193	ＭＡ32 ＭＢ32	方形	0.32	0.28	0.33	18.87	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡 径0.15m 円形
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小5%	
197	ＬＴ28	楕円形	0.29	0.24	0.20	18.94	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
199	ＭＡ30	方形	0.28	0.21	0.36	18.83	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	
201	ＬＴ26	方形	0.30	0.21	0.20	18.94	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡 径0.15m 円形
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	
202	ＬＴ25	楕円形	0.30	0.27	0.02	19.02	1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	焼土粒状小～中3%、黒色土塊状小～中7%、地山塊状小3%	
204	ＬＴ24	楕円形	0.17	0.13	0.16	18.89	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
205	ＬＴ24	楕円形	0.22	0.15	0.16	18.88	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、焼土粒状極小1%、地山粒状小3%	
206	ＬＴ24	方形	0.24	0.24	0.27	18.77	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
215	ＭＡ27	方形	0.30	0.29	0.39	18.74	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡 径0.19m 円形
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	
226	ＭＡ28	楕円形	0.22	0.21	0.28	18.88	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小3%	
227	ＬＴ28	楕円形	0.26	0.23	0.35	18.81	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小3%	
228	ＬＴ28 ＬＴ29	楕円形	0.18	0.17	0.32	18.87	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小3%	
230	ＭＡ28	円形	0.25	0.24	0.23	18.94	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小3%	
231	ＭＡ28	楕円形	0.25	0.24	0.40	18.78	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小3%	
232	ＭＡ28	方形	0.20	0.19	0.18	18.94	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	１層：柱痕跡 径0.18m 円形
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	
233	ＭＡ 28	楕円形	0.31	0.29	0.16	18.99	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小3%	

※（　）内の平面形は推定形で、数値は残存値である。※重複は新>旧である。

第20表　柱穴様ピット一覧表（Ａ区）（４）

SKP番号	検出グリッド	平面形	大きさ〔m〕長軸	短軸	深さ	底面標高〔m〕	層位	土色	土性	備考	
234	MA28	円形	0.19	0.19	0.28	18.87	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小3%	
235	ＬＴ28	楕円形	0.27	0.24	0.27	18.90	1	にぶい黄褐色(10YR5/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	
237	ＬＴ28 ＬＴ29	楕円形	0.30	0.25	0.32	18.88	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小3%	
238	ＬＳ29	楕円形	0.34	0.32	0.19	19.01	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小～中3%	
239	ＬＴ28	楕円形	0.25	0.23	0.43	18.77	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小～中2%、焼土粒状小1%、地山粒状小～中3%	
240	ＬＴ28	楕円形	0.21	0.18	0.10	19.10	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小～中5%	>SKP275
241	ＬＳ28	楕円形	0.25	0.24	0.09	19.11	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
242	ＬＳ27	楕円形	0.19	0.17	0.09	19.07	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
243	ＬＳ27	円形	0.19	0.17	0.11	19.05	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
245	ＬＴ27	楕円形	0.29	0.25	0.28	18.89	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、焼土粒状極小1%、地山粒状小3%	>SKP263
247	ＬＴ27	楕円形	0.26	0.24	0.39	18.75	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	>SKP246
248	ＬＴ27	円形	0.30	0.28	0.24	18.89	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状極小～中2%、地山粒状小3%	>SB146-P1
249	ＬＳ27	方形	0.15	0.15	0.38	18.80	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
250	ＬＲ27	円形	0.25	0.24	0.15	19.04	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	
251	MA27	楕円形	0.38	0.33	0.30	18.83	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.21m 円形 <SKP280
252	ＬＳ27 ＬＳ28	円形	0.16	0.16	0.21	18.96	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
253	ＬＴ28	方形	0.18	0.18	0.13	19.02	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
254	ＬＳ29	楕円形	0.44	0.40	0.12	19.09	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.27m 円形
255	MA28	円形	0.19	0.19	0.28	18.87	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
257	MB47 MB48	楕円形	0.23	0.18	0.19	19.25	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状中2%	
258	MA47	楕円形	0.21	0.16	0.09	19.36	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状中3%	
259	ＬＴ57	楕円形	0.30	0.28	0.07	19.10	1	暗褐色(10YR3/4)	シルト	炭化物粒状小3%、地山粒状小～中5%	
260	ＬＴ57	円形	0.19	0.19	0.10	19.07	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状中2%	
261	ＬＴ25	楕円形	0.30	0.23	0.20	18.85	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小3%	
262	MA 28	楕円形	0.36	(0.25)	0.40	18.75	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	<SB236-P3
263	ＬＴ 27	方形	0.39	(0.31)	0.25	18.91	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層:柱痕跡 径0.21m 円形
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	<SKP245 >SKP246
264	ＬＴ 27	方形	0.33	(0.26)	0.33	18.84	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径(0.16)m 円形<SKP263
265	ＬＴ 27	楕円形	0.35	(0.19)	0.44	18.70	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.17m 円形 <SKP247
266	ＬＴ 27	楕円形	0.29	0.26	0.32	18.84	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.11m 円形 <SKP267
267	ＬＴ 27	楕円形	0.29	0.20	0.06	19.08	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	>SKP266 >SKP268
268	ＬＴ 27	(楕円形)	0.15	(0.11)	0.07	19.08	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	<SKP267 <SKP269
269	ＬＴ 27	楕円形	0.30	0.27	0.17	18.97	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小～中5%	>SKP268
270	ＬＴ 27	方形	0.27	(0.24)	0.17	18.96	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.10m 円形 <SKP281
271	ＬＴ 27	方形	0.41	0.30	0.12	19.00	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.15m 円形 >SKP272
272	ＬＴ 27	方形	0.36	(0.24)	0.65	18.49	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.10m 円形 <SKP271
274	ＬＴ 28	方形	0.26	0.25	0.38	18.78	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.12m 円形
275	ＬＳ 28 ＬＴ 28	楕円形	0.32	0.24	0.37	18.82	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	<SKP240
276	ＬＴ 26	楕円形	0.46	(0.29)	0.12	18.99	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	１層:柱痕跡 径(0.09)m
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	円形 >SKP278 <SB146-P2
278	ＬＴ 26 MA 26	方形	0.19	0.17	0.14	18.98	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	<SKP276
279	ＬＴ 27	方形	0.39	0.39	0.51	18.63	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.19m 円形

※（　）内の平面形は推定形で、数値は残存値である。※重複は新>旧である。

第21表　柱穴様ピット一覧表（Ａ区）（５）

SKP番号	検出グリッド	平面形	大きさ〔m〕長軸	短軸	深さ	底面標高〔m〕	層位	土色	土性	備考	
280	MA27	円形	0.27	0.26	0.29	18.83	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	>SKP251
281	ＬＴ27	方形	0.30	0.26	0.32	18.83	1	にぶい黄褐色(10YR5/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.13m 円形　>SKP270
283	ＬＳ32	方形	0.30	0.29	0.39	18.83	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、焼土粒状小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡 径0.13m 円形
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	
284	ＬＳ31	楕円形	0.30	0.28	0.36	18.82	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.11m 円形
286	MA27	楕円形	0.25	(0.22)	0.24	18.89	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、炭化物塊状小2%、焼土粒状小1%、地山粒状小～中5%	<SB236-P4
287	MA30	楕円形	0.21	0.20	0.14	18.99	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
288	MA30	方形	0.32	0.28	0.34	18.79	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	径0.18m 円形
289	MA30	円形	0.23	0.23	0.18	18.94	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
290	MA30	方形	0.29	0.27	0.24	18.87	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	
291	MA29 MA30	円形	0.23	0.22	0.12	18.99	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	径0.14m 円形
292	MA30	楕円形	0.19	0.17	0.21	18.92	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
293	MA30 MB30	楕円形	0.26	0.22	0.32	18.83	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.12m 円形
294	MA30 MB30	楕円形	0.23	0.20	0.31	18.82	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
295	ＬＳ27 ＬＳ28	方形	0.22	0.21	0.28	18.88	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.09m 円形　>SKP296
296	ＬＳ27 ＬＳ28	楕円形	0.25	(0.20)	0.26	18.92	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡　径0.16m
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	円形　<SKP295　<SKP297
297	ＬＳ28	楕円形	0.32	0.28	0.36	18.82	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	径0.17m 円形　>SKP296
298	ＬＳ28	楕円形	0.29	0.26	0.25	18.93	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.09m 円形
301	ＬＴ28	楕円形	0.29	0.29	0.47	18.73	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小～中3%	
302	ＬＳ28	楕円形	0.24	0.22	0.49	18.71	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
303	ＬＳ28	楕円形	0.28	0.25	0.36	18.84	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.16m 円形
304	ＬＳ28	楕円形	0.32	0.29	0.54	18.66	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡
							2	黄褐色(10YR5/6)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.14m 円形
305	ＬＴ27	円形	0.30	0.28	0.35	18.82	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	
306	ＬＴ27	方形	0.39	0.30	0.47	18.70	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	径0.15m 円形
307	ＬＴ28	楕円形	0.25	0.23	0.35	18.82	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小～中5%	径0.09m 円形　>SKP308
308	ＬＴ28	円形	0.23	0.23	0.18	18.99	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中5%	<SKP307
309	ＬＴ28	方形	0.29	0.23	0.42	18.76	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.12m 円形
310	ＬＳ26	方形	0.24	0.23	0.13	18.97	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.14m 円形　>SKP311
311	ＬＳ26	円形	0.29	0.29	0.36	18.74	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中5%	<SKP310
312	ＬＳ26	方形	0.23	(0.09)	0.34	18.76	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	径0.14m 円形
313	MA28	方形	0.28	0.28	0.32	18.83	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.11m 円形
314	MA28	方形	0.21	0.21	0.24	18.90	1	にぶい黄褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	
315	MA27	方形	0.24	0.24	0.13	18.96	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、炭化物塊状小2%、地山粒状小3%	径0.12m 円形
316	MA27	(楕円形)	0.32	0.19	0.10	18.99	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	径0.18m（円形）<暗渠
317	ＬＴ27	(楕円形)	(0.44)	0.36	0.19	18.95	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小～中2%、焼土粒状小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡 径(0.24)m 円形
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	<暗渠

※（　）内の平面形は推定形で、数値は残存値である。※重複は新>旧である。

第22表　柱穴様ピット一覧表（Ａ区）（６）

SKP番号	検出グリッド	平面形	大きさ〔m〕長軸	短軸	深さ	底面標高〔m〕	層位	土色	土性	備考	
318	ＬＴ27	方形	0.35	(0.12)	0.41	18.70	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中7%	径0.17m 円形
320	ＬＴ26	楕円形	0.30	0.26	0.39	18.77	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	径0.13m 円形
321	ＬＴ25	方形	0.31	0.26	0.30	18.86	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小～中3%、地山粒状小～中3%、地山塊状大3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小～中5%	径0.14m 円形
322	ＬＳ34	楕円形	0.15	0.13	0.08	19.10	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	
323	ＬＳ34	楕円形	0.22	0.17	0.09	19.09	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
324	ＬＲ34	楕円形	0.22	0.19	0.07	19.13	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	
326	ＭＡ28	方形	0.33	0.24	0.35	18.77	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	径0.16m 円形　>SKP327
327	ＭＡ28	方形	0.30	(0.18)	0.09	19.03	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小7%	<SKP326
329	ＬＲ26	(円形)	0.25	(0.13)	0.25	18.88	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状小2%、炭化物塊状小2%、地山粒状小3%	
334	ＬＴ30	楕円形	0.25	0.21	0.31	18.80	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、焼土粒状小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中5%	径0.17m 円形
335	ＬＴ30	楕円形	0.24	0.19	0.18	18.94	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	
336	ＬＴ30	楕円形	0.24	0.21	0.21	18.93	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、焼土粒状小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～大5%	径0.11m 円形
337	ＭＡ29	楕円形	0.18	0.14	0.15	18.94	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中5%	
338	ＭＡ29	楕円形	0.20	0.18	0.16	18.98	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中5%	
339	ＭＡ30	円形	0.16	0.16	0.11	19.00	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
340	ＭＡ30	楕円形	0.15	0.14	0.12	18.99	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小3%	
341	ＭＡ30	楕円形	0.15	0.14	0.16	18.95	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	
342	ＭＡ30	楕円形	0.23	0.20	0.12	19.00	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	>SK330
343	ＬＴ30	楕円形	0.30	(0.29)	0.29	18.82	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、炭化物塊状小2%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/6)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～大10%	径0.13m 円形 <SK330
344	ＭＡ30	楕円形	0.20	0.14	0.09	19.04	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	径0.12m 円形
345	ＬＴ30	楕円形	0.23	0.20	0.21	18.97	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
346	ＭＡ30	楕円形	0.20	0.19	0.13	18.98	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
347	ＭＡ30	楕円形	0.21	0.19	0.15	18.98	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	
348	ＭＡ30	円形	0.24	(0.23)	0.24	18.91	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小3%	<SK331
349	ＭＢ30	楕円形	0.16	0.14	0.05	19.07	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	>SKP350
350	ＭＡ30 ＭＢ30	楕円形	0.18	0.16	0.05	19.06	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	<SKP349
351	ＭＡ31	楕円形	0.35	0.28	0.06	19.11	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	
352	ＭＢ31	楕円形	0.19	0.16	0.10	19.08	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小～中3%	
353	ＭＡ31	楕円形	(0.36)	0.35	0.17	19.02	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	<ほにょ跡
354	ＭＢ31	楕円形	0.25	0.21	0.07	19.11	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	<SKP83
355	ＭＡ31	楕円形	0.18	0.15	0.04	19.16	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状小1%、地山粒状小～中5%	
356	ＭＡ31	楕円形	0.22	0.18	0.09	19.10	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小3%	
357	ＭＡ31	楕円形	0.23	0.19	0.06	19.16	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中5%	
358	ＬＴ31	楕円形	0.21	0.20	0.15	19.06	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小～中3%	
359	ＬＴ31	楕円形	0.18	0.14	0.16	19.06	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	
360	ＬＴ31	楕円形	0.23	0.19	0.10	19.07	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
361	ＬＴ31	楕円形	0.24	0.20	0.18	19.01	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	径0.10m 円形
362	ＬＴ31	楕円形	0.15	0.13	0.10	19.10	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小～中3%	
364	ＬＴ32	楕円形	0.22	0.19	0.15	19.09	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小～大10%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小2%	径0.09m円形
365	ＭＡ32	楕円形	0.15	0.13	0.10	19.11	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小3%	
367	ＭＡ32	楕円形	(0.33)	0.25	0.18	18.99	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状小1%、地山粒状小～大10%、地山塊状小～大10%	径0.09m円形 <SKP81

※（　）内の平面形は推定形で、数値は残存値である。※重複は新>旧である。

第23表　柱穴様ピット一覧表（Ａ区）（７）

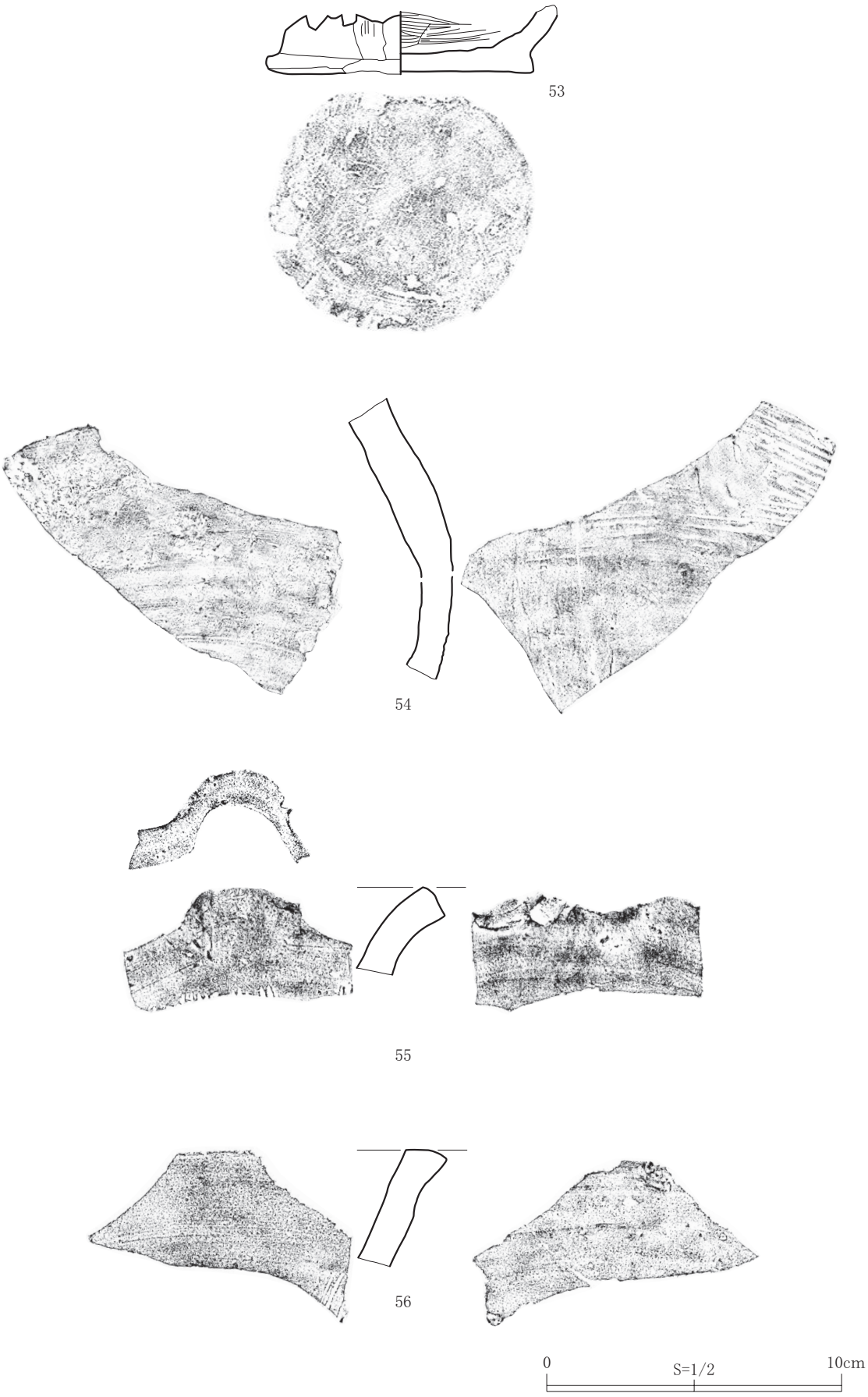
SKP番号	検出グリッド	平面形	大きさ〔m〕長軸	短軸	深さ	底面標高〔m〕	層位	土色	土性	備考	
369	MA32	楕円形	0.29	0.26	0.14	19.05	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小～小1%	径0.10m 円形
370	MA32 MB32	楕円形	0.34	0.32	0.33	18.88	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中5%	径0.13m 円形
371	MB32	楕円形	0.32	0.28	0.12	19.06	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～大5%、地山塊状小5%	径0.11m 円形
372	MB32	楕円形	0.29	0.29	0.23	18.97	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小～中2%、地山粒状小2%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状小2%、焼土粒状小1%、地山粒状小～大5%	径0.18m 円形 >SKP373
373	MB32	楕円形	0.26	(0.24)	0.09	19.10	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	<SKP372　<SKP374
374	MB32	楕円形	0.26	0.20	0.07	19.12	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小3%	>SKP373
376	MB32	楕円形	0.27	0.23	0.28	18.92	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.14m 円形
377	MA33	楕円形	0.21	0.20	0.15	19.07	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小～中3%	>SKP378
378	MA33 MB33	楕円形	0.23	(0.15)	0.15	19.08	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小3%	<SKP377
386	MB34	楕円形	0.25	(0.23)	0.07	19.10	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	
387	MB34	円形	0.14	0.14	0.08	19.13	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小3%	
388	MA34	楕円形	0.34	0.21	0.08	19.09	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小～中5%	
389	MB33	楕円形	0.18	0.16	0.21	18.99	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	<SKP68
390	MA34	楕円形	0.36	0.34	0.29	18.85	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小～大2%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.14m 円形
392	MA34	楕円形	0.21	0.19	0.18	19.00	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小～中2%、地山粒状小～中3%	
393	MA34	方形	0.33	0.28	0.24	18.91	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	径0.15m 円形
395	MB34	楕円形	0.22	(0.18)	0.20	19.00	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山状粒小3%	<SKP67
396	MA35 MB35	楕円形	(0.22)	0.20	0.23	18.95	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小～中2%、焼土粒状小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡 径0.14m円形
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状小1%	<SE22
397	MA34	楕円形	0.23	0.19	0.17	19.02	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、焼土粒状小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡 径0.12m 円形
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中5%	
398	MA34	楕円形	0.23	0.19	0.19	19.01	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
399	LT32	楕円形	0.19	0.14	0.10	19.10	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状小1%、地山粒状小3%	>SB74-P5
404	MB36	(楕円形)	0.23	(0.16)	0.22	18.96	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%、地山塊状小3%	<SB03-P1
405	MB36	楕円形	0.22	0.18	0.10	19.07	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
408	MA36	楕円形	0.19	0.15	0.06	19.14	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小3%	
409	LT30	円形	0.17	0.16	0.07	19.15	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
410	LT32	楕円形	0.13	0.10	0.13	19.03	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小3%	
411	LS32	楕円形	0.42	0.38	0.34	18.89	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小～中3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状小1%	径0.21m 円形
419	LT32	楕円形	0.30	0.22	0.15	19.01	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	にぶい黄褐色(10YR5/4)	シルト	炭化物粒状小1%	径0.15m 円形
420	LS30	楕円形	0.47	0.46	0.13	19.04	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	>SKP421
421	LS30	楕円形	0.22	(0.21)	0.14	19.05	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	<SKP420
422	LQ29	楕円形	0.27	0.27	0.35	18.78	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
423	LQ29	楕円形	0.24	0.22	0.32	18.81	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小3%	>SKP424
424	LQ29	楕円形	0.17	(0.16)	0.30	18.81	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	<SKP423
425	LQ29	方形	0.21	(0.16)	0.29	18.82	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、炭化物塊状小2%、地山粒状小3%	<SK328
426	LQ28 LQ29	円形	0.30	0.29	0.27	18.86	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、炭化物塊状小2%、地山粒状小～中5%	
428	LR33	楕円形	0.34	0.30	0.19	19.06	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小3%	
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小5%	
429	LR28 LR29	円形	0.18	0.16	0.29	18.93	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、地山粒状小5%	
430	LQ28	方形	0.17	0.17	0.32	18.84	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中5%	

※（　）内の平面形は推定形で、数値は残存値である。※重複は新>旧である。

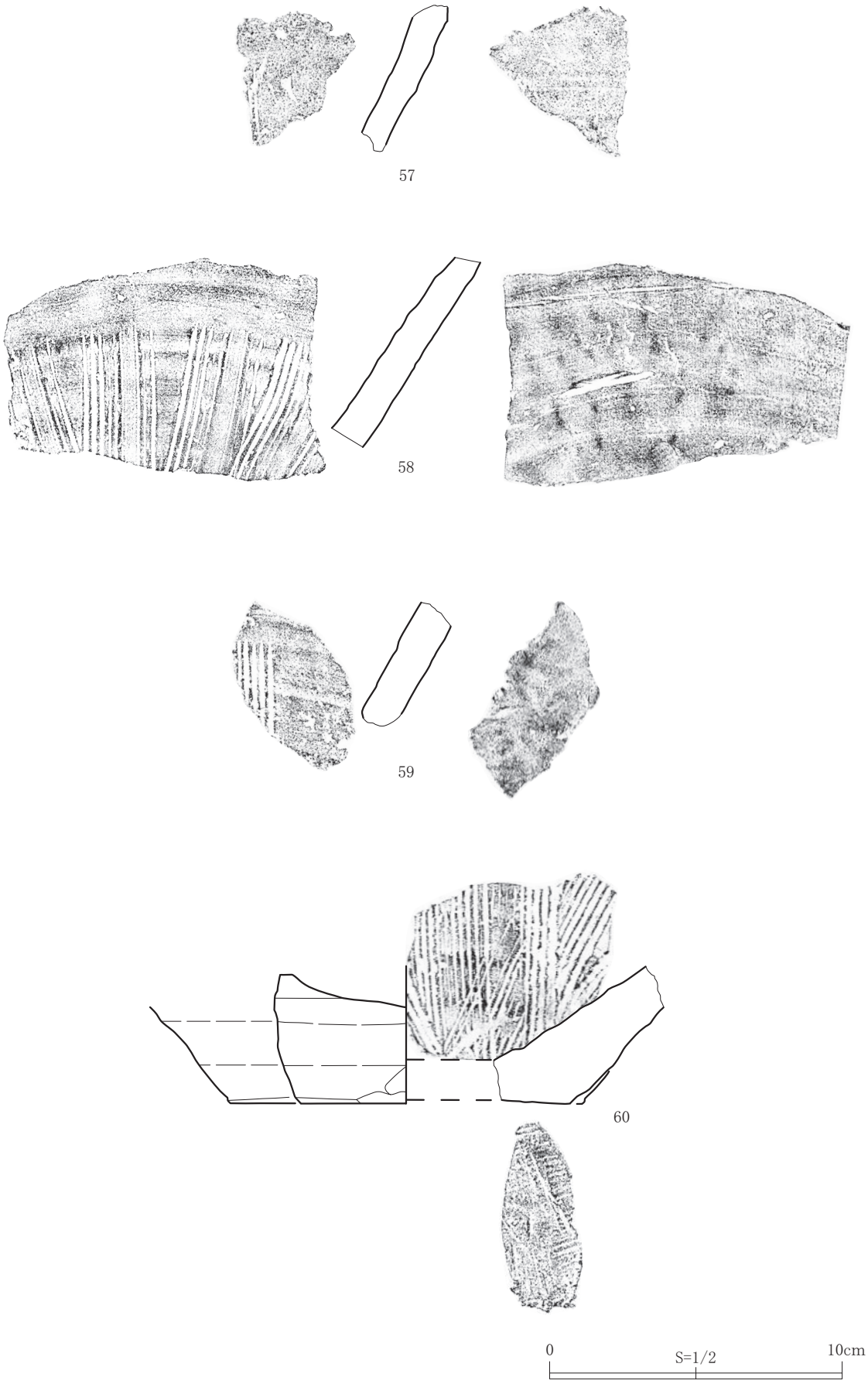
第24表　柱穴様ピット一覧表（Ａ区）（８）

SKP番号	検出グリッド	平面形	大きさ〔m〕長軸	短軸	深さ	底面標高〔m〕	層位	土色	土性	備考	
431	ＬＱ26	楕円形	0.15	0.11	0.10	18.93	1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	
432	ＬＱ26	楕円形	0.17	0.14	0.07	19.03	1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
434	ＬＱ25	円形	0.14	0.14	0.07	19.02	1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小3%	
435	ＭＡ31	楕円形	0.35	0.23	0.37	18.80	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	>SI47
436	ＭＡ30	楕円形	0.26	0.21	0.18	18.99	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小3%	>SKP495
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	地山粒状小5%	
437	ＬＴ35	楕円形	0.24	0.21	0.13	19.08	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小3%	
438	ＬＴ33	楕円形	0.23	0.18	0.12	19.09	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状小1%、地山粒状小2%	
440	ＬＴ34	楕円形	0.18	0.16	0.38	18.80	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状極小2%、焼土粒状中2%、地山粒状小～中3%	
441	ＬＴ33	楕円形	0.32	(0.29)	0.34	18.76	1	暗褐色(10YR3/4)	シルト	炭化物粒状小1%、焼土粒状小1%、地山粒状小～中3%	<SK383
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	地山粒状小～大10%	
450	ＬＴ33	楕円形	0.22	0.18	0.04	19.15	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、焼土粒状小1%、地山粒状小～中5%	>SK382
453	ＬＳ53	楕円形	0.18	0.14	0.15	19.13	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小3%	
454	ＬＴ53	楕円形	0.17	0.16	0.17	19.10	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小3%	
455	ＬＳ35	楕円形	0.28	0.27	0.11	19.06	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、焼土粒状小1%、地山粒状小3%	
456	ＬＴ35	方形	0.30	0.28	0.07	19.10	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小5%	
457	ＬＲ35	方形	0.19	0.19	0.29	18.89	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小3%	
458	ＬＴ34	方形	0.33	0.29	0.15	18.96	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小5%	
459	ＬＴ34	楕円形	0.23	(0.16)	0.18	18.93	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小3%	<暗渠
460	ＬＴ33	楕円形	0.32	0.26	0.13	19.04	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小～大5%	
461	ＬＲ34	楕円形	0.21	0.20	0.08	19.17	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
462	ＬＲ33	楕円形	0.23	0.19	0.13	19.10	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
463	ＬＴ30	楕円形	0.27	(0.24)	0.08	19.11	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	<SKP464
464	ＬＴ30	楕円形	0.32	0.29	0.16	19.03	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	>SKP463
466	ＬＳ58	楕円形	0.22	0.20	0.15	19.00	1	暗褐色(10YR3/4)	シルト	炭化物粒状小3%、地山塊状小～中10%	
467	ＬＴ58	楕円形	0.23	0.20	0.18	18.96	1	暗褐色(10YR3/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山塊状小5%	
468	ＬＴ58	楕円形	0.33	0.25	0.16	19.02	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%	
469	ＬＴ26	楕円形	0.38	0.29	0.18	18.96	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	>SK154
470	ＬＴ25	楕円形	0.20	0.16	0.21	18.96	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
471	ＬＴ25	楕円形	0.19	0.17	0.09	19.00	1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
472	ＬＴ24	楕円形	0.15	(0.14)	0.24	18.80	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小3%	
475	ＬＲ23 ＬＳ23	(楕円形)	(0.22)	(0.15)	(0.18)	(18.80)	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小2%、地山粒状小3%	<SKP172
478	ＬＲ24	楕円形	0.21	0.20	0.11	19.06	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、焼土粒状小3%、地山粒状小3%	
479	ＬＲ24	楕円形	0.28	0.25	0.29	18.83	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
480	ＬＲ24	楕円形	0.15	(0.13)	0.30	18.83	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小～小1%、地山粒状小3%	
481	ＬＳ30	楕円形	0.25	0.23	0.05	19.12	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
482	ＬＳ32	楕円形	0.35	0.27	0.27	18.96	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小3%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小～中5%	径0.15m 円形　>SKP483
483	ＬＳ32	楕円形	0.25	(0.21)	0.07	19.15	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小2%	<SKP482
484	ＬＳ32	楕円形	0.26	0.19	0.26	18.91	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小～中3%	
486	ＬＳ34	楕円形	0.17	0.17	0.28	18.87	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	<SE14
488	ＬＳ25	円形	0.16	0.14	0.31	18.88	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小～中2%	>SI166
489	ＬＳ25	楕円形	0.25	0.22	0.31	18.81	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小～中２%、地山粒状小3%	>SI166
490	ＬＳ25	楕円形	0.14	0.12	0.16	18.96	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
492	ＬＳ24	楕円形	0.24	0.19	0.15	19.05	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小3%	
493	ＬＳ24	楕円形	0.29	0.24	0.24	18.95	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
494	ＭＡ25	方形	0.31	0.24	0.05	19.01	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状小～中2%、地山粒状小～中3%	<SO300
495	ＭＡ30	(円形)	0.26	(0.19)	0.15	19.03	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒状小1%、地山粒状小～中5%	
496	ＬＲ28	楕円形	0.28	0.26	0.26	18.94	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状小2%、炭化物塊状小2%、地山粒状小3%	
498	ＭＡ28 ＭＡ29	楕円形	0.27	0.26	0.11	18.81	1	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状極小2%、地山粒状小～中5%	

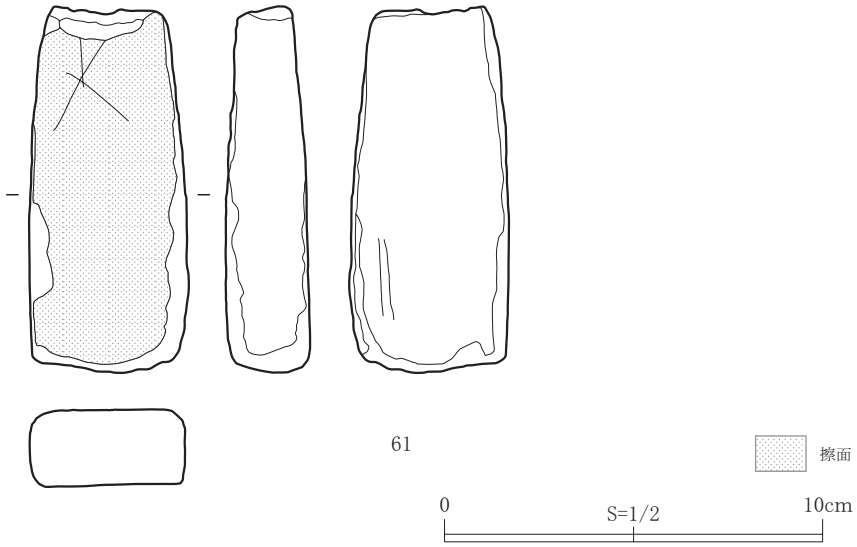
※（　）内の平面形は推定形で、数値は残存値である。※重複は新>旧である。

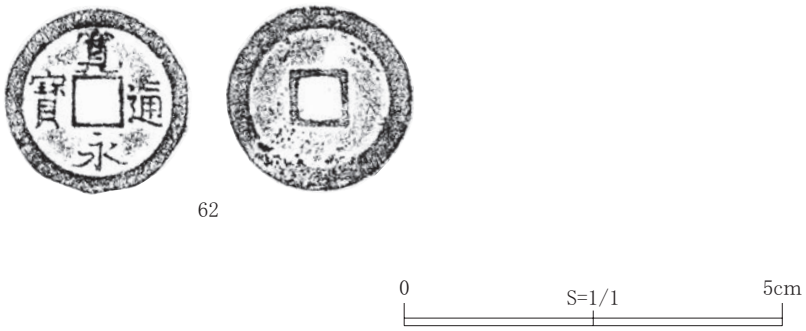


第46図　遺構外出土遺物（Ａ区）（１）



第47図　遺構外出土遺物（Ａ区）（２）





第48図　遺構外出土遺物（Ａ区）（３）

第25表　遺構外出土遺物一覧表（Ａ区）

挿図番号	図版番号	出土地点	種別	器種	部位	法量〔cm〕			備考
						A	B	C	
46-53	18-61	MA26	土師器	甕	底部	—	0.9	—	古代
54	62	LT26	須恵器系陶器	甕壺類	胴部	—	—	—	珠洲系
55	63	LS26	須恵器系陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
56	64	LT32	須恵器系陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
47-57	65	LS22	須恵器系陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
58	19-66	LT18	須恵器系陶器	擂鉢	胴部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
59	67	LS18	須恵器系陶器	擂鉢	胴部	—	—	—	珠洲系　13世紀～14世紀
60	68	LT31	須恵器系陶器	擂鉢	底部	—	[12.0]	—	珠洲系　13世紀～14世紀 底部外面に糸切り痕が認められる。
—	69	LT29	青磁	碗	胴部	—	—	—	13世紀後半　中国産
48-61	70	MB35	石製品	砥石	—	(9.7)	4.2	2.1	
62	71	表採	金属	銭貨	—	2.5	0.1	2.5	寛永通寶　新寛永〔1697年初鋳〕

※　法量のＡ・Ｂ・Ｃは、土師器と陶器ではＡ：口径、Ｂ：底径、Ｃ：器高、石製品ではＡ：長さ、Ｂ：幅、Ｃ：厚さ、銭貨ではＡ：径、Ｂ：厚さ、Ｃ：重さｇを示す。なお、（　）内の数値は残存値で、［　］内の数値は推定値である。

３　Ｂ区の検出遺構と遺物

Ｂ区で検出された遺構のうちＳＤ94以外の遺構は、第Ⅱ層（地山漸位層）において暗褐色や褐色、にぶい黄褐色の広がりとして認められたが、明瞭な掘り込みラインを見い出せず平面精査を行い、最終的な平面プランは第Ⅲ層上面で確認した。

（１）土抗

【ＳＫ129】（第49図、図版12-１）

《位置・確認》ＬＬ57に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》西側が調査区外にかかり全容を把握できなかったが、その平面形は楕円形を呈するものと推測される。確認した範囲の規模は長軸（北－南）2.55m、短軸（東－西）1.64m、深さ0.95mである。

《壁・底面》壁の傾きは北・南壁が急、東壁がやや急で、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》４層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》２層から陶器片１点、竹製品７点が出土した（うち１点掲載した：図版19-72)。遺物から遺構は中世に帰属する。

【ＳＫ134】（第49図、図版12-２）

《位置・確認》ＬＬ60に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》西側が調査区外にかかり全容を把握できなかったが、その平面形は楕円形を呈するものと推測される。確認した範囲の規模は長軸（北－南）1.23m、短軸（東－西）0.52m、深さ0.17mである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は鍋底状である。

《堆積土》２層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ135】（第49図、図版12-３）

《位置・確認》ＬＬ59に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》西側が調査区外にかかり全容を把握できなかったが、その平面形は楕円形を呈するものと推測される。確認した範囲の規模は長軸（北－南）1.33m、短軸（東－西）0.48m、深さ0.19mである。

《壁・底面》壁の傾きはやや急で、底面は平坦である。

《堆積土》２層に分けられた。

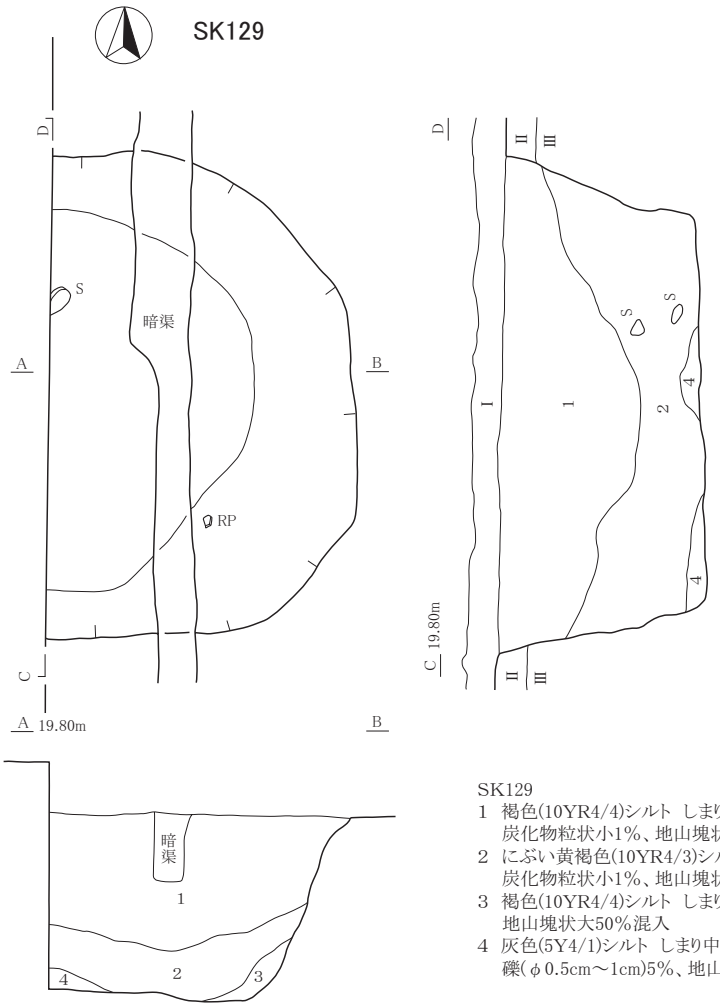
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＫ136】（第50図、図版12-４）

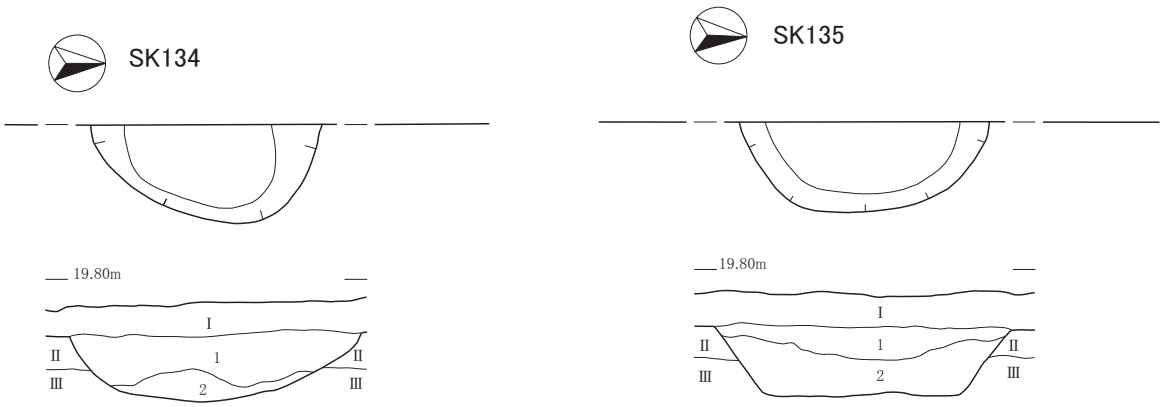
《位置・確認》ＬＫ47に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北西－南東）1.50m、短軸（北東－南西）1.33



SK129
1　褐色(10YR4/4)シルト　しまりやや強、粘性やや弱
　炭化物粒状小1%、地山塊状大30%混入
2　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり中、粘性やや弱
　炭化物粒状小1%、地山塊状大20%混入
3　褐色(10YR4/4)シルト　しまり中、粘性中
　地山塊状大50%混入
4　灰色(5Y4/1)シルト　しまり中、粘性中
　礫(φ0.5cm～1cm)5%、地山塊状中10%混入

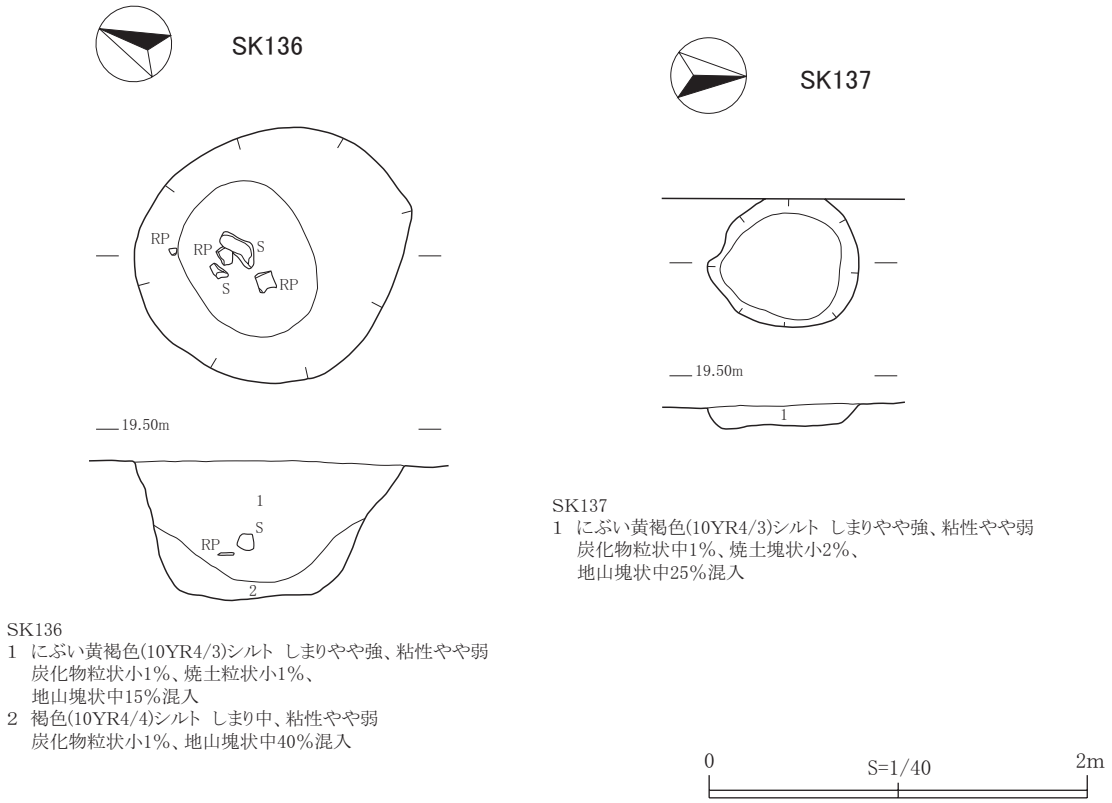


SK134
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまりやや強、粘性やや弱
　礫(φ0.5cm～2cm)1%、地山粒状中3%混入
2　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり中、粘性やや弱
　地山塊状中15%混入

SK135
1　暗褐色(10YR3/3)シルト　しまりやや強、粘性やや弱
　礫(φ0.5cm～1cm)1%、地山粒状中2%混入
2　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり中、粘性やや弱
　炭化物粒状小1%、地山塊状中10%混入

0　S=1/40　2m

第49図　ＳＫ129・134・135



第50図　ＳＫ136・137

ｍ、深さ0.74ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは北西壁がやや急、南東壁が緩やかで、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》２層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》１層から白磁片１点、須恵器系陶器片２点出土した（第51図63・64・65、図版19-73・74・75）。遺物から遺構は中世に帰属する。

【ＳＫ137】（第50図、図版12-５）

《位置・確認》ＬＬ47・48に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》なし。

《平面形・規模》西側が調査区外にかかり全容を把握できなかったが、その平面形は楕円形を呈するものと推測される。確認した範囲の規模は長軸（北－南）0.80ｍ、短軸（東－西）0.68ｍ、深さ0.12ｍである。

《壁・底面》壁の傾きは北壁が緩やか、南壁がやや急で、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》１層である。

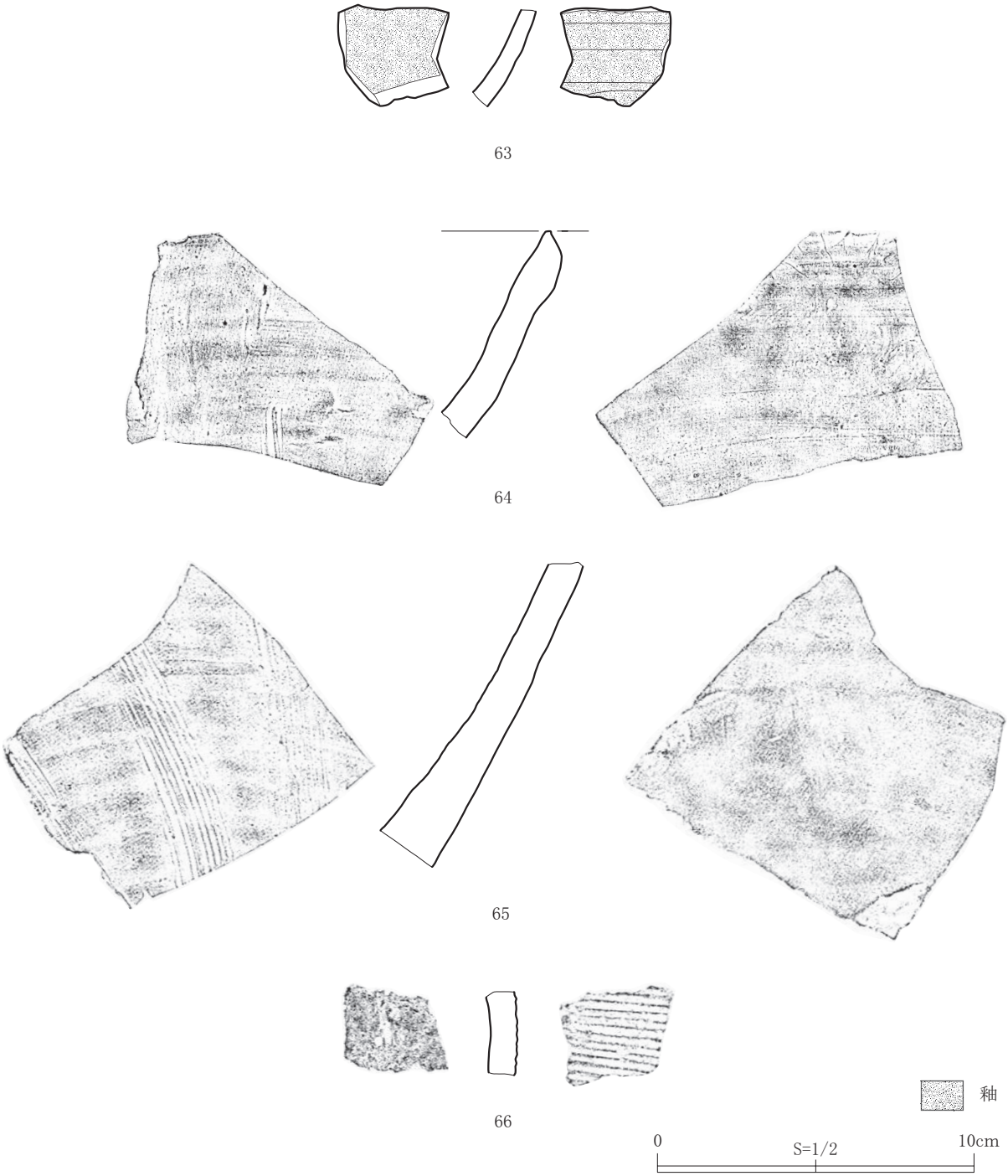
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

（２）溝跡

【ＳＤ64】（第53図、図版12-６）

《位置・確認》ＬＫ・ＬＬ63に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

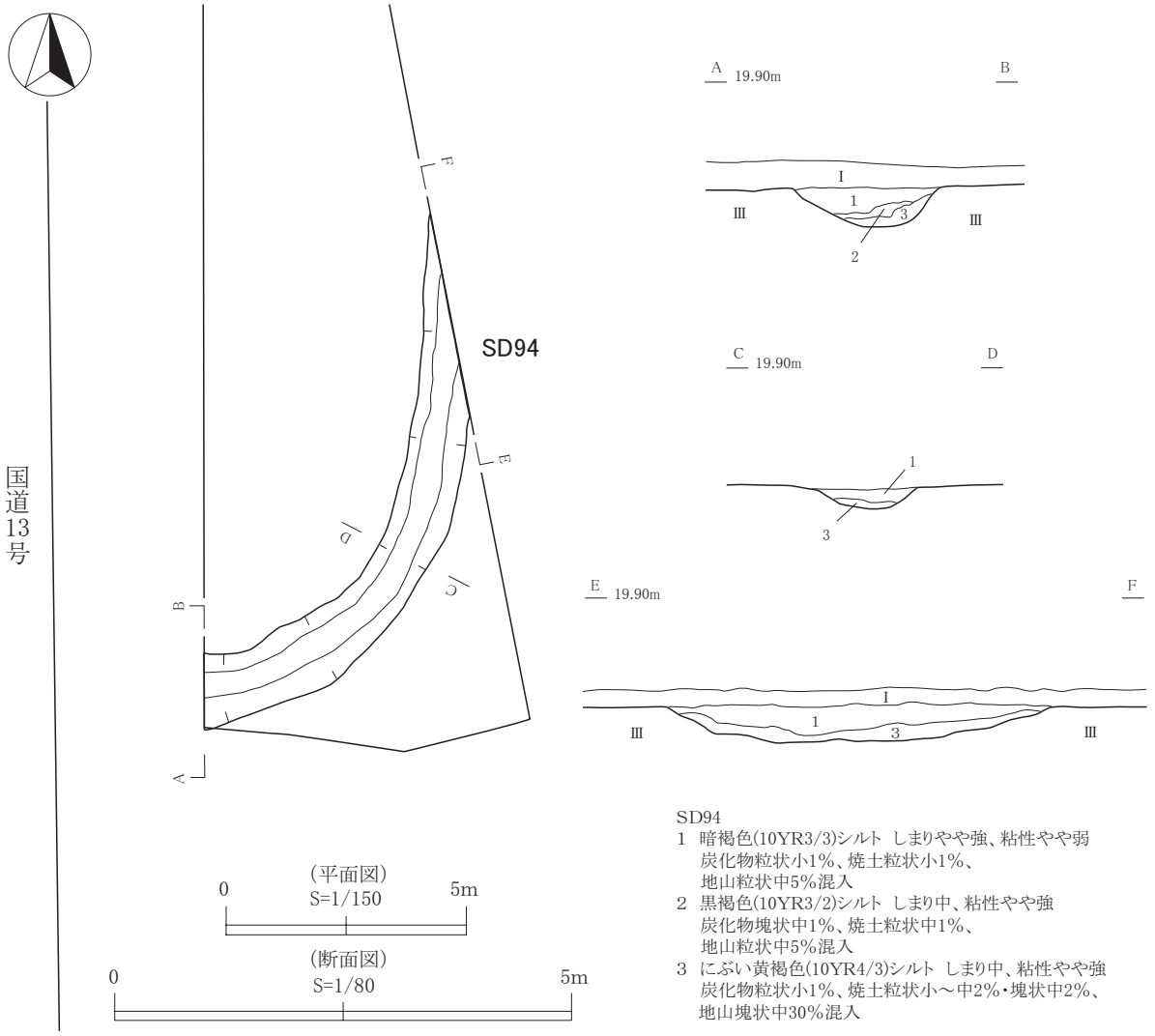
《重複遺構》なし。



第51図　土坑・溝跡出土遺物（Ｂ区）

第26表　土坑・溝跡出土遺物一覧表（Ｂ区）

挿図番号	図版番号	遺構名	種別	器種	部位	法　量〔cm〕			備　考
						口径	底径	器高	
—	19-72	SK129	陶器	甕	胴部	—	—	—	鉄釉
51-63	73	SK136	白磁	碗	胴部	—	—	—	中国産　12世紀後半
64	74	SK136	須恵器系陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	珠洲系　13世紀代
65	75	SK136	須恵器系陶器	擂鉢	胴部	—	—	—	珠洲系　13世紀代
66	76	SD94	須恵器系陶器	甕壺類	胴部	—	—	—	珠洲系
—	77	SD94	陶器	—	高台	—	—	—	中世



第52図　ＳＤ94（Ｂ区）

《規模》確認した範囲で長さ3.43m、幅0.40～0.50m、深さ0.14mである。北東－南西方向に延びており、両端が調査区外に延伸している。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＤ94】（第52図、図版12-７）

《位置・確認》ＬＪ32・33・34、ＬＫ32・33、ＬＬ31・32、ＬＰ30・31に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

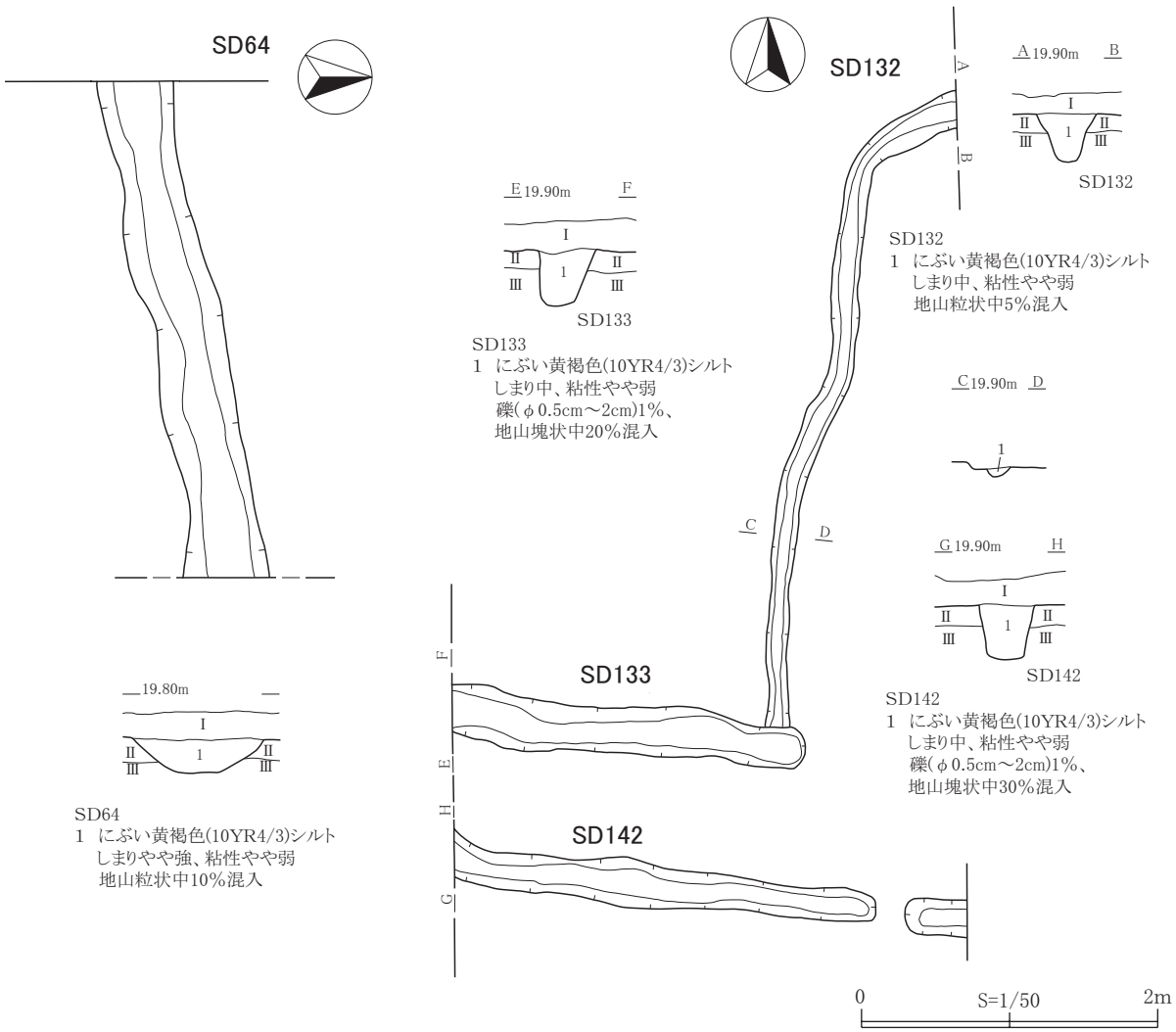
《重複遺構》なし。

《規模》確認した範囲で長さ10.3m、幅1.07～1.52m、深さ0.21～0.20mである。北－南－西方向に延びており、両端とも調査区外に延伸している。

《壁・底面》壁の傾きはやや急で、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》３層に分けられた。

《出土遺物と遺構帰属時期》１層から須恵器系陶器片１点、陶器片１点が出土した（第51図66、図版



第53図　ＳＤ64・132・133・142

19-76・77)。遺物から遺構は中世に帰属する。

【ＳＤ132】（第53図、図版12-８）

《位置・確認》ＬＫ54・55、ＬＬ55に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＤ133と重複する。新旧は本遺構の方が古い。

《規模》確認した範囲で長さ4.63m、幅0.12～0.25m、深さ0.20mである。北東－南西方向に延びており、北東端は調査区外に延伸し、南西端はＳＤ133と重複している。

《壁・底面》壁の傾きはやや急で、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

【ＳＤ133】（第53図、図版12-８）

《位置・確認》ＬＫ54・55、ＬＬ54・55に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《重複遺構》ＳＤ132と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《規模》確認した範囲で長さ2.42m、幅0.26～0.36m、深さ0.21mである。東－西方向に延びている。西端は調査区外に延伸し、東端はＳＤ132と重複している。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。
【ＳＤ142】（第53図、図版12-８）
《位置・確認》ＬＫ53・54に位置する。第Ⅲ層上面で確認した。
《重複遺構》なし。
《規模》確認した範囲で長さ3.28m、幅0.20～0.34m、深さ0.23mである。中央よりやや東側で一旦長さ0.20mほど途切れるが、東－西方向に延びており、両端とも調査区外に延伸している。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面はやや鍋底状である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物と遺構帰属時期》出土遺物はないが、周辺の状況から中世に帰属する遺構と判断する。

（３）柱穴様ピット

Ｂ区の柱穴様ピットは、49ライン以北の第Ⅲ層上面で14基確認した。これらの柱穴様ピットでは柱痕跡を確認できるものもあったが規則的な配列は認められず、掘立柱建物跡を復元するまでに至らなかった。平面形は楕円形を呈しており、その大きさは長軸0.18～0.42m、短軸0.17～0.41m、深さ0.17～0.54mである。柱痕跡を２基の柱穴で確認した。柱痕跡は径0.14～0.18mの円形である。堆積土は灰黄褐色土（10ＹＲ4/2)・にぶい灰黄褐色土（10ＹＲ4/3）である。個々の柱穴については第27表のとおりである。遺物は出土しなかった。

第27表　柱穴様ピット一覧表（Ｂ区）

SKP番号	検出グリッド	平面形	大きさ〔m〕			底面標高〔m〕	層位	土色	土性	備考	
			長軸	短軸	深さ						
56	ＬＬ63 ＬＬ64	楕円形	0.37	0.31	0.17	18.76	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山粒状中10%	
139	ＬＫ57	楕円形	0.21	0.18	0.37	18.52	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	地山粒状小3%	
140	ＬＬ57	楕円形	0.33	0.29	0.32	18.63	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山塊状小10%	
141	ＬＬ56	楕円形	0.42	0.41	0.41	18.55	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山粒状中10%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	炭化物粒状小1%、地山塊状中15%	径0.14m円形
143	ＬＫ53	楕円形	0.27	0.20	0.51	18.44	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山粒状中3%	
153	ＬＫ53	楕円形	0.25	0.22	0.41	18.47	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山粒状中5%	
167	ＬＫ53	楕円形	0.31	0.29	0.34	18.55	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山粒状中5%	１層：柱痕跡
							2	褐色(10YR4/4)	シルト	地山塊状小25%	径0.18m円形
168	ＬＫ51	楕円形	0.24	0.22	0.40	18.57	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山粒状中2%	
174	ＬＫ50	楕円形	0.22	0.21	0.33	18.54	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山粒状中5%	
175	ＬＫ50	楕円形	0.21	0.20	0.27	18.60	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状小3%	
176	ＬＫ50	楕円形	0.24	0.17	0.54	18.34	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状中3%	
177	ＬＫ49	楕円形	0.18	0.17	0.21	18.72	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状中13%、地山粒状小3%	
178	ＬＫ49	楕円形	0.23	0.20	0.21	18.71	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状中3%	
179	ＬＫ49	楕円形	0.22	0.18	0.20	18.73	1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒状極小1%、地山粒状中5%	

※（　）内の平面形は推定形で、数値は残存値である。※重複は新>旧である。

第４章　理化学的分析

第１節　船戸遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）（平成24年度委託分）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

船戸遺跡は、秋田県大仙市北楢岡字船戸482外（北緯39度31分10秒、東経140度22分37秒）に所在する。測定対象試料は、竪穴建物跡（ＳＩ47）１層出土木炭（No.１：IAAA-122084）、竪穴建物跡（ＳＩ166）１層出土木炭（No.２：IAAA-122085）、井戸跡（ＳＥ26）５層出土木炭（No.３：IAAA-122086）、かまど状遺構（ＳＯ300）３層出土木炭（No.４：IAAA-122087）、火葬施設（ＳＫＣ447）２層出土木炭（No.５：IAAA-122088）の合計５点である（第28表）。なお、同一試料の樹種同定が実施されている（第４章第３節参照）。

２　測定の意義

年代測定によって遺跡内の遺構の関係を明らかにする。

３　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

（２）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と第28表に記載する。

（３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

４　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５　算出方法

（１）δ^{13}Cは、試料炭素の^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（第28表）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（２）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第28表に、補正していない値を参考値として第29表に示した。^{14}C年代と誤差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±１σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

（３）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を第28表に、補正していない値を参考値として第29表に示した。

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（1σ＝68.2％）あるいは２標準偏差（2σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下一桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第29表に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

６　測定結果

試料の^{14}C年代は、竪穴建物跡（ＳＩ47）１層出土木炭No.１が620±20yrBP、竪穴建物跡（ＳＩ166）１層出土木炭No.２が620±20yrBP、井戸跡（ＳＥ26）５層出土木炭No.３が660±20yrBP、かまど状遺構（ＳＯ300）３層出土木炭No.４が590±20yrBP、火葬施設（ＳＫＣ447）２層出土木炭No.５が540±20yrBPである。

暦年較正年代（1σ）は、No.１が1300～1393cal AD、No.２が1299～1391cal AD、No.３が1288～1384cal AD、No.４が1315～1400cal AD、No.５が1331～1422cal ADの間に各々複数の範囲で示される。

試料の炭素含有率はすべて60％以上の十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

第28表　炭素年代測定試料一覧（平成24年度）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ^{13}C（‰）（AMS）	δ ^{13}C補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC（%）
IAAA-122084	No.1	竪穴建物跡（SI47）　1層	木炭	AAA	−27.86±0.34	620±20	92.60±0.25
IAAA-122085	No.2	竪穴建物跡（SI166）　1層	木炭	AAA	−27.80±0.35	620±20	92.52±0.23
IAAA-122086	No.3	井戸跡（SE26）　5層	木炭	AAA	−26.37±0.38	660±20	92.15±0.23
IAAA-122087	No.4	かまど状遺構（SO300）　3層	木炭	AAA	−28.16±0.37	590±20	92.90±0.24
IAAA-122088	No.5	火葬施設（SKC447）　2層	木炭	AAA	−26.88±0.40	540±20	93.45±0.25

［#5426］

第29表　放射性炭素年代測定結果（平成24年度）

測定番号	δ ^{13}C補正なし		暦年較正用（yrBP）	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）			
IAAA-122084	670±20	92.05±0.23	617±21	1300calAD − 1324calAD（28.4%） 1346calAD − 1369calAD（26.8%） 1381calAD − 1393calAD（13.1%）	1295calAD − 1399calAD（95.4%）
IAAA-122085	670±20	91.99±0.22	624±20	1299calAD − 1320calAD（28.6%） 1350calAD − 1370calAD（26.0%） 1380calAD − 1391calAD（13.6%）	1292calAD − 1329calAD（38.2%） 1340calAD − 1396calAD（57.2%）
IAAA-122086	680±20	91.89±0.22	656±20	1288calAD − 1305calAD（30.1%） 1364calAD − 1384calAD（38.1%）	1282calAD − 1316calAD（44.5%） 1355calAD − 1390calAD（50.9%）
IAAA-122087	640±20	92.29±0.23	592±21	1315calAD − 1356calAD（54.1%） 1389calAD − 1400calAD（14.1%）	1303calAD − 1366calAD（70.7%） 1383calAD − 1409calAD（24.7%）
IAAA-122088	580±20	93.09±0.23	544±21	1331calAD − 1338calAD（10.0%） 1397calAD − 1422calAD（58.2%）	1321calAD − 1350calAD（25.0%） 1391calAD − 1432calAD（70.4%）

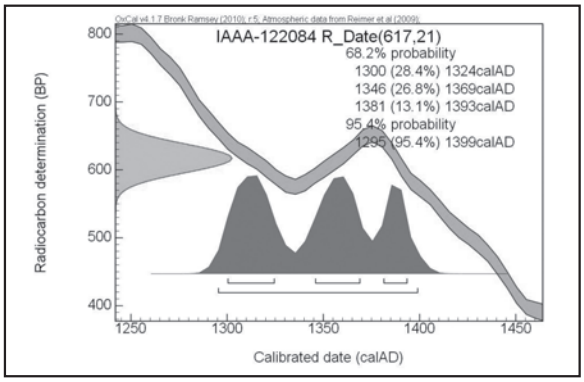
［参考値］

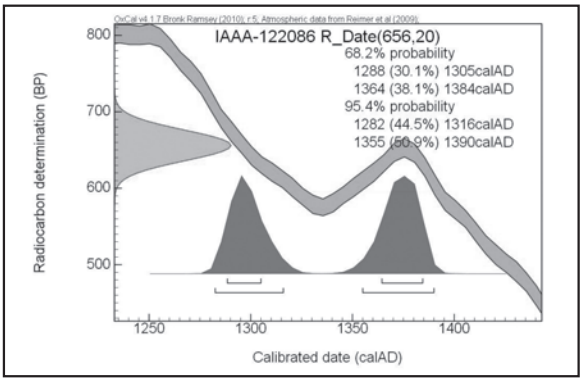
文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337−360

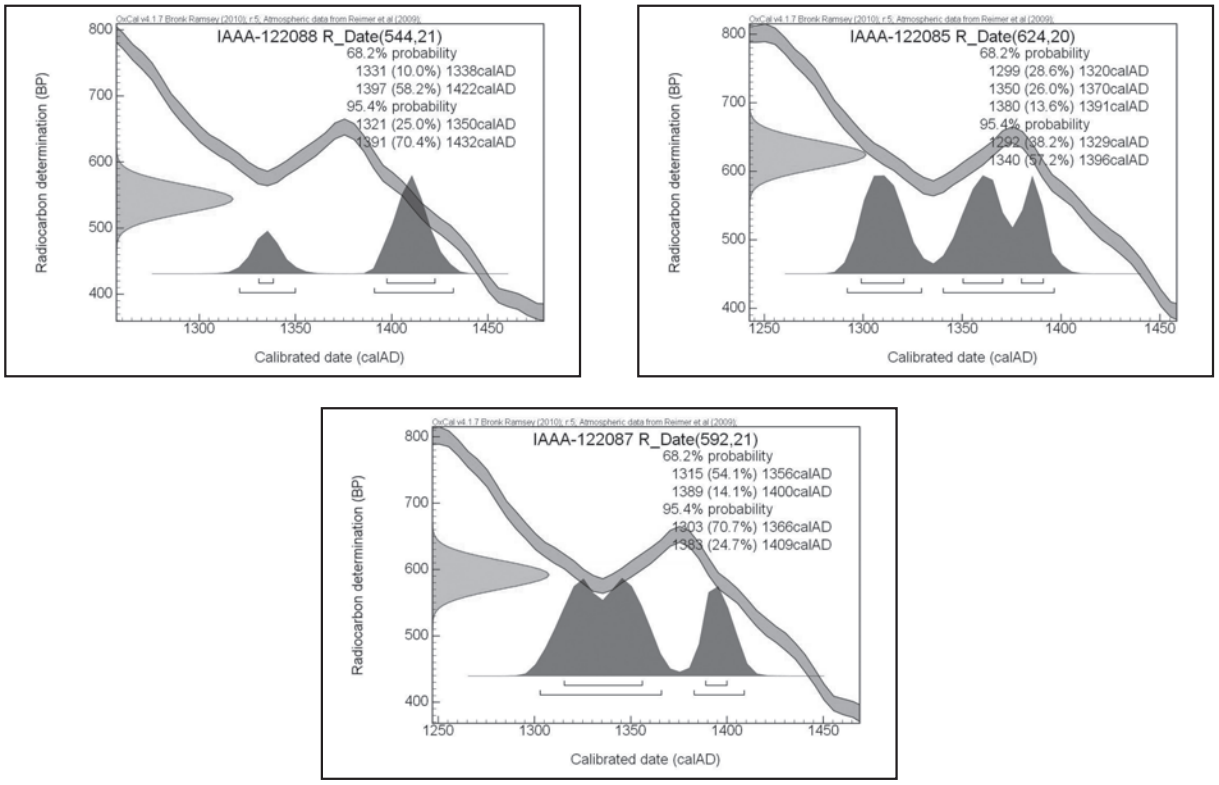
Reimer P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0−50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111−1150

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355−363





第54図　［参考］暦年較正年代グラフ（１）



第55図　［参考］暦年較正年代グラフ（２）

第２節　船戸遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）（平成25年度委託分）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

船戸遺跡は、秋田県大仙市北楢岡字船戸482外（北緯39度31分10秒、東経140度22分37秒）に所在する。測定対象試料は、竪穴建物跡や井戸跡等から出土した炭化物6点である（第28表）。なお、同一試料の樹種同定が実施されている（第４章第４節参照）。

２　測定の意義

年代測定によって遺跡内の遺構の関係を明らかにする。

３　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

（２）酸−アルカリ−酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、

1M未満の場合は「AaA」と第30表に記載する。

（３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

４　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５　算出方法

（１）δ^{13}Cは、試料炭素の^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（第30表）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（２）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第30表に、補正していない値を参考値として第31表に示した。^{14}C年代と誤差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±１σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

（３）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を第30表に、補正していない値を参考値として第31表に示した。

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（１σ＝68.2％）あるいは２標準偏差（２σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下１桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第31表に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

６　測定結果

測定結果を第30表、第31表に示す。

試料６点の^{14}C年代は、840±30yrBP（No.1）から540±20yrBP（No.5）の間に含まれる。

暦年較正年代（１σ）は、No.1が古代末から中世頃、他の５点が中世頃に相当する値で示される。

試料の炭素含有率はすべて50％を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

第30表　炭素年代測定試料一覧（平成25年度）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C(‰)(AMS)	δ^{13}C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-123953	No.1	竪穴建物跡（SI62）　2層	炭化物	AAA	−24.99±0.47	840±30	90.08±0.28
IAAA-123954	No.2	竪穴建物跡（SI196）　2層	炭化物	AaA	−25.20±0.43	630±20	92.44±0.28
IAAA-123955	No.3	井戸跡（SE45）　4層	炭化物	AAA	−26.36±0.39	680±20	91.90±0.28
IAAA-123956	No.4	かまど状遺構（SO416）　4層	炭化物	AAA	−27.18±0.67	610±30	92.64±0.30
IAAA-123957	No.5	火葬施設（SKC427）　1層	炭化物	AAA	−24.45±0.53	540±20	93.54±0.29
IAAA-123958	No.6	火葬施設（SKC449）　1層	炭化物	AAA	−26.04±0.54	630±20	92.42±0.28

[#5763]

第31表　放射性炭素年代測定結果（平成25年度）

測定番号	δ^{13}C補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC(%)			
IAAA-123953	840±20	90.08±0.27	839±25	1168calAD − 1225calAD(68.2%)	1160calAD − 1259calAD(95.4%)
IAAA-123954	630±20	92.40±0.27	631±24	1297calAD − 1317calAD(25.5%) 1354calAD − 1389calAD(42.7%)	1288calAD − 1329calAD(39.0%) 1341calAD − 1396calAD(56.4%)
IAAA-123955	700±20	91.64±0.27	678±24	1280calAD − 1300calAD(46.6%) 1369calAD − 1381calAD(21.6%)	1275calAD − 1311calAD(61.1%) 1360calAD − 1388calAD(34.3%)
IAAA-123956	650±20	92.23±0.27	613±25	1301calAD − 1326calAD(28.1%) 1343calAD − 1368calAD(27.3%) 1382calAD − 1394calAD(12.7%)	1296calAD − 1401calAD(95.4%)
IAAA-123957	530±20	93.64±0.27	536±24	1399calAD − 1428calAD(68.2%)	1322calAD − 1348calAD(18.7%) 1391calAD − 1436calAD(76.7%)
IAAA-123958	630±20	92.23±0.26	632±24	1297calAD − 1316calAD(25.7%) 1355calAD − 1388calAD(42.5%)	1287calAD − 1329calAD(39.2%) 1341calAD − 1396calAD (56.2%)

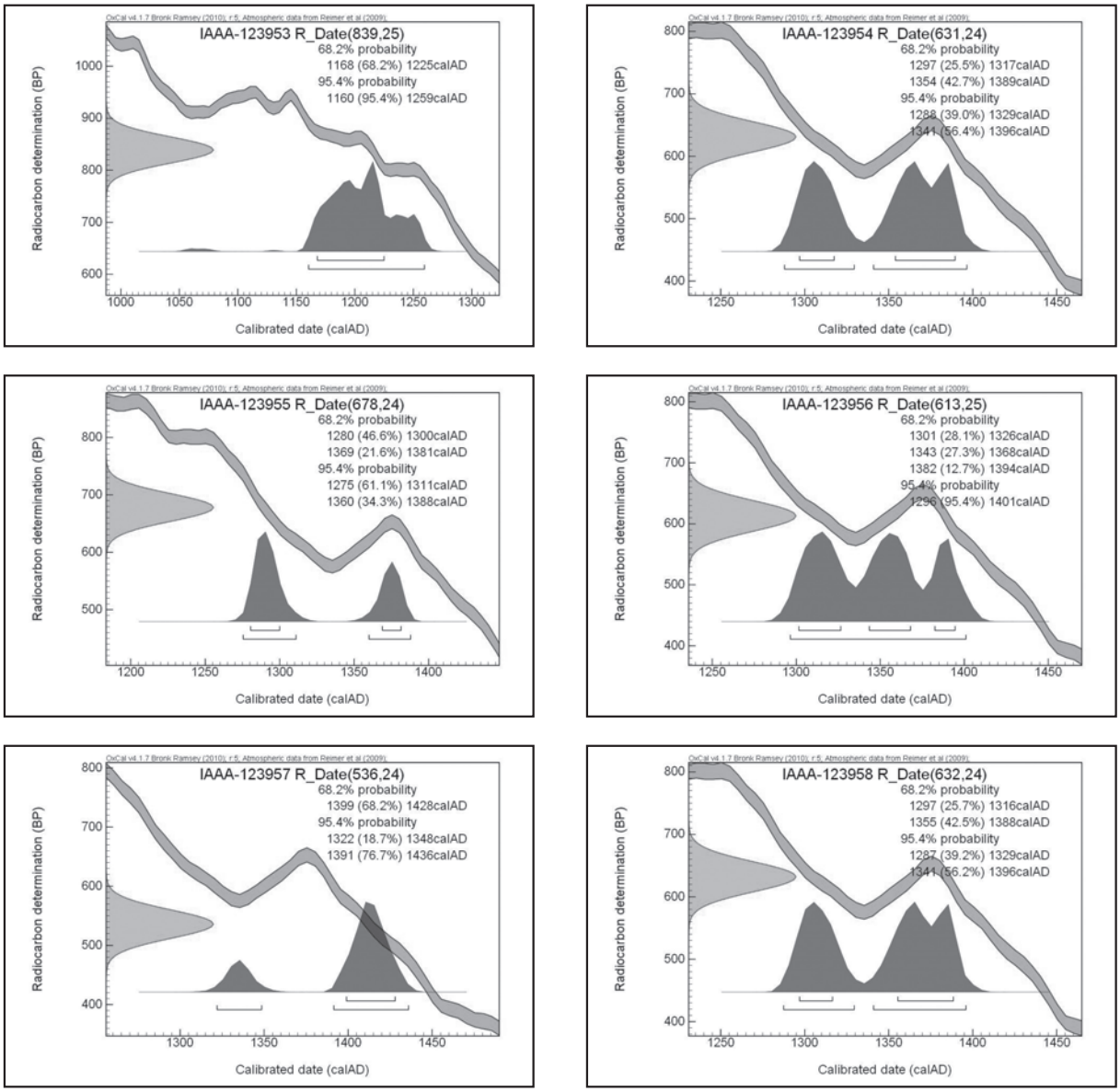
[参考値]

文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363



第56図　[参考]暦年較正年代グラフ（３）

第３節　船戸遺跡出土炭化材の樹種（平成24年度委託分）

(株)加速器分析研究所

はじめに

船戸遺跡の遺構内から検出された炭化材の種類を同定し、植物利用に関する検討を行う。

１　試料

試料は、各遺構から出土した炭化材５点（試料№1－5）である（第32表）。これらは取上後に乾燥・保管されていた。なお、同一試料の放射性炭素年代測定が実施されている（第４章第１節参照）。

２　分析方法

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）やWheeler他（1998）を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

３　結果

樹種同定結果を第32表に示す。炭化材は広葉樹4分類群（ブナ属・クリ・カエデ属・ガマズミ属）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・ブナ属（*Fagus*）　ブナ科

散孔材で、道管は単独または放射方向に2−3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状〜階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3−4列、道管は孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1−15細胞高。

・カエデ属（*Acer*）　カエデ科

散孔材で、道管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2−3個が複合して散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列〜交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1−4細胞幅、1−30細胞高。木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

・ガマズミ属（*Viburnum*）　スイカズラ科

散孔材で、道管壁は薄く、横断面では円形〜やや角張った楕円形、ほぼ単独で散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状〜階段状に配列する。放射組織は異性、1−3細胞幅、1−30細胞高。

第32表　樹種同定結果（平成24年度）

試料番号	遺構	層位	種類
No.1	竪穴建物跡（SI47）	1層	カエデ属
No.2	竪穴建物跡（SI166）	1層	ブナ属
No.3	井戸跡（SE26）	5層	ブナ属
No.4	かまど状遺構（SO300）	3層	ガマズミ属
No.5	火葬施設（SKC447）	2層	クリ

４　考察

炭化材は、竪穴建物跡、井戸跡、かまど状遺構、火葬施設から出土している。これらの炭化材には、合計４種類が認められた。同定された各種類は、いずれも比較的重硬で強度が高い材質を有する。ブナ属は、冷温帯性落葉広葉樹林の主要な構成種であり、時に優占する森林（ブナ林）を形成する。クリは、二次林の構成種として、集落周辺に普通に見られる樹木であり、果実の収穫を目的として栽培さ

れることがある。カエデ属とガマズミ属は、ブナ林にも二次林にも生育する種類がある。

遺構別に見ると、竪穴建物跡の炭化材はＳＩ47とＳＩ166の２軒から出土している。ＳＩ47の炭化材はカエデ属、ＳＩ166の炭化材はブナ属であり、遺構によって樹種が異なるが、いずれも強度の高い木材を利用したことが推定される。井戸跡（ＳＥ26）の炭化材は、何らかの理由により火を受けていることが推定され、ブナ属に同定された。かまど状遺構（ＳＯ300）の炭化材は、燃料材の可能性がある。ガマズミ属に同定され、周辺に生育していた樹木を利用したことが推定される。火葬施設（ＳＫＣ447）の炭化材はクリに同定された。周辺に生育あるいは栽培され、入手可能な木材を利用したと考えられる。

文献

林　昭三,1991,日本産木材　顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.
伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
島地　謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修),海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*］.

第４節　船戸遺跡出土炭化材の樹種（平成25年度委託分）

(株)加速器分析研究所

はじめに

秋田県大仙市に位置する船戸遺跡の竪穴建物跡、井戸跡、かまど状遺構、火葬施設から出土した炭化材を対象として、木材利用を検討するための樹種同定を実施する。

１　試料

試料は、竪穴建物跡、井戸跡、かまど状遺構、火葬施設から出土した炭化材６点(試料番号No.1-6)である（第33表)。なお、同一試料の放射性炭素年代測定が実施されている（第４章第２節参照)。

２　分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

３　結果

樹種同定結果を第33表に示す。炭化材は、針葉樹１分類群(スギ)と広葉樹４分類群(ヤナギ属・ブナ属・クリ・ウルシ属)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・スギ(*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don)　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、１分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ヤナギ属(*Salix*)　ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15細胞高。

・ブナ属(*Fagus*)　ブナ科

散孔材で、道管は単独または放射方向に2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・ウルシ属(*Rhus*)　ウルシ科

今回検討した試料（No.4）は年輪界付近で割れており、早材部(孔圏部)の多くを欠く。早材部から晩材部への道管径の変化から環孔材と判断される。孔圏外への移行は緩やかで、小道管は年輪界に向かって漸減しながら単独または2-4個が放射方向あるいは塊状に複合して配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高で、時に上下に連結する。

ウルシ属には、ヤマウルシ、ヌルデ、ハゼノキ、ヤマハゼ、ウルシの5種がある。このうち、環孔材の組織配列を有するのは、ヤマウルシ、ヌルデ、ウルシの3種であり、今回の試料も3種のいずれかと考えられるが、観察範囲が狭く、晩材部にも破損が見られるなど、道管配列の観察が十分ではないため、区別することができず、ウルシ属とした。

第33表　樹種同定結果（平成25年度）

試料番号	遺構	層位	種類
No.1	SI62(竪穴建物跡)	2層	スギ
No.2	SI196(竪穴建物跡)	2層	ブナ属
No.3	SE45(井戸跡)	4層	クリ
No.4	SO416(かまど状遺構)	4層	ウルシ属
No.5	SKC427(火葬施設)	1層	ヤナギ属
No.6	SKC449(火葬施設)	1層	クリ

４　考察

各遺構から出土した炭化材には合計５種類が認められた。各種類の材質等をみると、針葉樹のスギは木理が通直で割裂性が高く、加工は容易である。広葉樹のヤナギ属とウルシ属は、比較的軽軟で強度は低い。ブナ属は、重硬で強度が高いが、加工は容易である。クリは、重硬で強度・耐朽性が高く、加工はやや困難である。いずれの試料も炭化していることから、何らかの理由で火を受けていると考えられる。

遺構の種類別に樹種同定結果をみると、竪穴建物跡ではＳＩ62でスギ、ＳＩ196でブナ属が確認された。スギとブナ属の材質の違いを考慮すれば、異なる用途に用いられた可能性がある。

井戸跡の炭化材はクリに同定された。クリは二次林を構成し、時に栽培される種類であり、周囲で木材の入手が可能であったと考えられる。

かまど状遺構と火葬施設の炭化材については、燃料材の一部が炭化・残存した可能性が考えられる。

かまど状遺構ＳＯ416の炭化材はウルシ属であった。ウルシ属としては、組織の特徴から、二次林や林縁部等に生育するヤマウルシ、ヌルデ、栽培種のウルシが考えられる。ヤマウルシやヌルデである場合は、遺跡周辺で木材の入手が可能であったことが考えられる。また、ウルシであるとすれば、遺跡周辺での栽培が推定される。

火葬施設の炭化材は、ＳＫＣ427の試料がヤナギ属、ＳＫＣ449の試料がクリである。ヤナギ属は軽軟であることから燃焼性が高いが、クリは重硬であることから燃焼性が悪い。ヤナギ属は河畔林等に普通に見られる種類であり、木材の入手は容易であったと考えられる。

文献

林　昭三,1991,日本産木材　顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編),2006,針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト　伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修),海青社, 70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

島地　謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修),海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*］.

※）本分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。

第５節　船戸遺跡出土漆製品の塗膜構造調査

(株)吉田生物研究所

１．はじめに

秋田県に所在する、船戸遺跡から出土した漆製品について、その製作技法を明らかにする目的で塗膜構造調査を行ったので、以下にその結果を報告する。

２．　漆塗膜調査試料

調査した試料は、図版24～27、第34表に示す４点である。

第34表　漆塗膜調査試料

No.	保存処理No.	遺物		品名	樹種	図版	写真No.	概要
		挿図	図版					
1	1	27－23	16－28	漆皿	クリ	24-1 24-3	1 3	内外両面とも黒色の皿。内面の見込みには、明瞭なロクロ目が残る。
2	2	25－13	13－13	漆椀	ケヤキ	24-5 24-7	5 7	内外両面とも黒色の椀。
3	3	25－12	13－12	漆椀	ケヤキ	25-9 25-12	9 12	内外両面とも黒色の椀。
4	9	25－11	13－17	曲げ物底板	スギ	25-14 26-16	14 16	片面には黒っぽい物質が残っている、曲げ物の底板。もう一方の面には、現在はやや黒っぽくみえる部分が少し見られる。

＊：樹種については、別稿の樹種同定報告書を参照のこと。

３．調査方法

第34表の資料本体の内外面から数㎜四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片プレパラートを作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。

No.３の内面は樹脂に包埋する工程途中で、試料が層状に２片に剥離したので、それぞれを別にして薄片を作成した。

４．断面観察結果

塗膜断面の観察結果を、図版24～26、第35表、第36表、そして以下の文章に示す。

第35表　漆器の断面観察結果表

No.	器種	部位	図版	写真No.	塗膜構造（下層から）			
					下地		漆層構造	顔料
					膠着剤	混和材		
1	皿	内面	24-2	2	柿渋	木炭粉	透明漆１層	—
		外面	24-4	4	柿渋	木炭粉	透明漆１層	—
2	椀	内面	24-6	6	柿渋	木炭粉	透明漆１層	—
		外面	24-8	8	柿渋	木炭粉	透明漆１層	—
3	椀	内面(オリジナル)	25-10	10	柿渋？	木炭粉	透明漆１層	—
		内面(補修)	25-11	11	—	—	透明漆１層	—
		外面(オリジナル)	25-13	13	柿渋？	木炭粉	透明漆１層	—
		外面(補修)	25-13	13	柿渋？	炭化物	透明漆１層	—

No.1～３

塗膜構造：下層から木胎、下地、漆層と重なる様子が観察された。No.３には２度の漆塗り工程が認められた。これらのうち、上層の漆層は補修と判断される。

下地：No.１,２には濃褐色を呈する柿渋に木炭粉を混和した炭粉渋下地がみられた。No.３の下地の膠着剤は、漆か柿渋である。

漆層：No.１,２には下地の上に淡黄褐色を呈する１層の透明漆層が見られた。

No.３外面には下地の上に淡黄褐色を呈する透明漆層が２層重なっていた。この２層の間には、部分的に下地のようなものが見られる。このことから、上層は塗りなおしと判断される。

No.３内面も、剥離した上層部分が塗りなおしと判断される。これら塗りなおしの透明漆層の上面部分は、劣化によりやや黒っぽく変色している。

顔料：顔料の混和は認められなかった。

第36表　曲げ物底板の断面観察結果表

No.	器種	部位	図版	写真No.	断面構造（下層から）
4	曲げ物底板	Ａ面	25-15	15	木胎のみ
		Ｂ面	26-17	17	木胎／何らかの物質

No.４

塗膜構造：Ａ面には、明瞭な塗装は見られなかった。Ｂ面には、木胎の上に褐色を呈する何らかの物質が見られた。これは厚みをもつが、垂直方向に亀裂が入り、透明感がない。この様子は、漆の塗膜の様子とは異なる。

５．摘要

秋田県に所在する船戸遺跡から出土した、３点の漆製品と表面に黒っぽい物質が付着している１点の曲げ物の底板について、塗膜分析を行った。

漆製品は３点とも内面、外面ともに黒色の漆器である。そのうち２点には、柿渋に木炭粉を混和した炭粉渋下地が施され、その上に透明漆層が１層重ねられていた。もう１点には、補修の痕跡が認められた。下層のオリジナルの塗装は、炭粉渋下地？の上に透明漆が１層重なるというものであった。その上にさらに透明漆層が１層みられたが、下層の透明漆層との間に下地のような部分が一部に認められたので、この上層の透明漆層は補修の塗装と判断される。

以上の漆器の樹種は、補修のない２点がクリとケヤキ、補修された１点はケヤキであった。これらの樹種は、中世の漆椀の用材として利用される樹種である。また、ケヤキの１点には、補修が施されており、大切に使用されたことがうかがえる。

曲げ物の底板には、一方の面に、何らかの物質の付着がみられた。その断面の様子から、漆とは異なる物質と判断された。

第６節　船戸遺跡出土木製品の樹種調査結果

（株）吉田生物研究所

１　試料

試料は船戸遺跡から出土した工具２点、容器５点、祭祀具１点、雑具２点の合計10点である。

２　観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

３　結果

樹種同定結果（針葉樹１種、広葉樹３種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

１）スギ科スギ属スギ（*Cryptomeria japonica* D.Don）

（遺物No.４～６，９,10）

（写真No.４～６，９,10）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で１分野に１～３個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

２）ブナ科クリ属クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）

（遺物No.１）

（写真No.１）

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（～500μm）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは２～３個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

３）ニレ科ケヤキ属ケヤキ（*Zelkova serrata* Makino）

（遺物No.２，３）

（写真No.２，３）

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（～270μm）が１列で孔圏部を形成して

いる。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織）。放射組織は１～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の１～３列のものと大部分を占める６～７細胞列のほぼ大きさの一様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

４）モクレン科モクレン属（Magnolia sp.）

（遺物No.７，８）

（写真No.７，８）

散孔材である。木口ではやや小さい道管（～110μｍ）が単独ないし２～４個複合して多数分布する。軸方向柔組織は１～２層の幅で年輪界に配列する。柾目では道管は単穿孔と側壁に階段壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなる同性と平伏と直立細胞からなる異性がある。道管放射組織間壁孔は階段状である。板目では放射組織は１～２細胞列、高さ～700μｍとなっている。モクレン属はホオノキ、コブシなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆

林 昭三　「日本産木材顕微鏡写真集」　京都大学木質科学研究所（1991）
伊東隆夫　「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」　京都大学木質科学研究所（1999）
島地 謙･伊東隆夫　「日本の遺跡出土木製品総覧」　雄山閣出版（1988）
北村四郎･村田 源　「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」　保育社（1979）
奈良国立文化財研究所　「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）
奈良国立文化財研究所　「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

◆使用顕微鏡◆

Nikon DS-Fi1

第37表　船戸遺跡出土木製品同定表

No.	品名	樹種
1	漆塗り皿（破片）	ブナ科クリ属クリ
2	漆塗り椀（破片）	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
3	漆塗り椀（破片）	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
4	箆	スギ科スギ属スギ
5	箆	スギ科スギ属スギ
6	斎串	スギ科スギ属スギ
7	自在	モクレン家モクレン属
8	自在	モクレン家モクレン属
9	漆塗り曲げ物底	スギ科スギ属スギ
10	曲げ物底	スギ科スギ属スギ

第７節　船戸遺跡出土種実と骨の同定結果

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

船戸遺跡（秋田県大仙市北楢岡字船戸482外）は、雄物川右岸に形成された河岸段丘上に立地する。本遺跡では、発掘調査の結果、鎌倉・室町時代の竪穴建物跡、井戸跡、かまど状遺構、焼土遺構、区画溝と考えられる大溝が検出されたほか、当該期の陶磁器や木製品、さらに平安時代や江戸時代の遺物が確認されている。

本報告では、鎌倉・室町時代における植物利用、骨片が出土した遺構の性格および出土骨の種類の検討を目的として、種実同定および骨同定を実施した。

Ⅰ　種実同定

１　試料

試料は、鎌倉・室町時代とされる井戸跡などから出土した種実遺体である。分析に供された試料は、ＳＥ26 ４層（試料番号１−１）、同５層（試料番号１−２～４）、ＳＥ45 ３層（試料番号２−１）、同４層（試料番号２−２～６）、ＳＥ98 ５層（試料番号３−１）、同６層（試料番号３−２，３）、同７層（試料番号３−３）、ＳＥ195 ５層（試料番号３−５，６）、ＳＥ164 ４層（試料番号４−１～３）、ＳＥ200 ７層（試料番号５−１，２）、ＳＮ443 ２層（試料番号５−３）、ＳＫＰ272 １層（試料番号５−４）の計23点（510個）からなる。また、種実遺体は、いずれも容器に保管されており、すべて乾燥した状態である。

２　分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実遺体を抽出する。種実遺体の同定は、現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）などを参考に実施し、個数を数えて結果を一覧表で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、-（ハイフォン）で結んで示す。また、主に栽培種や栽培種の可能性を含む分類群を対象として、デジタルノギスを用いて、種実遺体の長さ、幅、厚さを計測し、結果を一覧表に示す。分析後は、種実遺体を分類群別に容器に入れて保管する。

３　結果

（１）種実出土状況

同定結果を第38表に示す。全23試料を通じて、被子植物43分類群（木本のホオノキ、コブシ - タムシバ、スモモ、モモ、ナシ属−リンゴ属、キハダ、ウルシ近似種、サンカクヅル - エビヅル、ヤマブドウ近似種、ミズキ、草本のイネ、オオムギ、ヒエ近似種、ヒエ - タイヌビエ、イネ科、ミクリ属、アゼスゲ類、ウキヤガラ、ホタルイ近似種、ホタルイ属、ホタルイ属（平滑型）、ギシギシ属、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種、サナエタデ近似種、イヌタデ近似種、タデ属（３稜粗面型）、タデ属

第38表　種実同定結果（１）

試料番号	遺構名	層名	分類群	部位	状態	個数	枝番	計測値(mm) 長さ	幅	厚さ	備考
1-1	SE26	4層	コブシ-タムシバ	種子	完形	1	－	8.0	7.9	4.1	
1-2	SE26	5層	コブシ-タムシバ	種子	完形	1	－	7.4	7.9	4.0	
1-2	SE26	5層	スモモ	核	完形	1	－	13.9	12.1	8.0	
1-2	SE26	5層	アゼスゲ類	果実	完形	2	－	－	－	－	
1-2	SE26	5層	エノキグサ	種子	完形	20	－	－	－	－	
1-2	SE26	5層	スミレ属	種子	完形	1	－	－	－	－	
1-2	SE26	5層	キカラスウリ	種子	完形	10	1	15.3	7.6	1.9	
1-2	SE26	5層	キカラスウリ	種子	完形	－	2	14.6	8.7	1.4	
1-2	SE26	5層	キカラスウリ	種子	完形	－	3	14.1	8.7	1.6	
1-2	SE26	5層	キカラスウリ	種子	完形	－	4	14.0	7.4	2.1	
1-2	SE26	5層	キカラスウリ	種子	完形	－	5	13.9	8.2	2.0	
1-2	SE26	5層	キカラスウリ	種子	完形	－	6	13.3	7.5	2.3	
1-2	SE26	5層	キカラスウリ	種子	完形	－	7	12.3	8.6	1.5	
1-2	SE26	5層	キカラスウリ	種子	完形	－	8	11.7	7.1	1.3	
1-2	SE26	5層	キカラスウリ	種子	完形	－	9	11.3	6.6	1.3	
1-2	SE26	5層	キカラスウリ	種子	完形	－	10	10.3	5.7	1.5	
1-2	SE26	5層	ミツガシワ	種子	完形	1	－	2.3	2.1	1.4	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	16	1	2.3	2.0	1.8	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	2	2.3	2.0	1.5	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	3	2.2	2.0	1.5	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	4	2.2	2.0	1.6	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	5	2.2	2.0	1.7	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	6	2.2	1.9	1.5	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	7	2.1	1.9	1.6	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	8	2.1	2.0	1.6	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	9	2.1	1.8	1.5	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	10	2.1	1.8	1.4	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	11	2.1	1.8	1.6	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	12	1.9	1.8	1.5	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	13	1.9	1.8	1.3	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	14	1.9	1.6	1.4	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	15	1.8	1.6	1.4	
1-2	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	－	16	1.8	1.6	1.3	
1-2	SE26	5層	シソ属	果実	完形	2	1	1.7	1.5	1.3	
1-2	SE26	5層	シソ属	果実	完形	－	2	1.5	1.4	1.2	
1-2	SE26	5層	不明		完形　炭化	1	－	1.2	1.0	1.1	表面微細な網目模様
1-2	SE26	5層	(昆虫)		破片	1	－	－	－	－	
1-3	SE26	5層	モモ	核	完形	1	－	21.7	17.7	13.7	
1-3	SE26	5層	モモ	核	破片	2	1	21.3 +	18.4 +	9.0 +	半分厚,縫合線に沿わず割れる,下記と別個体
1-3	SE26	5層	モモ	核	破片	－	2	21.7 +	16.1 +	6.1 +	半分厚,縫合線に沿わず割れる,上記と別個体
1-4	SE26	5層	ヒエ近似種	穎・胚乳	完形　炭化	1	－	1.9	1.3	0.6	分析時に破損
1-4	SE26	5層	ウキヤガラ	果実	完形	10	－	－	－	－	
1-4	SE26	5層	ホタルイ属(平滑型)	果実	完形　炭化?	1	－	－	－	－	光沢強い,焼き膨れ?
1-4	SE26	5層	ヤナギタデ近似種	果実	完形	2	－	－	－	－	
1-4	SE26	5層	ボントクタデ近似種	果実	完形	1	－	－	－	－	
1-4	SE26	5層	イヌタデ近似種	果実	完形	4	－	－	－	－	
1-4	SE26	5層	ヒユ属	種子	完形	16	－	－	－	－	1個分析時に破損
1-4	SE26	5層	アズキ類	種子	完形　炭化	1	－	6.0	4.4	4.9	臍長2.66mm,臍幅0.67mm
1-4	SE26	5層	ダイズ類	種子	完形　炭化	1	－	5.6	3.9	3.0	臍長1.66mm,臍幅0.75mm
1-4	SE26	5層	エノキグサ	種子	完形	1	－	－	－	－	
1-4	SE26	5層	エゴマ	果実	完形	1	－	2.3	1.9	1.6	
1-4	SE26	5層	(岩片)			1	－	－	－	－	
2-1	SE45	3層	アズキ類	種子	完形　炭化	2	1	4.1	2.8	2.4	臍残存長1.17mm
2-1	SE45	3層	アズキ類	種子	完形　炭化	－	2	3.5	2.2 +	2.8	腹面欠損
2-1	SE45	3層	キカラスウリ	種子	完形	1	－	11.4 +	6.9	2.9	基部欠損
2-2	SE45	4層	マクワ・シロウリ型	種子	完形	8	1	7.8	3.4	1.3	
2-2	SE45	4層	マクワ・シロウリ型	種子	完形	－	2	7.7	3.5	1.6	
2-2	SE45	4層	マクワ・シロウリ型	種子	完形	－	3	7.2	3.4	1.7	
2-2	SE45	4層	マクワ・シロウリ型	種子	完形	－	4	7.0	3.2	1.2	
2-2	SE45	4層	マクワ・シロウリ型	種子	完形	－	5	6.9	3.2	1.3	
2-2	SE45	4層	マクワ・シロウリ型	種子	完形	－	6	6.6	3.4	0.7	
2-2	SE45	4層	マクワ・シロウリ型	種子	完形	－	7	6.2	3.0	1.1	
2-2	SE45	4層	マクワ・シロウリ型	種子	完形	－	8	6.2	3.1	0.8	
2-2	SE45	4層	雑草メロン型	種子	完形	1	－	5.4	2.7	1.1	
2-2	SE45	4層	ナス	種子	完形	10	1	2.7	3.6	1.0	
2-2	SE45	4層	ナス	種子	完形	－	2	2.5	3.4	1.0	
2-2	SE45	4層	ナス	種子	完形	－	3	2.7	3.4	0.6	
2-2	SE45	4層	ナス	種子	完形	－	4	2.7	3.4	1.1	
2-2	SE45	4層	ナス	種子	完形	－	5	2.7	3.2	0.8	
2-2	SE45	4層	ナス	種子	完形	－	6	2.5	3.2	0.6	
2-2	SE45	4層	ナス	種子	完形	－	7	2.4	3.1	1.2	
2-2	SE45	4層	ナス	種子	完形	－	8	2.6	3.1	0.8	
2-2	SE45	4層	ナス	種子	完形	－	9	2.5	3.0	0.7	
2-2	SE45	4層	ナス	種子	完形	－	10	2.6	2.9	0.8	
2-3	SE45	4層	スモモ	果実	完形	1	－	13.4	11.5	7.6	
2-3	SE45	4層	スモモ	核	完形　炭化	1	－	14.1	12.0	8.5	頂部～側面欠損,内部に種子確認
2-3	SE45	4層	スモモ	核	完形	2	1	14.3	13.0	9.4	
2-3	SE45	4層	スモモ	核	完形	－	2	12.5	10.9	7.4	
2-3	SE45	4層	スモモ	核	半分	1	－	12.2	10.2	3.5 +	半分厚
2-4	SE45	4層	モモ	核	完形	2	1	26.9	18.3	14.0	
2-4	SE45	4層	モモ	核	完形	－	2	29.7	21.9	15.1	
2-5	SE45	4層	コブシ-タムシバ	種子	完形	1	－	8.1	8.5	4.7	
2-5	SE45	4層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	4	1	2.9	4.1	2.8	
2-5	SE45	4層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	2	2.9	3.9	2.2	
2-5	SE45	4層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	3	3.1	4.1	1.9	
2-5	SE45	4層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	4	3.4	4.0	2.7	

第39表　種実同定結果（２）

試料番号	遺構名	層名	分類群	部位	状態	個数	枝番	計測値(mm) 長さ	幅	厚さ	備考
2-5	SE45	4層	サンカクヅル-エビヅル	種子	完形	4	1	4.2	2.8	2.2	外種皮残存
2-5	SE45	4層	サンカクヅル-エビヅル	種子	完形	－	2	3.9	2.9	2.3	外種皮残存
2-5	SE45	4層	サンカクヅル-エビヅル	種子	完形	－	3	3.4	2.8	2.0	
2-5	SE45	4層	サンカクヅル-エビヅル	種子	完形	－	4	4.0	3.1	2.4	
2-5	SE45	4層	ミズキ	核	完形	1	－	3.7	4.5	3.8	
2-5	SE45	4層	ボントクタデ近似種	果実	完形	1	－	－	－	－	
2-5	SE45	4層	ソバ	果実	完形	3	1	5.8	4.1	－	
2-5	SE45	4層	ソバ	果実	完形	－	2	5.8	3.7	－	
2-5	SE45	4層	ソバ	果実	完形	－	3	5.6	3.6	－	
2-5	SE45	4層	アズキ類	種子	完形　炭化	1	－	5.3	3.3	3.2	臍長1.93mm,臍幅0.74mm
2-5	SE45	4層	アズキ類?	種子	完形　炭化	2	1	3.1	2.2	2.3	小型,臍欠損,V字溝
2-5	SE45	4層	アズキ類?	種子	完形　炭化	－	2	3.1	2.3	2.3	小型,臍欠損,V字溝
2-5	SE45	4層	(ミミズ類卵胞?)		完形	2	－	－	－	－	
2-6	SE45	4層	ウキヤガラ	果実	完形	10	－	－	－	－	
2-6	SE45	4層	ホタルイ近似種	果実	完形	8	－	－	－	－	花被片は果長よりも長い
2-6	SE45	4層	ホタルイ属(平滑型)	果実	完形	1	－	－	－	－	花被片残存,フトイ,サンカクイの類
2-6	SE45	4層	ヤナギタデ近似種	果実	完形	9	－	－	－	－	
2-6	SE45	4層	ボントクタデ近似種	果実	完形	1	－	－	－	－	
2-6	SE45	4層	サナエタデ近似種	果実	完形	1	－	－	－	－	
2-6	SE45	4層	イヌタデ近似種	果実	完形	11	－	－	－	－	3個食痕
2-6	SE45	4層	エノキグサ	種子	完形	8	－	－	－	－	
2-6	SE45	4層	エゴマ	果実	完形	1	－	2.0	1.7	1.5	
2-6	SE45	4層	シソ属	果実	完形	1	－	1.6	1.3	1.2	
2-6	SE45	4層	不明		完形　炭化	1	－	1.6	1.5	1.0	偏球体
3-1	SE98	5層	サンカクヅル-エビヅル	種子	完形	1	－	3.5	3.2	2.0	合点突出,長さ1.1mm,幅0.8mm
3-1	SE98	5層	ヒエ近似種	胚乳	完形　炭化	1	－	2.1	1.6	1.6	
3-1	SE98	5層	ヒエ-タイヌビエ	胚乳	完形炭化	1	－	2.0	1.6	1.2	
3-1	SE98	5層	ウキヤガラ	果実	完形	6	－	－	－	－	
3-1	SE98	5層	アズキ類	種子	完形　炭化	1	－	6.2	4.0	3.9	臍欠損
3-1	SE98	5層	エゴマ	果実	完形	1	－	2.1	1.8	1.6	
3-1	SE98	5層	不明		完形　炭化	1	－	1.8	－	－	偏球体
3-2	SE98	6層	モモ	核	破片	1	－	25.7 +	15.9 +	7.2 +	摩耗,半分厚
3-3	SE98	6層	ナシ属-リンゴ属	種子	完形　炭化	1	－	7.5	4.8	2.7 +	
3-3	SE98	6層	ヒエ近似種	穎・胚乳	完形　炭化	2	1	1.9	1.4	1.0	
3-3	SE98	6層	ヒエ近似種	穎・胚乳	完形　炭化	－	2	2.4	1.5	1.0	
3-3	SE98	6層	ヒエ近似種	胚乳	完形　炭化	1	－	1.6	1.4	1.1	
3-3	SE98	6層	イネ科	胚乳	完形　炭化	1	－	1.3	1.2	0.8	
3-3	SE98	6層	ホタルイ属(平滑型)	果実	完形	3	－	－	－	－	
3-3	SE98	6層	イヌタデ近似種	果実	完形	1	－	－	－	－	
3-3	SE98	6層	ボントクタデ近似種	果実	完形	1	－	－	－	－	
3-3	SE98	6層	アズキ類	種子	完形　炭化	2	1	4.6	2.7	2.6	小型,臍残存長1.18mm,臍幅0.42mm
3-3	SE98	6層	アズキ類	種子	完形　炭化	－	2	5.6	3.9	4.0	臍残存長2.33mm,
3-3	SE98	6層	エノキグサ	種子	完形	1	－	－	－	－	
3-4	SE98	7層	アカザ属	種子	完形	6	－	－	－	－	
3-4	SE98	7層	ヒユ属	種子	完形	8	－	－	－	－	
3-4	SE98	7層	アズキ類	種子	完形　炭化	1	－	5.8	3.9	3.6	臍長2.06mm,臍幅0.83mm
3-5	SE195	5層	ミクリ属	果実	半分	1	－	5.6	3.7	1.4	
3-5	SE195	5層	マクワ・シロウリ型	種子	完形	1	－	6.4	3.2	0.8	
3-5	SE195	5層	雑草メロン型	種子	完形	1	－	5.0	2.7	1.1	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	51	1	3.7	4.5	2.7	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	2	3.5	4.5	2.8	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	3	3.9	5.5	3.1	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	4	3.5	4.8	2.7	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	5	3.1	4.7	2.3	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	6	3.6	4.1	2.2	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	7	3.2	4.9	2.0	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	8	3.4	4.9	2.2	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	9	3.1	4.9	1.8	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	10	3.4	4.5	2.2	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	11	3.2	4.4	1.8	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	12	3.5	4.7	2.4	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	13	3.5	5.2	2.3	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	14	3.3	4.3	2.1	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	15	3.4	4.4	2.3	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	16	3.4	5.0	2.4	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	17	2.8	4.2	2.3	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	18	3.6	4.8	2.6	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	19	2.8	3.7	2.0	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	20	2.9	4.0	2.4	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	21	3.0	4.0	2.5	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	22	2.8	4.1	2.4	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	23	2.9	4.0	2.7	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	24	3.2	4.5	2.5	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	25	3.8	5.1	2.3	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	26	3.5	4.9	2.7	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	27	3.6	4.7	2.5	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	28	3.6	4.8	2.8	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	29	2.6	3.8	1.6	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	30	3.3	4.2	2.5	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	31	2.9	3.5	2.4	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	32	3.6	4.2	1.9	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	33	3.8	4.9	2.6	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	34	3.5	5.2	2.8	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	35	3.2	4.2	2.8	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	36	3.6	5.0	2.5	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	37	3.8	4.3	2.7	

第40表　種実同定結果（３）

試料番号	遺構名	層名	分類群	部位	状態	個数	枝番	計測値(mm) 長さ	幅	厚さ	備考
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	38	2.8	3.8	2.5	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	39	3.5	4.5	2.6	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	40	3.2	4.6	2.5	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	41	3.2	3.9	2.4	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	42	3.7	4.7	2.3	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	43	3.4	4.8	2.3	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	44	3.6	4.7	3.0	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	45	2.8	4.0	2.7	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	46	3.6	3.7	2.5	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	47	3.5	5.1	2.4	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	48	3.3	4.3	2.8	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	49	2.7	3.9	2.0	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	50	3.5	4.0	2.8	
3-6	SE195	5層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	51	3.0	4.3	2.4	イネ穎付着
3-6	SE195	5層	オオムギ	胚乳	完形　炭化	1	－	4.9 +	3.4	2.5	頂部わずかに欠損
3-6	SE195	5層	アズキ類	種子	完形　炭化	2	1	5.4	3.9	3.9	臍長1.97mm,臍幅0.5mm
3-6	SE195	5層	アズキ類	種子	完形　炭化	－	2	5.0	3.4	2.9	臍残存長0.87mm
3-6	SE195	5層	ダイズ類	種子	完形　炭化	2	1	5.8	3.8	2.8	臍長1.42mm,臍幅0.67mm
3-6	SE195	5層	ダイズ類	種子	完形　炭化	－	2	7.0	4.7	3.5	臍欠損
4-1	SE164	4層	イネ	穎・胚乳	完形　炭化	1	－	6.7	3.0	2.7	
4-1	SE164	4層	イネ	胚乳	完形　炭化	2	1	5.8	3.4	2.9	
4-1	SE164	4層	イネ	胚乳	完形　炭化	－	2	4.5	2.5	2.2	
4-1	SE164	4層	ウキヤガラ	果実	完形	2	－	－	－	－	
4-1	SE164	4層	ヤナギタデ近似種	果実	完形	4	－	－	－	－	
4-1	SE164	4層	イヌタデ近似種	果実	完形	39	－	－	－	－	
4-1	SE164	4層	ボントクタデ近似種	果実	完形	1	－	－	－	－	
4-1	SE164	4層	タデ属(3稜粗面型)	果実	完形	3	－	－	－	－	
4-1	SE164	4層	ソバ	果実	完形	3	1	5.2	3.6	－	
4-1	SE164	4層	ソバ	果実	完形	－	2	5.6	3.9	－	
4-1	SE164	4層	ソバ	果実	完形	－	3	6.1	3.5	－	
4-1	SE164	4層	アカザ属	種子	完形	19	－	－	－	－	
4-1	SE164	4層	ヒユ属	種子	完形	11	－	－	－	－	
4-1	SE164	4層	アズキ類	種子	完形　炭化	1	－	5.3 +	3.7	3.9	基部僅かに欠損,臍欠損
4-1	SE164	4層	エノキグサ	種子	完形	3	－	－	－	－	
4-1	SE164	4層	(ミミズ類卵胞?)		完形	2	－	－	－	－	
4-2	SE164	4層	ホオノキ	種子	完形	1	－	10.6	8.5	4.4	
4-2	SE164	4層	キハダ	種子	完形	1	－	4.6	2.7	1.6	食痕
4-2	SE164	4層	マクワ・シロウリ型	種子	完形	5	1	7.9	3.3	1.4	
4-2	SE164	4層	マクワ・シロウリ型	種子	完形	－	2	7.5	3.3	1.1	
4-2	SE164	4層	マクワ・シロウリ型	種子	完形	－	3	7.6	4.1	1.2	
4-2	SE164	4層	マクワ・シロウリ型	種子	完形	－	4	7.1	3.2	1.4	
4-2	SE164	4層	マクワ・シロウリ型	種子	完形	－	5	7.0	3.0 +	1.6	
4-3	SE164	4層	モモ	核	半分	2	－	27.2	20.9	14.8	接合し完形1個
5-1	SE200	7層	ヤマブドウ近似種	種子	完形	1	－	5.3	4.1	2.9	合点:凹む,長さ1.8mm,幅0.8mm
5-1	SE200	7層	サンカクヅル-エビヅル	種子	完形	1	－	3.9	3.4	2.2	合点:やや突出,長さ1.5mm,幅1.0mm
5-2	SE200	7層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	3	1	3.5	5.7	3.0	
5-2	SE200	7層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	2	3.4	4.7	2.4	
5-2	SE200	7層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	3	3.8	4.9	2.3	
5-2	SE200	7層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	3	1	3.7	5.3	2.5	
5-2	SE200	7層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	2	3.2	4.1	1.9	
5-2	SE200	7層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	－	3	3.1	4.5	2.6	
5-2	SE200	7層	ウルシ近似種	核	完形　炭化	1	－	2.8	3.8	2.0	
5-2	SE200	7層	ウキヤガラ	果実	完形	53	－	－	－	－	
5-2	SE200	7層	ホタルイ属	果実	完形	3	－	－	－	－	
5-2	SE200	7層	ホタルイ属(平滑型)	果実	完形	3	－	－	－	－	
5-2	SE200	7層	ギシギシ属	果実	完形　炭化	1	－	－	－	－	
5-2	SE200	7層	ヤナギタデ近似種	果実	完形	3	－	－	－	－	
5-2	SE200	7層	イヌタデ近似種	果実	完形	4	－	－	－	－	
5-2	SE200	7層	タデ属(3稜型)	果実	完形　炭化	1	－	－	－	－	
5-2	SE200	7層	アカザ属	種子	破片	1	－	－	－	－	
5-2	SE200	7層	アズキ類	種子	完形　炭化	9	1	6.4	3.7	3.8	臍長2.23mm,臍幅0.52mm
5-2	SE200	7層	アズキ類	種子	完形　炭化	－	2	5.4	3.5	3.6	臍長2.28mm,臍幅0.57mm
5-2	SE200	7層	アズキ類	種子	完形　炭化	－	3	6.2	3.8	4.1	臍長2.02mm,臍幅0.6mm
5-2	SE200	7層	アズキ類	種子	完形　炭化	－	4	5.1	3.5	3.1	臍残存長2.14mm
5-2	SE200	7層	アズキ類	種子	完形　炭化	－	5	5.4	3.1	3.2	臍欠損
5-2	SE200	7層	アズキ類	種子	完形　炭化	－	6	6.0	4.2	4.1	臍欠損
5-2	SE200	7層	アズキ類	種子	完形　炭化	－	7	6.4	3.7	3.7	臍欠損
5-2	SE200	7層	アズキ類	種子	完形　炭化	－	8	4.7	3.5	3.4	臍欠損
5-2	SE200	7層	アズキ類	種子	完形　炭化	－	9	6.0	4.3	4.1	接合し完形1個となる,臍長3mm,臍幅1.25mm
5-2	SE200	7層	ダイズ類	種子	完形　炭化	1	－	4.3	3.0	2.5	臍長1.68mm,臍幅0.6mm
5-2	SE200	7層	ダイズ類?	種子	完形　炭化	3	1	6.2	4.2	3.8	臍欠損
5-2	SE200	7層	ダイズ類?	種子	完形　炭化	－	2	6.4	4.8	4.5	臍欠損
5-2	SE200	7層	ダイズ類?	種子	完形　炭化	－	3	5.7	5.0	4.5	臍欠損
5-2	SE200	7層	エノキグサ	種子	完形	6	－	－	－	－	
5-2	SE200	7層	エゴマ	果実	完形　炭化	1	－	1.9 +	1.6	1.4	基部をわずかに欠損
5-2	SE200	7層	不明		完形　炭化	1	－	1.1	－	－	球体,表面微細な粒状模様
5-3	SN443	2層	マメ科	種子	破片　炭化	6	－	－	－	－	計1個体分?,アズキ類/ダイズ類か？
5-4	SKP272	1層	モモ	核	破片　炭化	4	－	16.0 +	11.6 +	9.2 +	下記種子と同一個体の可能性,計1個体分?
5-4	SKP272	1層	モモ	種子	完形　炭化	1	－	9.6 +	6.4 +	3.0 +	上記核と同一個体の可能性

＊計測値はデジタルノギスによる

（３稜型）、ソバ、アカザ属、ヒユ属、アズキ類、ダイズ類、マメ科、エノキグサ、スミレ属、キカラスウリ、マクワ･シロウリ型、雑草メロン型、ミツガシワ、エゴマ、シソ属、ナス）500個の種実遺体が抽出･同定された。なお、試料番号１－２、２－６、３－１、５－２の４個は、不明の炭化物で同定ができなかった。

種実以外では、昆虫の破片が１個（試料番号1-2）、ミミズ類の卵胞と考えられる物質が４個（試料番号２－５、４－１）、岩片が１個（試料番号１－４）確認された。

栽培種は、スモモが12個、モモが13個、イネが３個、オオムギが１個、ソバが６個、マクワ･シロウリ型が14個、雑草メロン型が２個、エゴマが20個、ナスが10個の、計74個が確認され、スモモ１個、モモ５（推定１）個、イネ３個、オオムギ１個、エゴマ１個の、計７個が炭化している。

栽培種の可能性を含む分類群は、ナシ属-リンゴ属が１個、ウルシ近似種が62個、ヒエ近似種が５個、ヒエ - タイヌビエが１個、イネ科が１個、アズキ類（？含む）が22個、ダイズ類（？含む）が７個、マメ科が６（推定１）個、シソ属が３個の、計108個が確認され、シソ属を除く105個が炭化している。

栽培種およびその可能性を除いた分類群は、草本主体の組成を示す。草本は、明るく開けた場所を好んで生育する、いわゆる人里植物に属する分類群が多く、多年生の抽水植物（根が水底に固着し、植物体の一部が水面を突き抜けて空気中に出る植物）のミクリ属、ウキヤガラ、ホタルイ近似種を含むホタルイ属、ホタルイ属（平滑型；サンカクイやフトイの類）、ミツガシワや、湿生植物のアゼスゲ類、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種などの水湿地生植物が確認される。この他に、ギシギシ属、サナエタデ近似種、イヌタデ近似種、タデ属（３稜粗面型）、タデ属（３稜型）、アカザ属、ヒユ属、エノキグサ、スミレ属、キカラスウリなどの、湿った場所にもやや乾いた場所にも生育する分類群が確認された。このうち、ＳＥ200から確認されたギシギシ属１個、タデ属（３稜型）１個は炭化しており、ＳＥ26 ５層から確認されたホタルイ属（平滑型）１個は炭化している可能性がある。

木本は全て落葉広葉樹で、高木になるホオノキ、コブシ - タムシバ、キハダ、ミズキや、籐本のサンカクヅル - エビヅル、ヤマブドウ近似種などの、河畔や崩壊地、林縁等の明るく開けた場所に生育する樹種が確認された。

（２）遺構別種実出土状況（第57図、第41表）

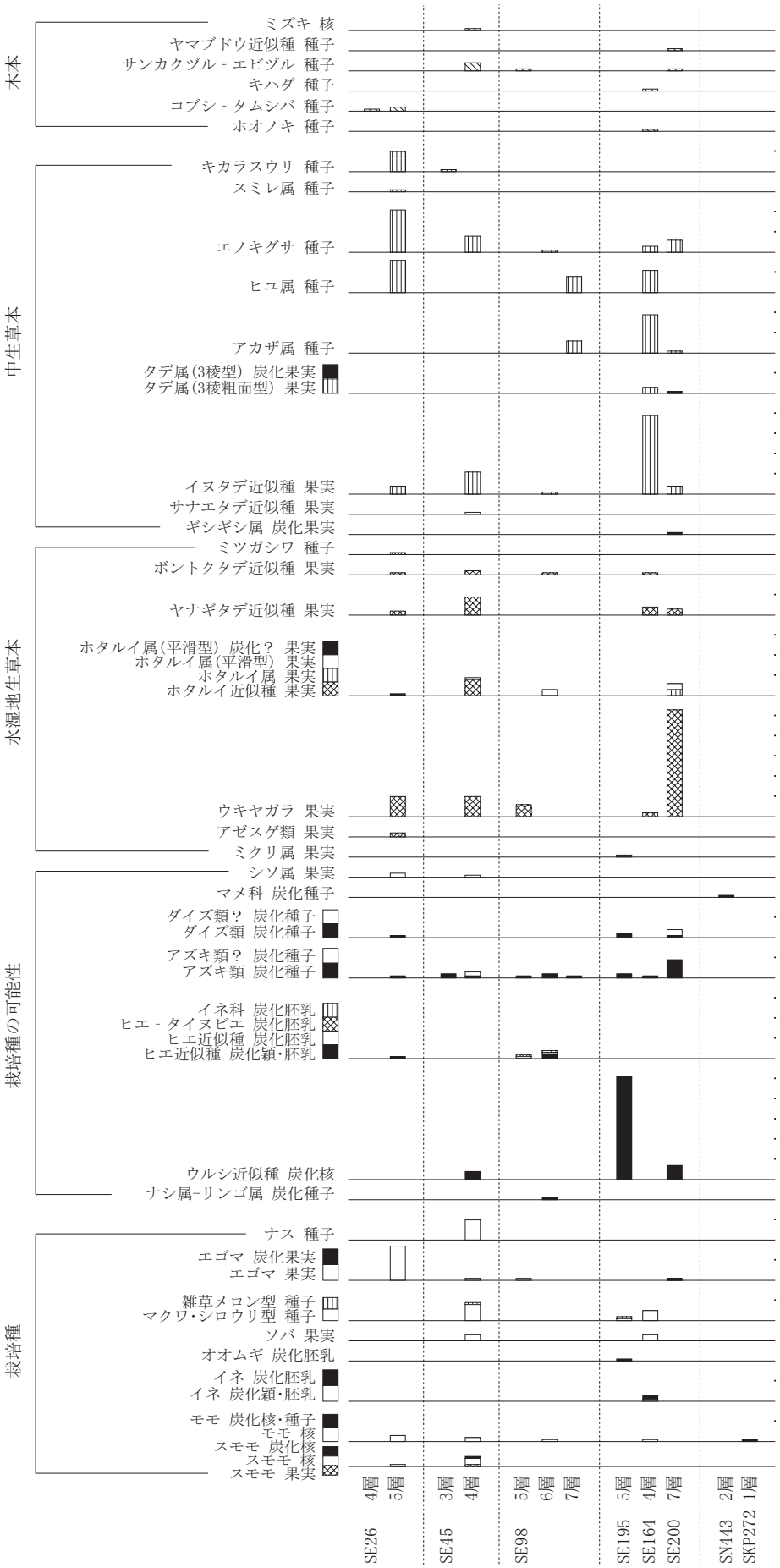
１）ＳＥ26（試料番号１－１～４）

５層からは、栽培種のスモモの核が１個、モモの核が３個、エゴマの果実が17個、栽培種の可能性を含むヒエ近似種の炭化穎・胚乳が１個、アズキ類の炭化種子が１個、ダイズ類の炭化種子が１個、シソ属の果実が２個と、高木のコブシ - タムシバが２個、水湿地生草本6分類群（アゼスゲ類、ウキヤガラ、ホタルイ属（平滑型；炭化？）、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種、ミツガシワ）17個、中生草本５分類群（イヌタデ近似種、ヒユ属、エノキグサ、スミレ属、キカラスウリ）52個の、計97個が確認された。

４層からは、高木のコブシ - タムシバの種子が１個確認された。

２）ＳＥ45（試料番号２－１～６）

４層からは、栽培種のスモモの果実が１個、核が３個、炭化核が１個、モモの核が２個、ソバの果実が３個、マクワ･シロウリ型の種子が８個、雑草メロン型の種子が１個、エゴマの果実が１個、ナス


木本
ミズキ 核
ヤマブドウ近似種 種子
サンカクヅル - エビヅル 種子
キハダ 種子
コブシ - タムシバ 種子
ホオノキ 種子
中生草本
キカラスウリ 種子
スミレ属 種子
エノキグサ 種子
ヒユ属 種子
アカザ属 種子
タデ属(3稜型) 炭化果実
タデ属(3稜粗面型) 果実
イヌタデ近似種 果実
サナエタデ近似種 果実
ギシギシ属 炭化果実
水湿地生草本
ミツガシワ 種子
ボントクタデ近似種 果実
ヤナギタデ近似種 果実
ホタルイ属(平滑型) 炭化？ 果実
ホタルイ属(平滑型) 果実
ホタルイ属 果実
ホタルイ近似種 果実
ウキヤガラ 果実
アゼスゲ類 果実
ミクリ属 果実
栽培種の可能性
シソ属 果実
マメ科 炭化種子
ダイズ類？ 炭化種子
ダイズ類 炭化種子
アズキ類？ 炭化種子
アズキ類 炭化種子
イネ科 炭化胚乳
ヒエ - タイヌビエ 炭化胚乳
ヒエ近似種 炭化胚乳
ヒエ近似種 炭化穎・胚乳
ウルシ近似種 炭化核
ナシ属-リンゴ属 炭化種子
栽培種
ナス 種子
エゴマ 炭化果実
エゴマ 果実
雑草メロン型 種子
マクワ・シロウリ型 種子
ソバ 果実
オオムギ 炭化胚乳
イネ 炭化胚乳
イネ 炭化穎・胚乳
モモ 炭化核・種子
モモ 核
スモモ 炭化核
スモモ 核
スモモ 果実
10個
4層
5層
3層
4層
5層
6層
7層
5層
4層
7層
2層
1層
SE26
SE45
SE98
SE195
SE164
SE200
SN443
SKP272

第57図　種実遺体群集

第41表　種実出土状況

分類群	部位・状態	SE26 4層	SE26 5層	SE45 3層	SE45 4層	SE98 5層	SE98 6層	SE98 7層	SE195 5層	SE164 4層	SE200 7層	SN443 2層	SKP272 1層	合計
栽培種														
木本														
スモモ	果実	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	1
	核	−	1	−	3	−	−	−	−	−	−	−	−	4
	炭化核	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	1
モモ	核	−	3	−	2	−	1	−	−	1	−	−	−	7
	炭化核・種子	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	1
草本														
イネ	炭化穎・胚乳	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	1
	炭化胚乳	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	2
オオムギ	炭化胚乳	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	1
ソバ	果実	−	−	−	3	−	−	−	−	3	−	−	−	6
マクワ・シロウリ型	種子	−	−	−	8	−	−	−	1	5	−	−	−	14
雑草メロン型	種子	−	−	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−	2
エゴマ	果実	−	17	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	19
	炭化果実	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	1
ナス	種子	−	−	−	10	−	−	−	−	−	−	−	−	10
栽培種の可能性														
木本														
ナシ属−リンゴ属	炭化種子	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	1
ウルシ近似種	炭化核	−	−	−	4	−	−	−	51	−	7	−	−	62
草本														
ヒエ近似種	炭化穎・胚乳	−	1	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	3
	炭化胚乳	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	2
ヒエ-タイヌビエ	炭化胚乳	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	1
イネ科	炭化胚乳	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	1
アズキ類	炭化種子	−	1	2	1	1	2	1	2	1	9	−	−	20
アズキ類?	炭化種子	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	2
ダイズ類	炭化種子	−	1	−	−	−	−	−	2	−	1	−	−	4
ダイズ類?	炭化種子	−	−	−	−	−	−	−	−	−	3	−	−	3
マメ科	炭化種子	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	1
シソ属	果実	−	2	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	3
その他														
木本														
ホオノキ	種子	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	1
コブシ-タムシバ	種子	1	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	3
キハダ	種子	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	1
サンカクヅル-エビヅル	種子	−	−	−	4	1	−	−	−	−	1	−	−	6
ヤマブドウ近似種	種子	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	1
ミズキ	核	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	1
水湿地生草本														
ミクリ属	果実	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	1
アゼスゲ類	果実	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2
ウキヤガラ	果実	−	10	−	10	6	−	−	−	2	53	−	−	81
ホタルイ近似種	果実	−	−	−	8	−	−	−	−	−	−	−	−	8
ホタルイ属	果実	−	−	−	−	−	−	−	−	−	3	−	−	3
ホタルイ属(平滑型)	果実	−	−	−	1	−	3	−	−	−	3	−	−	7
	炭化?果実	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
ヤナギタデ近似種	果実	−	2	−	9	−	−	−	−	4	3	−	−	18
ボントクタデ近似種	果実	−	1	−	2	−	1	−	−	1	−	−	−	5
ミツガシワ	種子	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
中生草本														
ギシギシ属	炭化果実	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	1
サナエタデ近似種	果実	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	1
イヌタデ近似種	果実	−	4	−	11	−	1	−	−	39	4	−	−	59
タデ属(3稜粗面型)	果実	−	−	−	−	−	−	−	−	3	−	−	−	3
タデ属(3稜型)	炭化果実	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	1
アカザ属	種子	−	−	−	−	−	−	6	−	19	1	−	−	26
ヒユ属	種子	−	16	−	−	−	−	8	−	11	−	−	−	35
エノキグサ	種子	−	21	−	8	−	1	−	−	3	6	−	−	39
スミレ属	種子	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
キカラスウリ	種子	−	10	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	11
合計		1	97	3	93	11	14	15	59	97	98	1	1	490

＊ SN443、SKP272 は、炭化破片から推定される個数を示す

の種子が10個、栽培種の可能性を含むウルシ近似種の炭化核が４個、アズキ類（?含む）の炭化種子が３個、シソ属の果実が１個と、高木のミズキが１個、籐本のサンカクヅル - エビヅルが４個、水湿地生草本５分類群（ウキヤガラ、ホタルイ近似種、ホタルイ属（平滑型）、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種）30個、中生草本３分類群（サナエタデ近似種、イヌタデ近似種、エノキグサ）20個の、計93個が確認された。

３層からは、栽培種の可能性を含むアズキ類の炭化種子が２個と、つる性草本のキカラスウリが１個の、計３個が確認された。

３）ＳＥ98（試料番号３−１～４）

７層からは、栽培種の可能性を含むアズキ類の炭化種子が１個と、中生草本2分類群（アカザ属、ヒユ属）14個の、計15個が確認された。

６層からは、栽培種のモモの核が１個、栽培種の可能性を含むナシ属 - リンゴ属の炭化種子が１個、ヒエ近似種の炭化穎･胚乳が２個、炭化胚乳が１個、イネ科の炭化胚乳が１個、アズキ類の炭化種子が２個と、水湿地生草本２分類群（ホタルイ属（平滑型）、ボントクタデ近似種）４個、中生草本２分類群（イヌタデ近似種、エノキグサ）２個の、計14個が確認された。

５層からは、栽培種のエゴマの果実が１個、栽培種の可能性を含むヒエ近似種の炭化胚乳が１個、ヒエ - タイヌビエの炭化胚乳が１個、アズキ類の炭化種子が１個と、籐本のサンカクヅル - エビヅルが４個、水湿地生草本のウキヤガラが６個の、計11個が確認された。

４）ＳＥ195（試料番号３−５，６）

５層から、栽培種のオオムギの炭化胚乳が１個、マクワ･シロウリ型の種子が１個、雑草メロン型の種子が１個、栽培種の可能性を含むウルシ近似種の炭化核が51個、アズキ類の炭化種子が２個、ダイズ類の炭化種子が２個と、水湿地生草本のミクリ属が１個の、計59個が確認された。ウルシ近似種の多産が顕著である。

５）ＳＥ164（試料番号４−１～３）

４層からは、栽培種のモモの核が１個、イネの炭化穎・胚乳が１個、炭化胚乳が２個、ソバの果実が３個、マクワ･シロウリ型の種子が５個、栽培種の可能性を含むアズキ類の炭化種子が１個と、落葉高木２分類群（ホオノキ、キハダ）２個、水湿地生草本３分類群（ウキヤガラ、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種）７個、中生草本５分類群（イヌタデ近似種、タデ属（３稜粗面型）、アカザ属、ヒユ属、エノキグサ）75個の、計97個が確認された。中生草本が比較的多く、イヌタデ近似種が最多（39個）である。

６）ＳＥ200（試料番号５−１，２）

７層からは、栽培種のエゴマの炭化果実が１個、栽培種の可能性を含むウルシ近似種の炭化核が７個、アズキ類の炭化種子が９個、ダイズ類（?含む）の炭化種子が４個と、籐本２分類群（サンカクヅル - エビヅル、ヤマブドウ近似種）２個、水湿地生草本４分類群（ウキヤガラ、ホタルイ属、ホタルイ属（平滑型）、ヤナギタデ近似種）62個、中生草本５分類群（ギシギシ属（炭化）、イヌタデ近似種、タデ属（３稜型；炭化）、アカザ属、エノキグサ）13個の、計98個が確認された。

７）ＳＮ443（試料番号５−３）

２層からは、栽培種の可能性を含むマメ科の炭化種子の破片が６個確認された。完形１個体分と推

定され、アズキ類またはダイズ類の可能性がある。

８）ＳＫＰ272（試料番号５－４）

１層からは、炭化した栽培種のモモの核の破片が４個、種子が１個の、計5個が確認された。完形１個体分と推定される。

（３）主な種実遺体の記載

各分類群の写真を図版30～33に示し、主な分類群の形態的特徴等を以下に述べる。

・スモモ(*Prunus salicina* Lindley)　バラ科サクラ属

果実・核（内果皮）は灰褐色、核１個は炭化しており黒色、レンズ状楕円体。核は長さ12.2～14.3mm、幅10.2～13.0mm、厚さ7.4～9.4mmで、頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。１本の明瞭な縦の縫合線が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面にはごく浅い凹みが不規則にみられる。縫合線に沿って割れた半分もみられる。半割面は平滑で、種子１個が入る広卵状の窪みがある。炭化核頂部～側面の欠損内部には、種子が確認される。果実は長さ13.4mm、幅11.5mm、厚さ7.6mmを測る。多汁質の果肉（中果皮）が乾燥収縮しているため、外果皮表面は粗面で皺状となる。

・モモ(*Prunus persica* Batsch)　バラ科サクラ属

核（内果皮）は灰褐色、炭化核･種子は黒色、やや偏平な広楕円体。最大の核（ＳＥ45　４層）は、長さ29.7mm、幅21.9mm、厚さ15.1mm、最小の核（ＳＥ26　５層）は、長さ21.7mm、幅17.7mm、厚さ13.7mmを測る。頂部は尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。１本の明瞭な縦の縫合線上が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。縫合線に沿って半分に割れた２個が接合し完形１個体となる核（ＳＥ164　４層）や、縫合線に沿わずに割れた核（ＳＥ26　５層）がみられる。内果皮は厚く硬く、表面には縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、粗いしわ状となる。表面が摩耗する核（ＳＥ98　６層）もみられる。核内面は平滑で、１個の種子が入る広卵状の窪みがある。炭化種子は、残存長9.6mm、残存幅6.4mm、残存厚3.0mmの偏平な楕円体で頂部がやや尖る。種皮表面は平滑で焼き崩れている。

・ナシ属(*Pyrus*) - リンゴ属(*Malus*)　バラ科

種子は炭化しており黒色、長さ7.5mm、幅4.8mm、残存厚2.7mmのやや偏平な非対称広倒卵体。基部は斜切形で臍点が尖る。背面は丸みがあり、腹面は平らで縁に低い稜がある。種皮表面は粗面。

・ウルシ(*Rhus verniciflua* Stockes)　ウルシ科ウルシ属

核（内果皮）は炭化しており黒色、やや偏平な横楕円体で背腹両面中央が凹み繭状となる。62個の計測値は、長さが最小2.6～最大3.9（平均3.30±標準偏差0.32）mm、幅が3.5～5.7（平均4.45±0.49）mm、厚さが1.6～3.1（平均2.42±0.31）mmであった（第42表）。腹面中央に長径0.6～0.8mmの長楕円形の臍がある。内果皮表面は粗面で、イネの穎の破片が付着する核１個（ＳＥ195　５層）が確認された。また、内果皮断面は柵状で、一部が剥落した内部に１個の種子が確認された。内果皮片１個を対象に走査型電子顕微鏡（SEM）観察を試みたが、内外層の区別や明瞭な層状構造は確認されなかった。内果皮内面には微細なドーム状突起の密布が確認された。

ウルシ属は、日本に６種が分布し、本地域には、ツタウルシ、ヌルデ、ヤマウルシと、中国原産で栽培され、古くからの利用が指摘されているウルシの4種が分布する（佐竹ほか,1989）。出土炭化核の

計測値を現生標本や中山ほか（2000）の計測値と比較した結果、ツタウルシとヌルデは小型のため区別され、ヤマウルシとウルシの大きさに類似することがわかった。ヤマウルシに関しては、若芽は茹でて食用に利用されるが、管見の限り、果実が利用される事例はない。今回、まとまった個数の炭化核が、炭化した栽培種やその可能性を含む分類群とともに出土したことから、人為により利用された可能性が極めて高いと判断される。以上のことから、出土核はウルシに由来する可能性が高いため、ウルシ近似種としている。

第42表　ウルシ属核の大きさ

	長さ(mm)				幅(mm)				厚さ(mm)				標本数(n)	分布	出土核の候補
	最小	最大	平均	標準偏差	最小	最大	平均	標準偏差	最小	最大	平均	標準偏差			
本遺跡出土(炭化核)															
	2.6	3.9	3.3	± 0.3	3.5	5.7	4.5	± 0.5	1.6	3.1	2.4	± 0.3	62	－	－
現生標本(非炭化核)＊															
ツタウルシ	－	－	2.7	± 0.1	－	－	3.3	± 0.1	－	－	1.9	± 0.1	10	○	小型のため除外
ヌルデ	－	－	2.7	± 0.1	－	－	3.3	± 0.1	－	－	1.9	± 0.1	10	○	小型のため除外
ヤマウルシ	－	－	3.8	± 1.0	－	－	4.8	± 0.3	－	－	2.9	± 0.1	10	○	利用は考えにくい
ウルシ	－	－	4.4	± 0.4	－	－	6.0	± 0.4	－	－	2.4	± 0.1	10	○	最有力
ヤマハゼ	－	－	4.9	± 0.2	－	－	6.7	± 0.2	－	－	2.8	± 0.1	10	－	本地域に分布しないため除外
ハゼノキ	－	－	5.5	± 0.2	－	－	7.7	± 0.4	－	－	2.9	± 0.2	10	－	本地域に分布しないため除外

＊現生標本は中山ほか(2000)を引用

・イネ(*Oryza sativa* L.)　イネ科イネ属

ウルシ近似種の核に付着した穎は灰褐色、他の穎･胚乳は炭化しており黒色、やや偏平な長楕円体を呈す。穎･胚乳は長さ6.7mm、幅3.0mm、厚さ2.7mm、胚乳は長さ5.8mm、幅3.4mm、厚さ2.9mmと、長さ4.5mm、幅2.5mm、厚さ2.2mmで、焼き膨れている。胚乳の基部一端に、胚が脱落した斜切形の凹部がある。胚乳表面はやや平滑で、２～３本の縦隆条が確認される。胚乳１個を包む穎は、基部に径１mmの斜切状円柱形の果実序柄（小穂軸）と１対の護穎を有し、その上に外穎（護穎）と内穎がある。外穎は５脈、内穎は３脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合して稲籾を構成する。果皮は薄く、表面には微細な顆粒状突起が縦列する。

・オオムギ(*Hordeum valgare* L.)　イネ科オオムギ属

胚乳は炭化しており黒色、頂部を僅かに欠損した残存長4.9mm、幅3.4mm、厚さ2.5mmのやや偏平な紡錘状長楕円体で、両端は尖る。腹面正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面は粗面で微細な縦筋があり、表面に灰褐色で膜質の果皮または種皮片が付着する。

・ヒエ近似種(*Echinochloa cf. utilis* Ohwi et Yabuno)　イネ科ヒエ属

穎･胚乳は炭化しており黒色。長さ1.6～2.4mm、幅1.3～1.6mm、厚さ0.6～1.6mmのやや偏平な半広卵体。背面は丸みがあり腹面はやや平ら。胚乳基部正中線上は、背面に長さ1.4～1.8mm、幅1.0mmの馬蹄形、腹面に径0.5mmの半円形の胚の凹みがある。胚乳表面は粗面。表面に付着する穎（果）は薄く、表面は平滑で光沢があり、微細な縦長の網目模様が縦列する。なお、やや形状が異なる長さ2.0mm、幅1.6mm、厚さ1.2mmで頂部が切形の胚乳をヒエ - タイヌビエ（*E. phyllopogon* Stapf）とし、長さ1.3mm、幅1.2mm、厚さ0.8mmの小型の胚乳をイネ科（Gramineae）としている。これらもヒエに由来する可能性がある。

・ソバ(*Fagopyrum esculentum* Moench)　タデ科ソバ属

果皮は灰黒褐色、長さ5.2～6.1mm、径3.5～4.1mmの三稜状広卵体。基部に灰褐色の萼が残る個体もみられる。稜は鋭く尖り、３面の正中線は窪む。果皮表面は粗面で、浅く細い横筋がある。

・マメ科(Leguminosae)

種子は炭化しており黒色。栽培種のアズキ類とダイズ類に似る、少なくとも２分類群が確認された。アズキ類（Vigna subgen. *Ceratotropics*（Piper）Verdc.；ササゲ属）に似る種子は、やや偏平な直方体状楕円体を呈す。20個の計測値は、長さは最小3.5～最大6.4（平均5.42±標準偏差0.76）mm、幅は2.2～4.4（平均3.57±0.56）mm、厚さは2.4～4.9（平均3.56±0.61）mmであった。なお、ＳＥ45５層より確認された２個は、長さ3.1mm、幅2.2～2.3mm、厚さ2.3mmと小型のため区別し、アズキ類？としている。

腹面の子葉合わせ目上に、長さ1.9～3.0mm、幅0.4～1.3mmの長楕円形の臍が残る個体が確認された。臍は種皮よりもやや窪んだ位置にあり、長軸正中線上に走る臍溝は「厚膜タイプ」（小畑,2008）である。臍を欠損する個体にも、「厚膜タイプ」に由来する臍下の断面V字の溝が底面まで延びる「アズキ型種子」（小畑,2008）の特徴がみられる。幼根はやや突出し、珠孔と種瘤が臍に接する個体もみられる。子葉合わせ目に沿って割れた面はやや平滑で、胚軸跡の溝が確認される。北大基準（吉崎,1992）の「アズキグループ（幼根が臍の終わり程から急に立ち上がり、胚珠中央に向けて伸びる）」に該当する初生葉やその痕跡も確認される。種皮は薄く、表面はやや平滑～粗面で、焼き膨れのため主に短軸方向に裂開している。

ダイズ類（*Glycine* max（L.）Merr. subsp. *max*（L.）Merr.；ダイズ属）に似る種子は、長さ4.3～7.0mm、幅3.0～5.0mm、厚さ2.5～4.5mmの偏平な長楕円体を呈するが、焼き膨れにより内部が突出する等、アズキ類よりも形状が崩れた個体が多い。腹面の子葉合わせ目上に、長さ1.4～1.7mm、幅0.6～0.8mmの楕円形の臍が残る個体が確認された。臍は種皮と同一表面で、長軸正中線上に走る臍溝は「露出タイプ」（小畑,2008）である。臍縁と臍溝の両側がやや突出し、それらに囲まれた部分は少し窪んでいる。幼根はアズキ類よりも大きく突出し、珠孔と種瘤が臍に接する個体もみられ、長さ2.7mm、幅1.4mmを測る。種皮は薄く、表面はやや平滑～粗面で、浅く微細な凹点が密布する個体（ＳＥ195 ５層）もみられる。

・メロン類(*Cucumis melo* L.)　ウリ科キュウリ属

種子は淡～黄灰褐色、偏平な狭倒皮針形で、基部に倒「ハ」の字形の凹みがある。16個の計測値は、長さは最小5.0～最大7.9（平均6.85±標準偏差0.84）mm、幅は2.7～4.1（平均3.23±0.31）mm、厚さは0.7～1.7（平均1.22±0.29）mmで、藤下（1984）の基準による小粒の雑草メロン型（長さ6.1mm未満）が２個、中粒のマクワ・シロウリ型（長さ6.1～8.1mm）が14個確認された。種皮表面には縦長の細胞が密に配列する。

・エゴマ(*Perilla frutescens*（L.）Britt. var. *japonica* Hara)　シソ科シソ属

果実は暗灰褐色、炭化果実は黒色の倒広卵体。20個の計測値は、長さは最小1.8～最大2.3(平均2.07±標準偏差0.16）mm、幅は1.6～2.0（平均1.83±0.15）mm、厚さは1.3～1.8（平均1.50±0.13）mmであった。基部に大きな着点部があり、舌状に突出する。果皮は表面には浅く大きく不規則な網目模様がある。

シソ属には、栽培種で軟実のエゴマと、硬実のシソのほかに、硬実の雑草型エゴマがあり、雑草型

エゴマの果実の大きさはエゴマとシソの中間型を示す（新田,2001）。また、シソ属と野生種のイヌコウジュ属（*Mosla*）の果実の大きさの変異も連続的である。遺跡出土果実の硬実と軟実の区別は難しいため、本分析では、笠原（1982）の基準（長さ1.4～1.5mm、幅1.1～1.2mmをシソ、長さ2.0～2.8mm、幅1.8～2.5mmをエゴマ）や中山ほか（2000）の計測値を参考に、径1.8mm以上をエゴマとし、長さ1.5～1.7mm、幅1.3～1.5mm、厚さ1.2～1.3mmのやや小型の個体をシソ属としている。

・ナス（*Solanum melongena* L.）　ナス科ナス属

種子は灰褐色、偏平で歪な腎臓形。10個の計測値は、長さは最小2.4～最大2.7（平均2.59±標準偏差0.11）mm、幅は2.9～3.6（平均3.21±0.21）mm、厚さは0.6～1.2（平均0.86±0.19）mmであった。基部はやや肥厚し、くびれた部分に臍がある。種皮表面には微細な星型状網目模様が臍から同心円状に発達する。

４　考察

各遺構から出土した種実遺体には、栽培種のスモモ、モモ、イネ、オオムギ、ソバ、マクワ･シロウリ型、雑草メロン型、エゴマ、ナスと、栽培種の可能性を含むナシ属-リンゴ属、ウルシ近似種、ヒエ近似種、ヒエ - タイヌビエ、イネ科、アズキ類（？含む）、ダイズ類（？含む）、マメ科、シソ属が確認された。これらの栽培種（その可能性を含む）の種実遺体は、当時利用された植物質食料を示すと考えられる。

果樹のスモモ、モモ、ナシ属-リンゴ属には、炭化個体が混じるほか、ＳＥ45 ４層からスモモの果実が確認された。スモモの果実は腐りやすく、加工しない限り長期保存は困難であるため、結実期である初夏～初秋頃に遺構内に埋積した可能性がある。穀類のイネやオオムギ、マメ類は炭化個体を主体とし、イネには表面に穎が残る個体も確認された。これらの炭化種子は、いずれも可食部位が残存することから、（加工）調理前の状態で火を受けたと考えられる。また、マメ類には、アズキ類やダイズ類の特徴をもつ炭化種子が確認されることから、当時のマメ類の複数の系統の利用が考えられる。ソバやエゴマを含むシソ属は、イネやオオムギ、マメ類と保存状況が異なり、ソバは未炭化の完形果実が、エゴマを含むシソ属は炭化した果実と未炭化の果実とが確認された。いずれも果実が食用できる（エゴマを含むシソ属の果実は油料などにも利用される）が、出土状況から食用（利用）されることなく廃棄されたことが想定される。ナスとメロン類は果実が食用されるが、メロン類には小粒の雑草メロン型と、中粒のマクワ・シロウリ型に該当する大きさの種子が確認されたことから、複数の系統の利用が推定される。

なお、本分析では、ＳＥ195をはじめ、ＳＥ200、ＳＥ45 ４層からはウルシ近似種が出土した。ウルシは、果実は食用にはならないが中果皮から木蝋が採れる。上述した栽培種と共伴することや炭化個体として出土する状況から人為的関与が推定され、利用後の残滓の可能性がある。

栽培種とその可能性がある種実を除いた分類群は、木本が少なく、水湿地生植物を含む人里草本主体の組成を示す。木本は全て落葉広葉樹で、ホオノキ、コブシ - タムシバ、河畔林要素のキハダ、ミズキなどの高木や、籐本のサンカクヅル - エビヅル、ヤマブドウ近似種が確認された。これらの樹種は、遺跡周辺の河畔や、その林縁等の明るく開けた場所に生育していたと考えられる。

草本は、湖沼などの浅水域～水辺の湿地に群生する多年生抽水植物のウキヤガラ、ミクリ属、ホタ

ルイ近似種を含むホタルイ属、サンカクイやフトイの類と考えられるホタルイ属（平滑型）、ミツガシワや、湿生植物のアゼスゲ類、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種などが確認された。その他に、ギシギシ属、サナエタデ近似種、イヌタデ近似種、タデ属、アカザ属、ヒユ属、エノキグサ、スミレ属、キカラスウリなどの、やや乾いた場所にも生育する中生植物も確認された。当時の調査区周辺域は、水深が浅い（約１ｍ以内）水湿地が存在する、明るく開けた草地環境であったと推定される。

Ⅱ　骨同定

１　試料

試料は、室町時代とされる火葬施設（SKC449　１層）から出土した骨１試料（試料№６）である。分析に供された試料は、骨片が抽出された状態にあり、約70片程度からなる。

２　分析方法

試料中より比較的大型の骨を抽出し（残渣0.21g）、それを肉眼およびルーペで観察して形態的特徴から種と部位の同定を行う。

３　結果および考察

出土骨は、いずれも微細な破片（6.01g）であり、白色を呈し、焼骨の特徴を示す。緻密質が厚いことから、哺乳綱であると判断されるが、微細な破片であるため種類や部位の特定は困難である。今回の分析では、出土骨の同定には至らなかったが、試料の状況から大型破片が含まれず細片のみで構成されるという特徴が見出され、遺骸のごく一部が残存した状況が想定される。

引用文献

藤下典之,1984,出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法.古文化財の自然科学的研究,古文化財編集委員会編,同朋舎,638-654.

石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.

笠原安夫,1982,鳥浜貝塚の植物種実の検出とエゴマ・シソ種実タール状塊について.鳥浜貝塚1980年度発掘調査概報・研究の成果－縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査2－,福井県教育委員会,65-87.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑.東北大学出版会,642p.

新田みゆき,2001,シソとエゴマの分化と多様性.栽培植物の自然史－野生植物と人類の共進化－,山口裕文・島本義也編,北海道大学図書刊行会,165-175.

小畑弘巳,2008,マメ科種子同定法.「極東先史古代の雑穀3」,日本学術振興会平成16～19年度科学研究費補助金（基盤B-2）(課題番号16320110)「雑穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究成果報告書,小畑弘巳編,熊本大学埋蔵文化財調査室,225-252.

佐竹義輔･原　寛･亘野俊次･冨成忠夫編,1989,日本の野生植物 木本Ⅱ,平凡社,305p.

吉崎昌一,1992,古代雑穀の検出.月刊考古学ジャーナル,№355,2-14.

第５章　総括

船戸遺跡の発掘調査は一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に伴い、平成24年度に実施した。調査対象地区は国道13号西側の旧水田・宅地跡と東側の旧畑地・荒蕪地であり、調査は西側をＡ区、東側をＢ区として行った（第５図）。調査の結果、中世を主体とする遺構が検出され、平安時代、中世、近世の遺物が出土した。以下には遺構と遺物について若干ふれてまとめとする。

１　遺構について

検出された遺構は、Ａ区から掘立柱建物跡、柱穴列、竪穴建物跡、井戸跡、かまど状遺構、焼土遺構、土坑、火葬施設、溝跡、柱穴様ピット、Ｂ区から土坑、溝跡、柱穴様ピットである（第８図）。

掘立柱建物跡はＡ区南部で検出されたＳＢ03・ＳＢ18・ＳＢ63・ＳＢ74・ＳＢ146・ＳＢ236の６棟である。すべて側柱建物であり、その棟方向が南北方向のもの４棟（ＳＢ03・ＳＢ18・ＳＢ74・ＳＢ146）と東西方向のもの２棟（ＳＢ63・ＳＢ236）の２グループに分けられる。また、規模は桁行２間×梁行１間のもの４棟（ＳＢ03・ＳＢ63・ＳＢ74・ＳＢ146)、桁行３間×梁行１間のもの１棟（ＳＢ18)、桁行が調査区外に延びるため桁行２間以上×梁行１間のもの１棟（ＳＢ236）である。基本的には桁行２間×梁行１間で建造されるものが多いようである。こられの掘立柱建物跡は倉庫と考えられる。柱穴列はＡ区南部で検出されたＳＡ157の１条である。

竪穴建物跡はＡ区南部で検出されたＳＩ47・62・166・196の４棟である。いずれも平面形は隅丸方形で、ＳＩ47・166・196は一辺に出入口と考えられる張り出しを持つが、ＳＩ62にはなかった。これらの時期については、各竪穴建物跡から採取した炭化物の放射性炭素年代測定により、ＳＩ62は12世紀後半から13世紀前半で、それ以外は13世紀末から14世紀代という結果が得られており、この年代に構築された可能性を示している。また、用途は特定できる資料がなく判然としないが、かまど等の生活跡や陶磁器等の生活用具が出土しなかったことから、住居ではなく作業小屋か倉庫と考えられる。

井戸跡は、掘立柱建物跡や竪穴建物跡の周辺から11基検出された。すべて素堀の井戸であり、平面形はほぼ円形と楕円形を呈し、深さは1.12m～1.84mである。これらの井戸の中からは、斎串といった木製祭祀具や、陶磁器、木製品、石製品等が多数出土した。その出土状況から井戸を廃棄する際に儀礼が行われていたと考えられる。

かまど状遺構はＡ区南部で検出されたＳＯ216・300・407・416の４基である。現状では煙道部が見あたらず、その構造は焚口部と燃焼部からなる半地下式の遺構と考えられる。平面形は不整な楕円形であり､被熱による硬化した面が壁・底面に認められないことから、長期間の使用ではなかったことが想定される。また、周囲には柱穴が認められないことから上屋はなかったと考えられる。その用途については、遺物が出土しなかったため不明である。これらの時期は放射性炭素年代測定により、14世紀代という結果が得られており、この年代に構築された可能性を示している。かまど状遺構は、秋田県内各地で見つかっているが、大仙市神岡地区は特に多く見つかっており、同地区では小沢遺跡（岳下遺跡）・茨野遺跡・薬師遺跡・沖田Ⅰ遺跡・沖田Ⅱ遺跡・北楢岡中野遺跡があげられる。

焼土遺構は５基、土坑は42基検出された。これらの用途については、それを把握できる資料が乏しく明確にできなかった。

火葬施設は、Ａ区南部の生活の場から52ｍほど離れたＡ区北部で検出されたＳＫＣ427・447・449の３基である。平面形は楕円を基調とする長さ1.04～1.25ｍ、幅0.45～0.63ｍの土坑で、長軸方向の中央付近には張り出しがある。これは火力を強めるための通風口と考えられる。土坑の壁・底面は火熱を受けて赤変していた。このうちＳＫＣ447・449からは火熱を受けた骨の細片と共に木炭・焼土が出土したが、ＳＫＣ427では少量の焼土・木炭だけで骨は見あたらなかった。またＳＫＣ447・449から出土した骨の量も少量であった。おそらくはここで遺体を焼き、この後、骨を拾い集めて別の場所に設けた墓に納骨したと推測されることから、これらは火葬場として作られたものであり、集落に付随するものと考えられる。時期は採取した炭化物の放射性炭素年代測定から、13世紀末～15世紀前半の結果が得られており、この年代に構築された可能性を示している。本遺跡で検出された火葬施設の類例としては大館市山王岱遺跡、北秋田市からむし岱Ｉ遺跡、大仙市寄騎館遺跡などがあげられる。

溝跡はＡ区で５条、Ｂ区で５条の計10条検出された。このうちＡ区南部で検出されたＳＤ94は東西方向に延び、Ｂ区南端に至って北方向に屈曲している。全長51.52ｍ、幅1.68ｍ～3.28ｍ、深さ0.42ｍ～0.67ｍである。堆積土中から13世紀～14世紀の須恵器系陶器が出土しており、この時期につくられた長大な溝である。しかし、これが区画施設として機能したものか詳細は不明である。この溝跡は同じ平坦面が連続する調査区外西側に延びていくと予想される。

柱穴様ピットはＡ区で324基、Ｂ区で14基の計338基が検出された。これらの柱穴様ピットには柱痕跡が認められるものもあり、掘立柱建物跡や柱穴列・柵を構成すると考えられるが、具体的に掘立柱建物跡に復元するまでには至らなかった。

２　遺物について

出土遺物は平安時代の土師器・須恵器、中世の陶磁器・木製品・石製品、銭貨である。平安時代の土師器と須恵器は１点ずつ出土した。いずれも甕の破片であり、その部位は土師器が底部、須恵器が胴部である。また、土師器甕底部片（第46図53、図版18-61）の底面には籾と藁の圧痕が認められた。時期は９世紀代と推定される。中世の陶磁器は中国産の白磁碗・皿と青磁碗、国産の須恵器系陶器（珠洲系）の擂鉢・甕壺類等である。これらの時期は、白磁が12世紀後半、青磁が13世紀前半、須恵器系陶器が13世紀～14世紀である。木製品は井戸跡から漆椀・漆皿・箸・篦・折敷・曲物・まな板・自在と祭祀具の斎串や建築部材と考えられる板材等が出土した。石製品は温石・砥石である。銭貨は宋銭３枚と江戸時代の寛永通寶が１枚であった。このほか井戸跡の堆積土を水洗選別して採取した種実類の同定を行った。この結果、栽培種としてスモモ、モモ、イネ、オオムギ、ソバ、マクワ・シロウリ型、雑草メロン型、エゴマ、ナス等が確認された。このことから、本調査区では畑遺構は検出されなかったが、調査区外に当時の畑が存在する可能性がある。

以上、本遺跡は掘立柱建物跡・竪穴建物跡・井戸跡・かまど状遺構・溝跡等の遺構群で構成される中世の集落跡であり、その存続時期は12世紀後半～15世紀前半で、13世紀末～15世紀前半には生活の場から少し離れた北部に火葬場が形成されてきたと考えられる。また、漆椀、漆皿、中国産の白磁・青磁が出土したことから経済的に豊かな富裕層の存在が窺われる。なお、今回の調査区は船戸遺跡の南東部にあたり、本遺跡の中心部は調査区西側に広がる水田地帯と考えられる。

船戸遺跡上空から（真上）：2001年国土地理院撮影

図版2

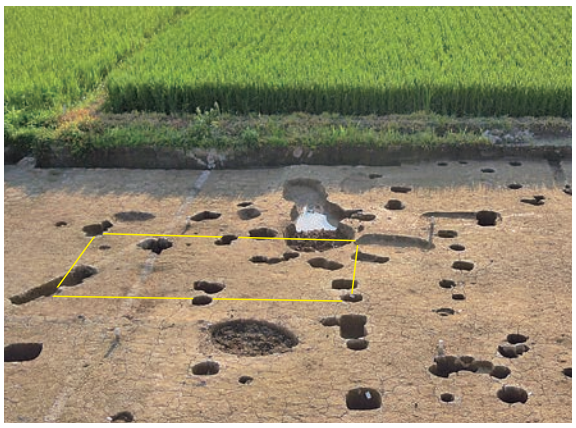
船戸遺跡上空から（真上）：1975年国土地理院撮影

1　Ａ区北部全景（南→）

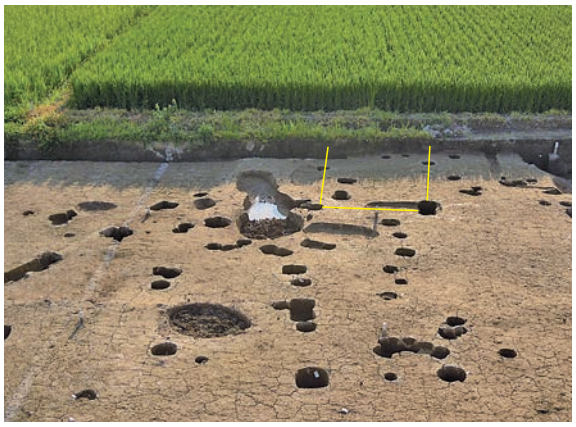
2　Ａ区南部全景（南→）

図版4

1　A区　SB03（北→）



2　A区　SB146（東→）



3　A区　SB236（東→）

4　A区　SA157（南東→）

5　A区　SI47（南→）

6　A区　SI62（南→）

7　A区　SI166（南→）

8　A区　SI196（南→）

1　Ａ区　ＳＥ14（南西→）

2　Ａ区　ＳＥ22（南東→）

3　Ａ区　ＳＥ26（北東→）

4　Ａ区　ＳＥ26
遺物出土状況（北西→）

5　Ａ区　ＳＥ45（南→）

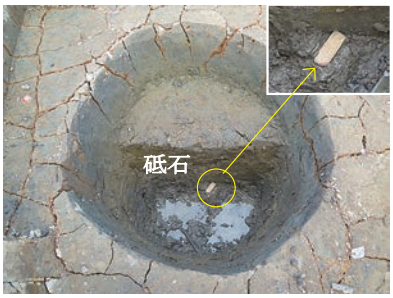
6　Ａ区　ＳＥ45
遺物出土状況（南→）

7　Ａ区　ＳＥ93（東→）

8　Ａ区　ＳＥ98（南東→）

9　Ａ区　ＳＥ164（南東→）

10　Ａ区　ＳＥ195（西→）



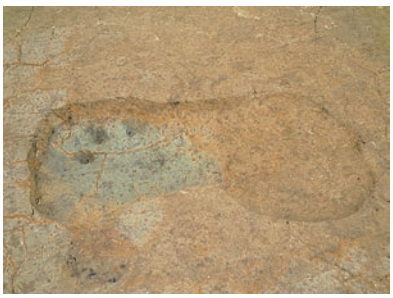
11　Ａ区　ＳＥ195
遺物出土状況（南→）

12　Ａ区　ＳＥ200（北東→）

13　Ａ区　ＳＥ224（東→）

14　Ａ区　ＳＥ381（南→）

1　A区　SO216（東→）


2　A区　SO300（南→）

3　A区　SO407（東→）

4　A区　SO416（西→）

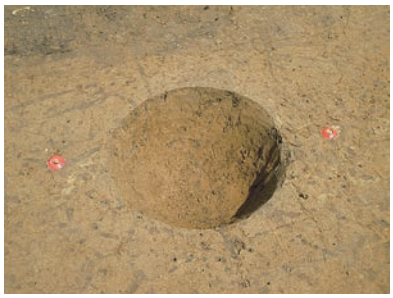
5　A区　SN130（東→）

6　A区　SN442（西→）

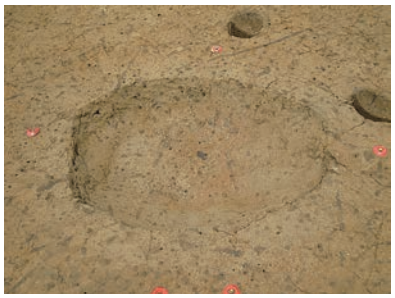
7　A区　SN443（西→）

8　A区　SN444（南→）

9　A区　SN465（南東→）


10　A区　SK34（南→）

11　A区　SK36（南→）


12　A区　SK43（南東→）

13　A区　SK44（東→）

14　A区　SK85（南東→）

15　A区　SK138（東→）

1　A区　SK154（南→）

2　A区　SK154
遺物出土状況（南西→）

3　A区　SK160（東→）

4　A区　SK169（南東→）

5　A区　SK173（南→）

6　A区　SK198（南→）

7　A区　SK213（東→）

8　A区　SK214（東→）

9　A区　SK217（南→）

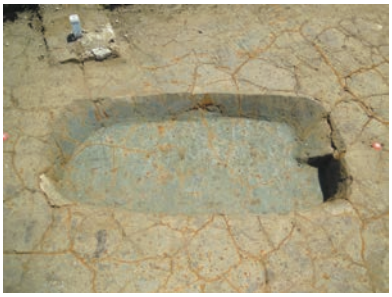
10　A区　SK218（南→）

11　A区　SK220（東→）

12　A区　SK221（東→）

13　A区　SK222（東→）

14　A区　SK225（東→）



15　A区　SK325（西→）

1　Ａ区　ＳＫ328（南→）

2　Ａ区　ＳＫ330（南西→）

3　Ａ区　ＳＫ331（南→）

4　Ａ区　ＳＫ380（南→）

5　Ａ区　ＳＫ382（西→）

6　Ａ区　ＳＫ383（東→）

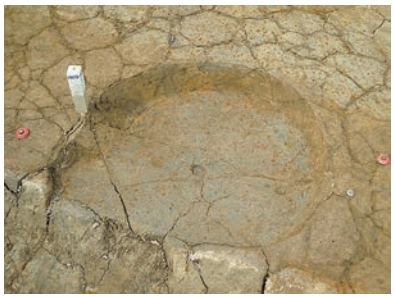
7　Ａ区　ＳＫ384（南西→）

8　Ａ区　ＳＫ406（南東→）

9　Ａ区　ＳＫ412（南→）

10　Ａ区　ＳＫ413（南→）

11　Ａ区　ＳＫ414（南東→）


12　Ａ区　ＳＫ417（南→）

13　Ａ区　ＳＫ418（南→）

14　Ａ区　ＳＫ445（西→）

15　Ａ区　ＳＫ446（東→）

１　Ａ区　ＳＫ448（南東→）

２　Ａ区　ＳＫ451（南西→）

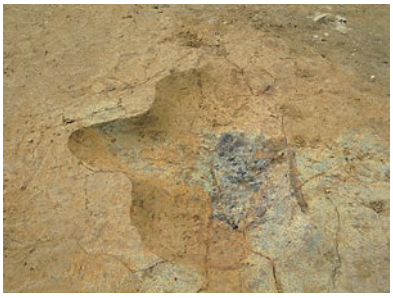
３　Ａ区　ＳＫ452（南西→）

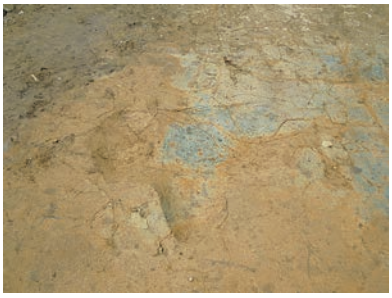
４　Ａ区　ＳＫ476（南→）

５　Ａ区　ＳＫ447・487（東→）

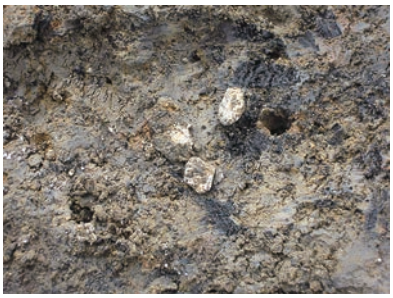
６　Ａ区　ＳＫ491（西→）

７　Ａ区　ＳＫＣ427
確認状況（東→）


８　Ａ区　ＳＫＣ427炭・
焼土出土状況（北→）


９　Ａ区　ＳＫＣ427（東→）

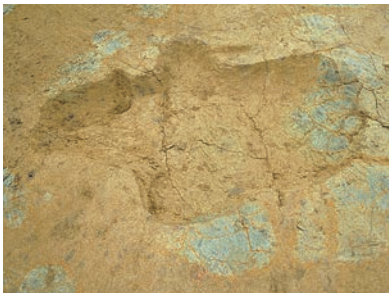
10　Ａ区　ＳＫＣ447骨・
炭出土状況（東→）


11　Ａ区　ＳＫＣ447
骨出土状況（東→）

12　Ａ区　ＳＫＣ447（東→）

13　Ａ区　ＳＫＣ449骨・
焼土出土状況（西→）

14　Ａ区　ＳＫＣ449
骨出土状況（西→）


15　Ａ区　ＳＫＣ449（東→）

1　A区　SD94（東→）

2　A区　SD219（東→）

3　A区　SD256（南東→）

4　A区　SD332（南→）

5　A区　SD333（東→）

1　Ｂ区北部全景（南→）

2　Ｂ区南部全景（南→）

1　Ｂ区　ＳＫ129（南→）

2　Ｂ区　ＳＫ134（東→）

3　Ｂ区　ＳＫ135（東→）

4　Ｂ区　ＳＫ136（南西→）

5　Ｂ区　ＳＫ137（東→）

6　Ｂ区　ＳＤ64（西→）

7　Ｂ区　ＳＤ94（南西→）

8　Ｂ区　ＳＤ132・133・142（南→）

出土遺物（1）

14

15

16

漆塗膜・樹種調査資料

17

18

19

20

21

出土遺物（２）

22

23

25

24

26

27

出土遺物（３）

漆塗膜・樹種調査資料

28

39

40

41

44

42

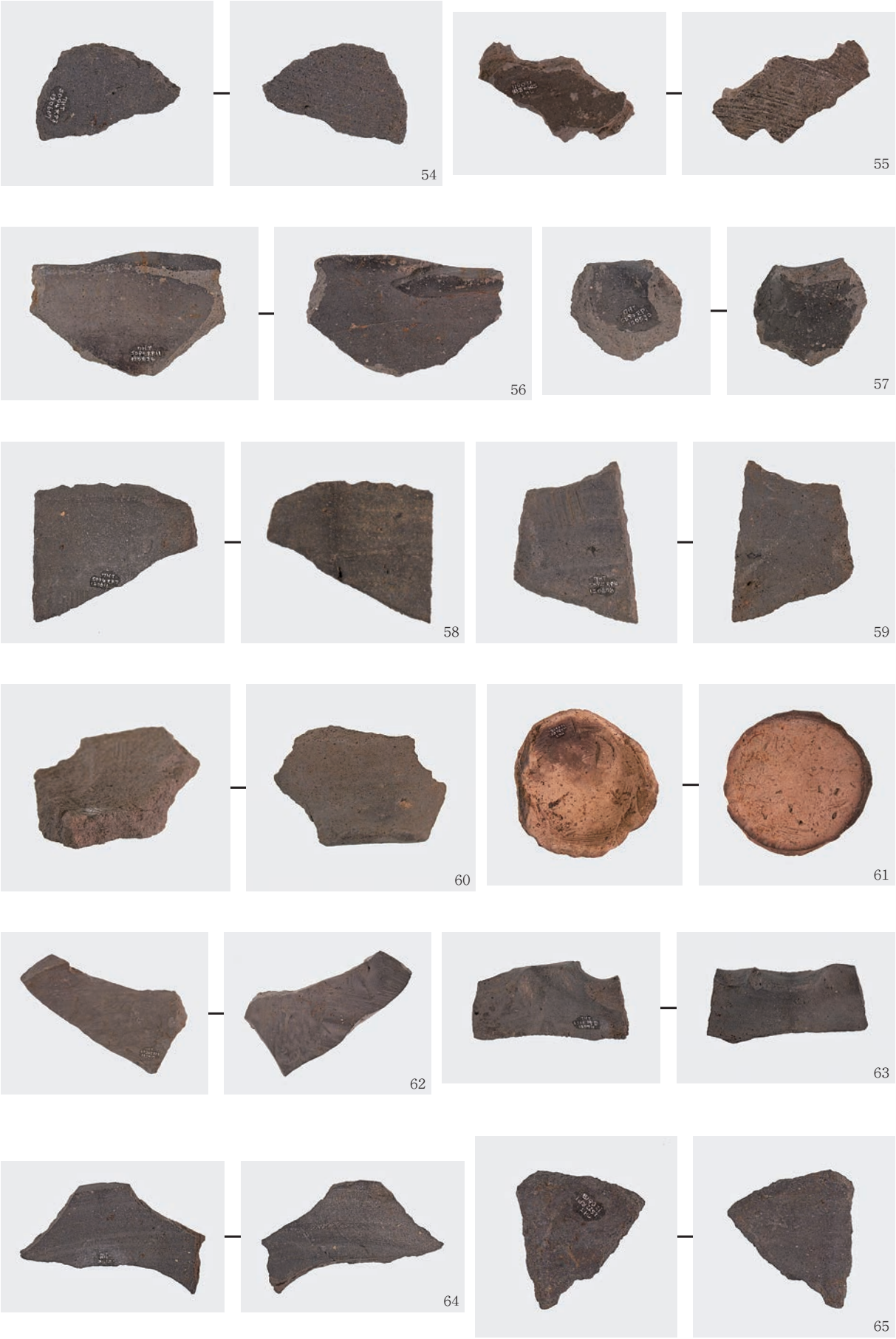
45

46

43

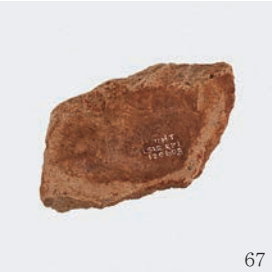
出土遺物（４）

出土遺物（５）



出土遺物（６）

66


67

68

69

70

71

72

73

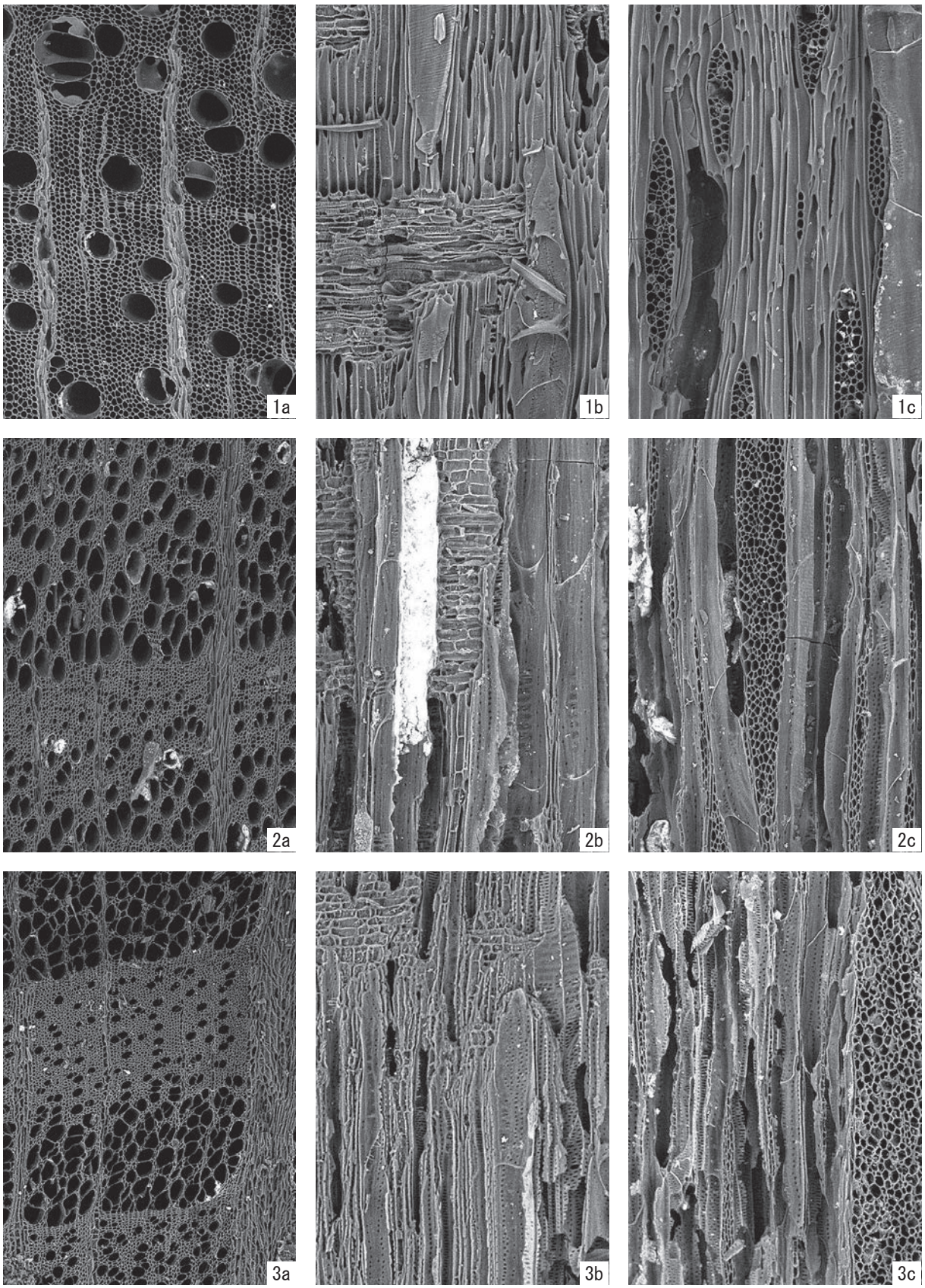
74

75

76

77

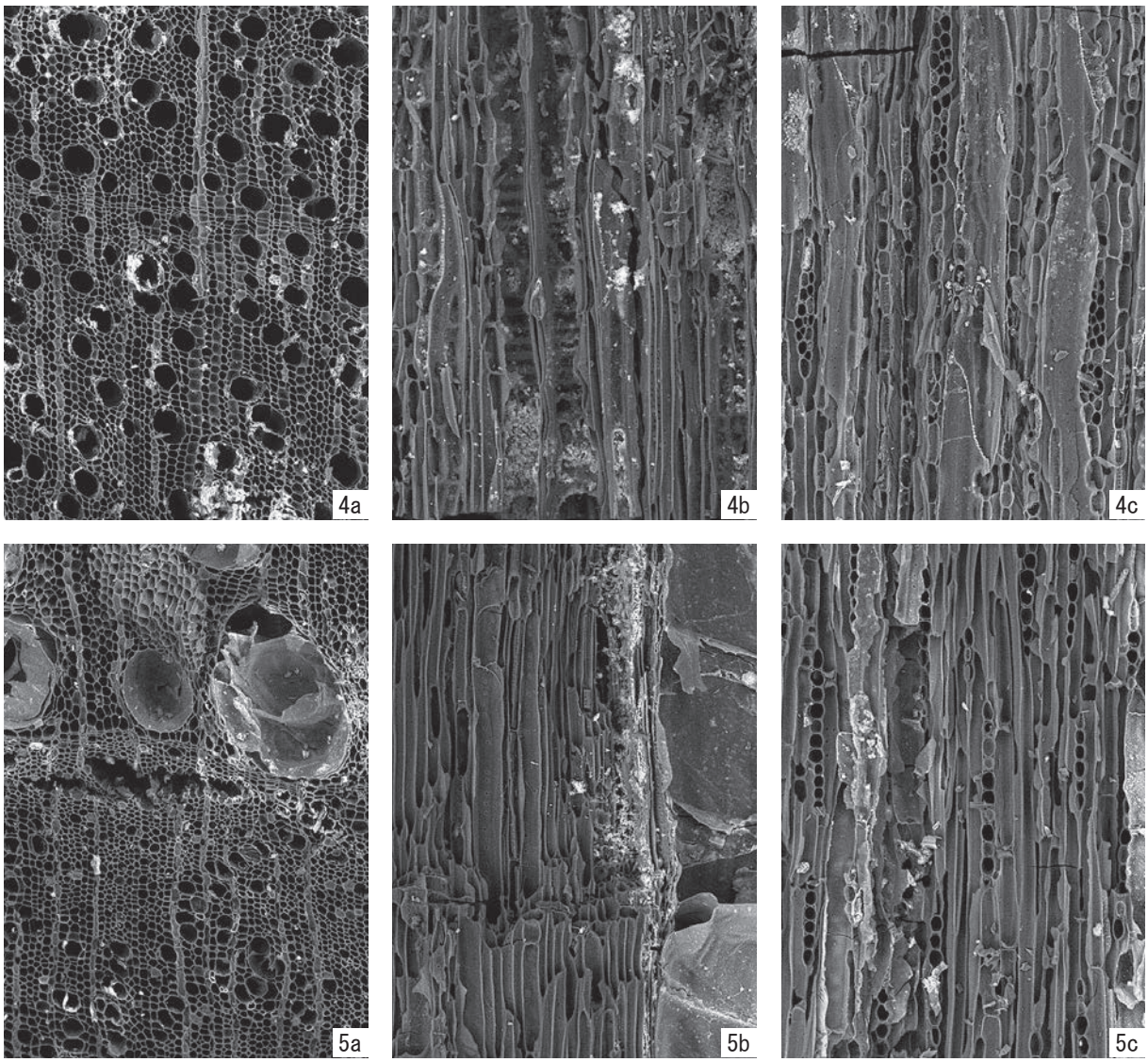
出土遺物（７）



1. カエデ属(No.1)
2. ブナ属(No.2)
3. ブナ属(No.3)
　a:木口,b:柾目,c:板目

200μm:a
200μm:b,c

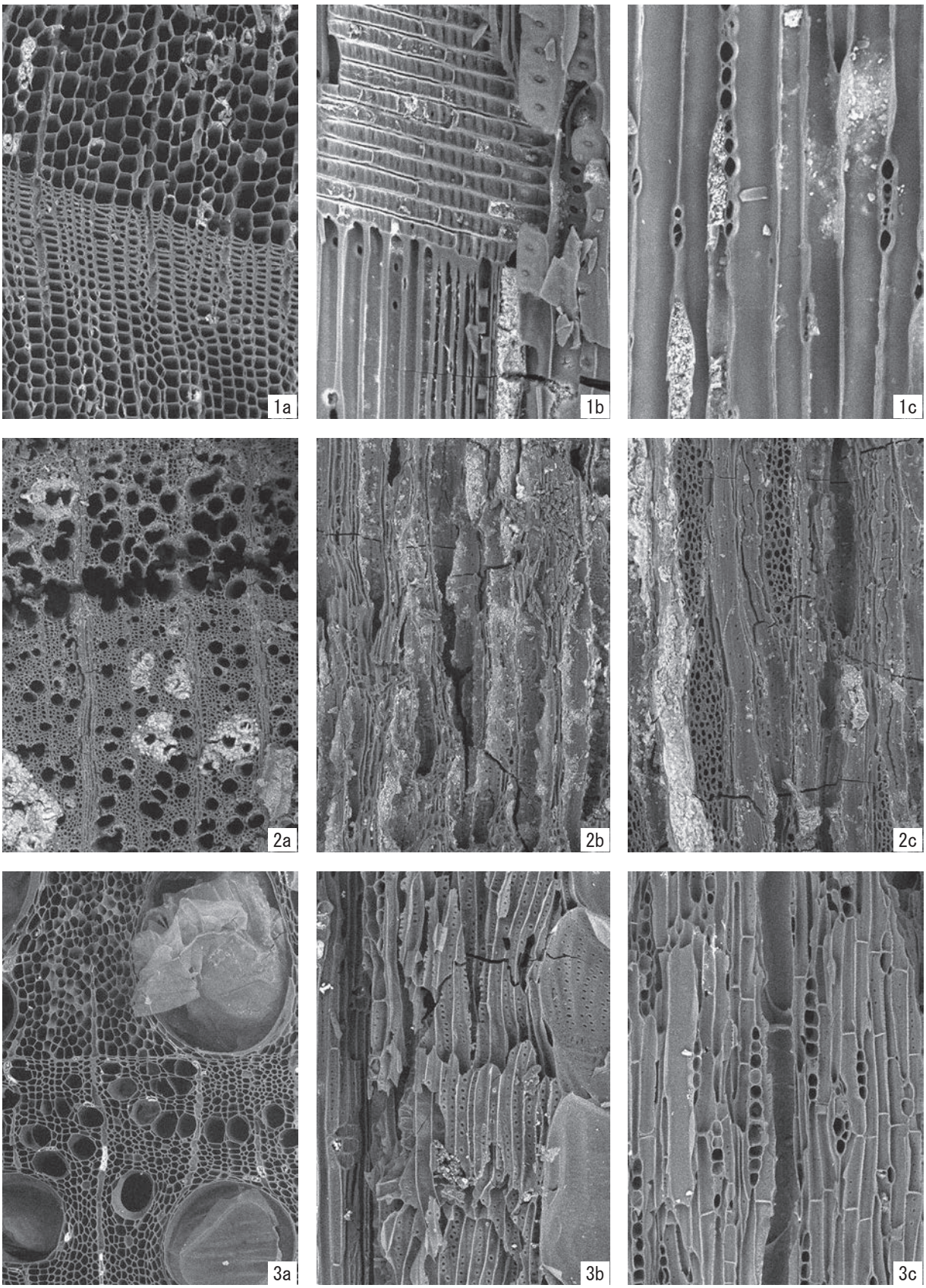
炭化材（１）



4. ガマズミ属(No.4)
5. クリ(No.5)
　a:木口,b:柾目,c:板目

200μm:a
200μm:b,c

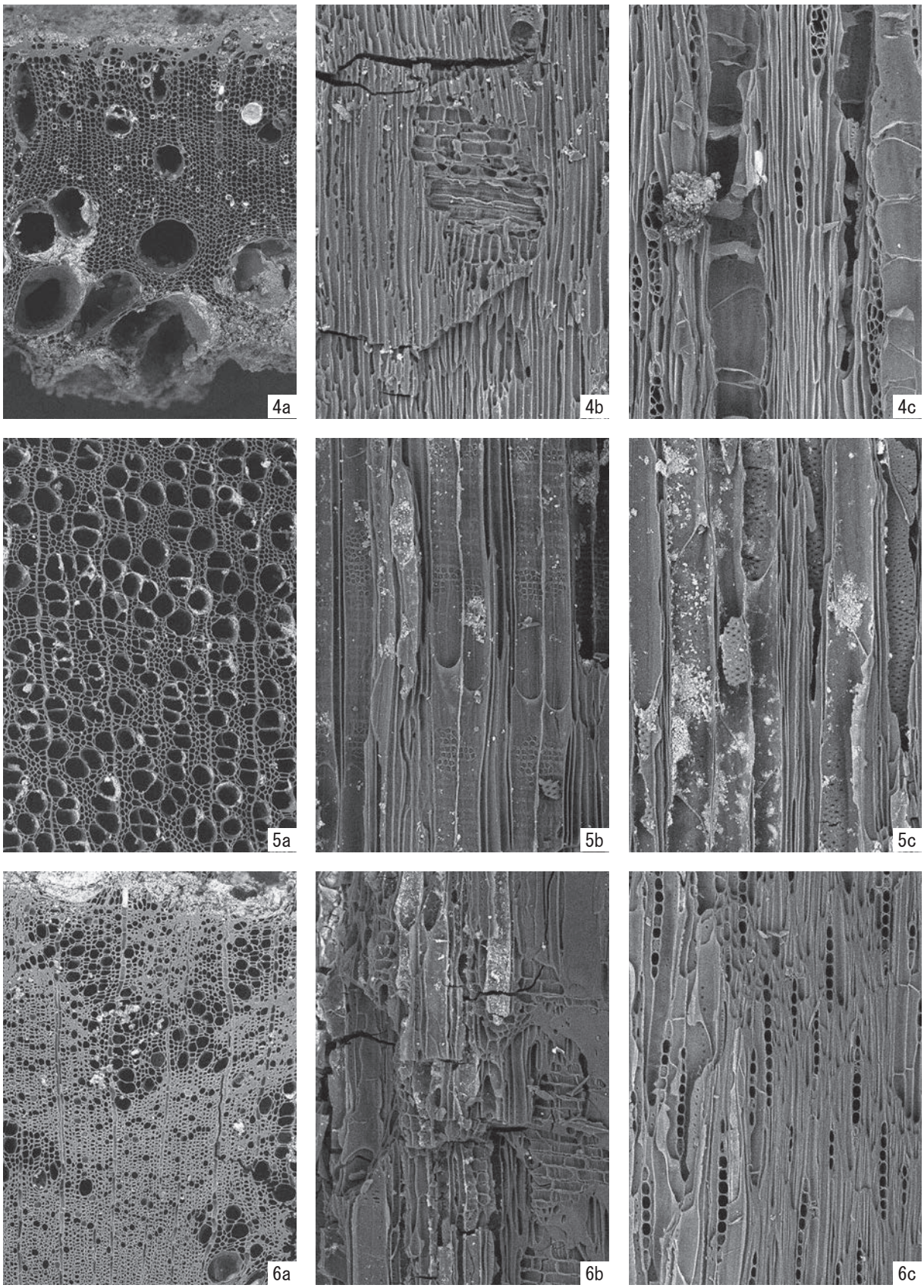
炭化材（２）



1. スギ(No.1)
2. ブナ属(No.2)
3. クリ(No.3)
　a:木口,b:柾目,c:板目

100μm:2-3a
100μm:1a,2-3b,c
100μm:1b,c

炭化材（３）

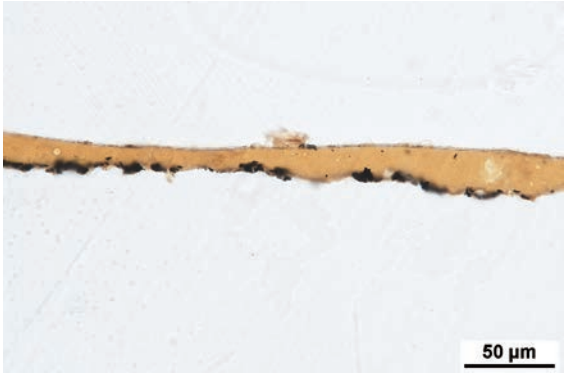


200μm:a
200μm:b,c

4. ウルシ属(No.4)
5. ヤナギ属(No.5)
6. クリ(No.6)
　a:木口,b:柾目,c:板目

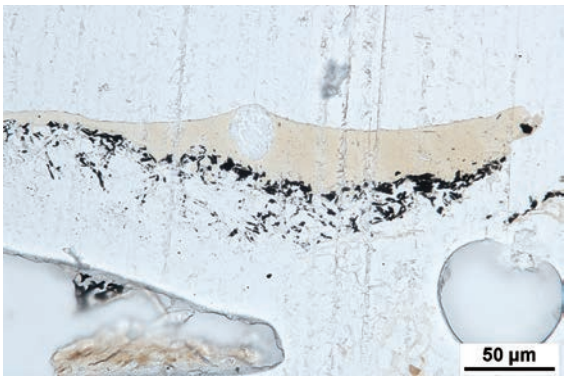
炭化材（４）

1　写真１　No.１内面

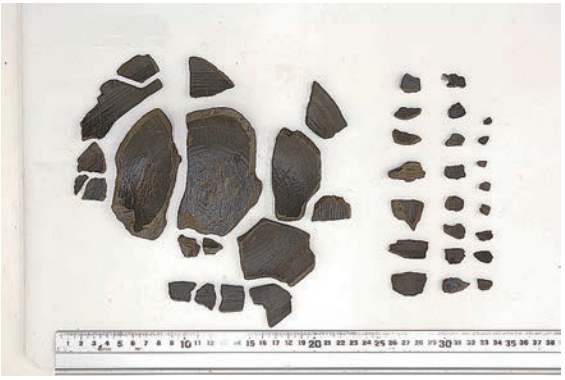


2　写真２　No.１内面の断面

3　写真３　No.１外面



4　写真４　No.１外面の断面



5　写真５　No.２内面

6　写真６　No.２内面の断面

7　写真７　No.２外面

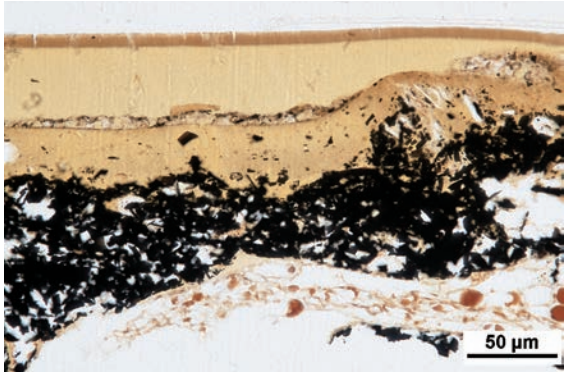
8　写真８　No.２外面の断面

9　写真９　No.３外面

10　写真10　No.３内面の断面（下層）

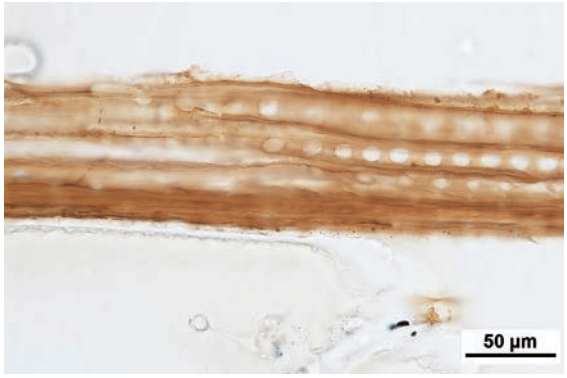
11　写真11　No.３内面の断面（上層）

12　写真12　No.３外面



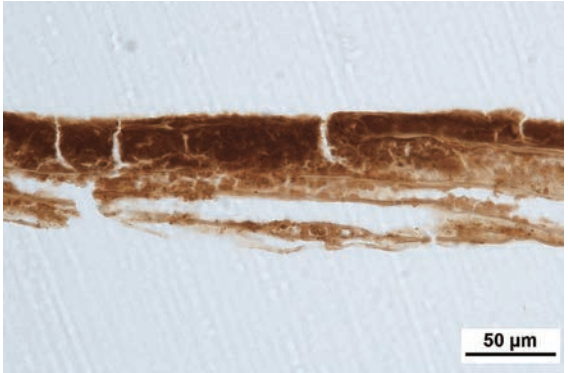
13　写真13　No.３外面の断面

14　写真14　No.４Ａ面

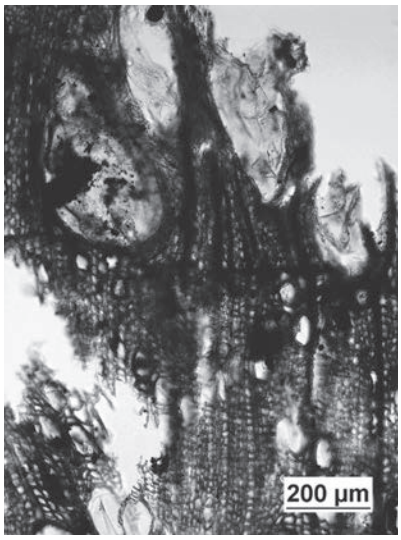


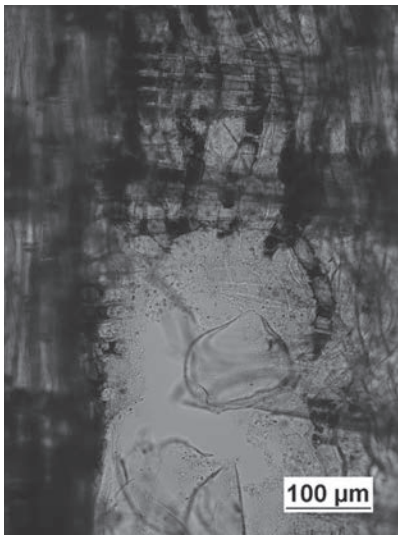
15　写真15　No.４Ａ面の断面

16　写真16　No.４Ｂ面



17　写真17　No.４Ｂ面の断面

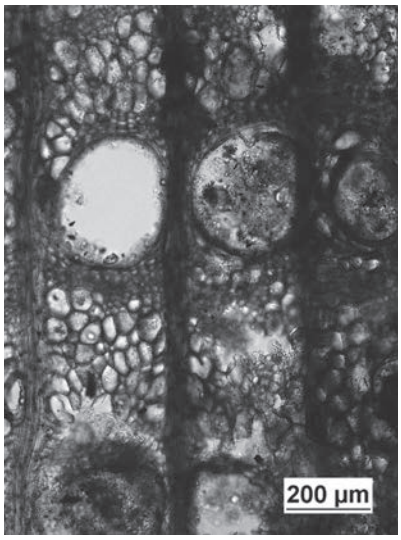




木口
No-1　ブナ科クリ属クリ

柾目

板目



木口
No-2　ニレ科ケヤキ属ケヤキ

柾目

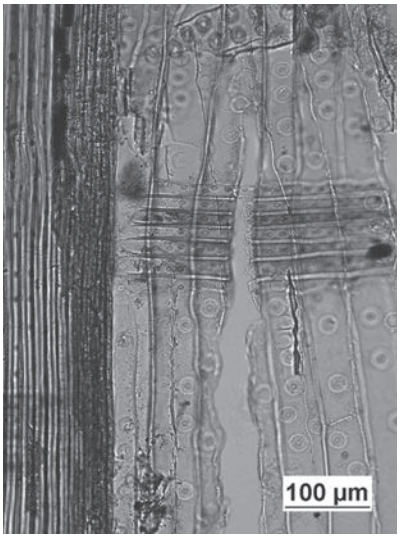
板目

樹種同定（１）

木口
No-3　ニレ科ケヤキ属ケヤキ

柾目

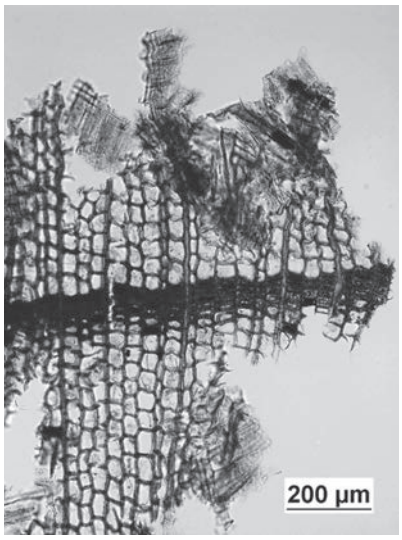
板目



木口
No-4　スギ科スギ属スギ

柾目

板目



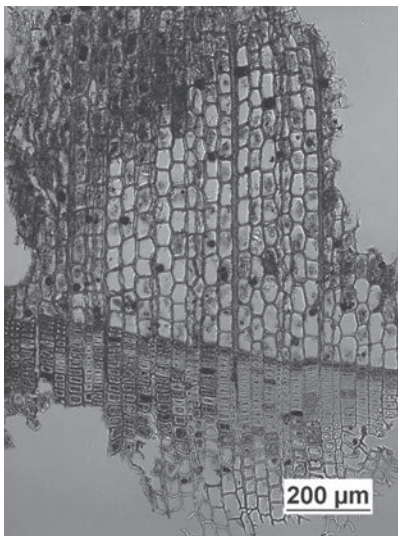
木口
No-5　スギ科スギ属スギ

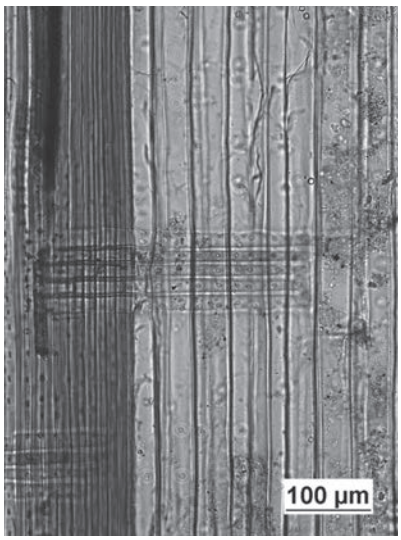
柾目

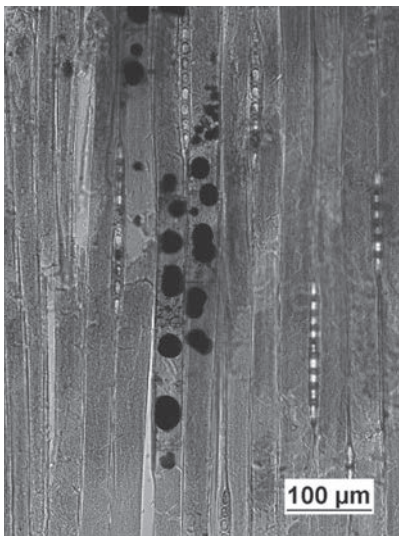
板目

樹種同定（２）

図版28



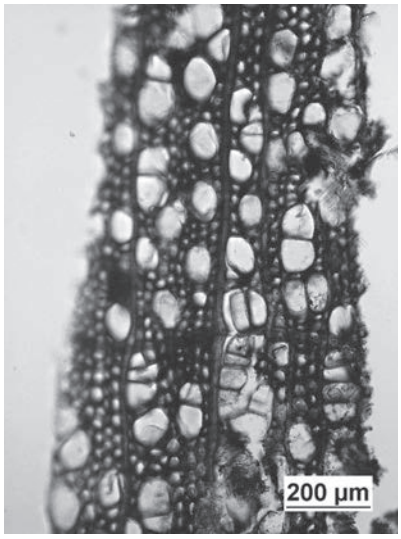




木口
No-6　スギ科スギ属スギ

柾目

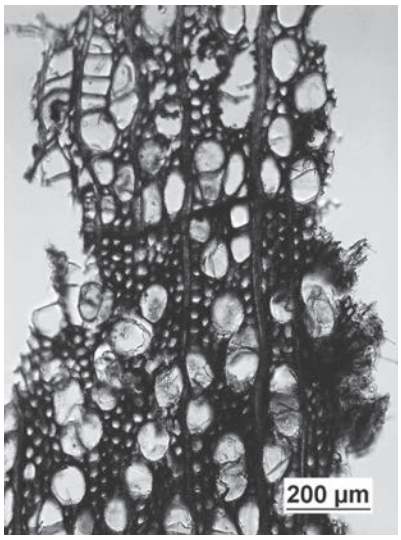
板目



木口
No-7　モクレン科モクレン属

柾目

板目

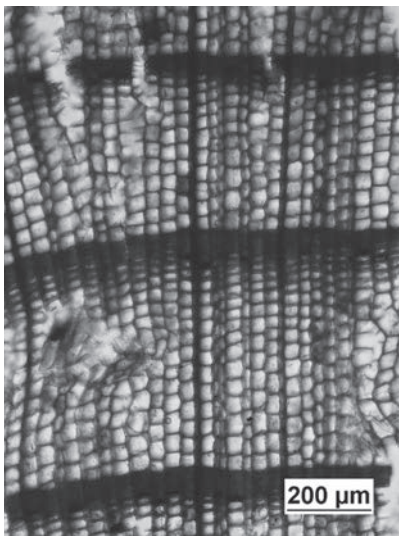


木口
No-8　モクレン科モクレン属

柾目

板目

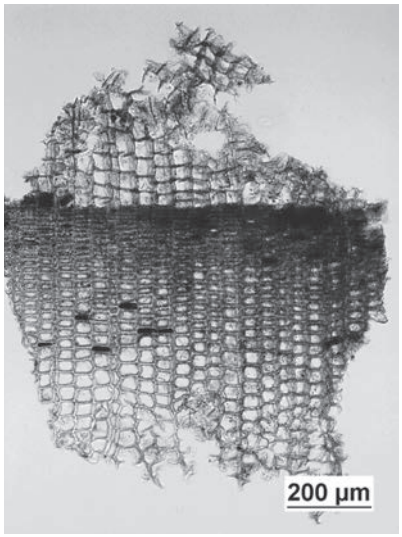
樹種同定（３）

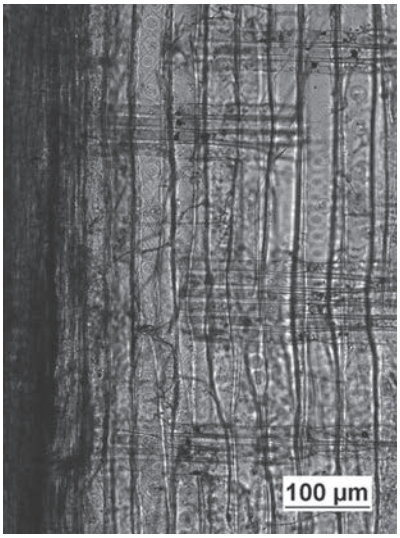


木口
No-9　スギ科スギ属スギ

柾目

板目



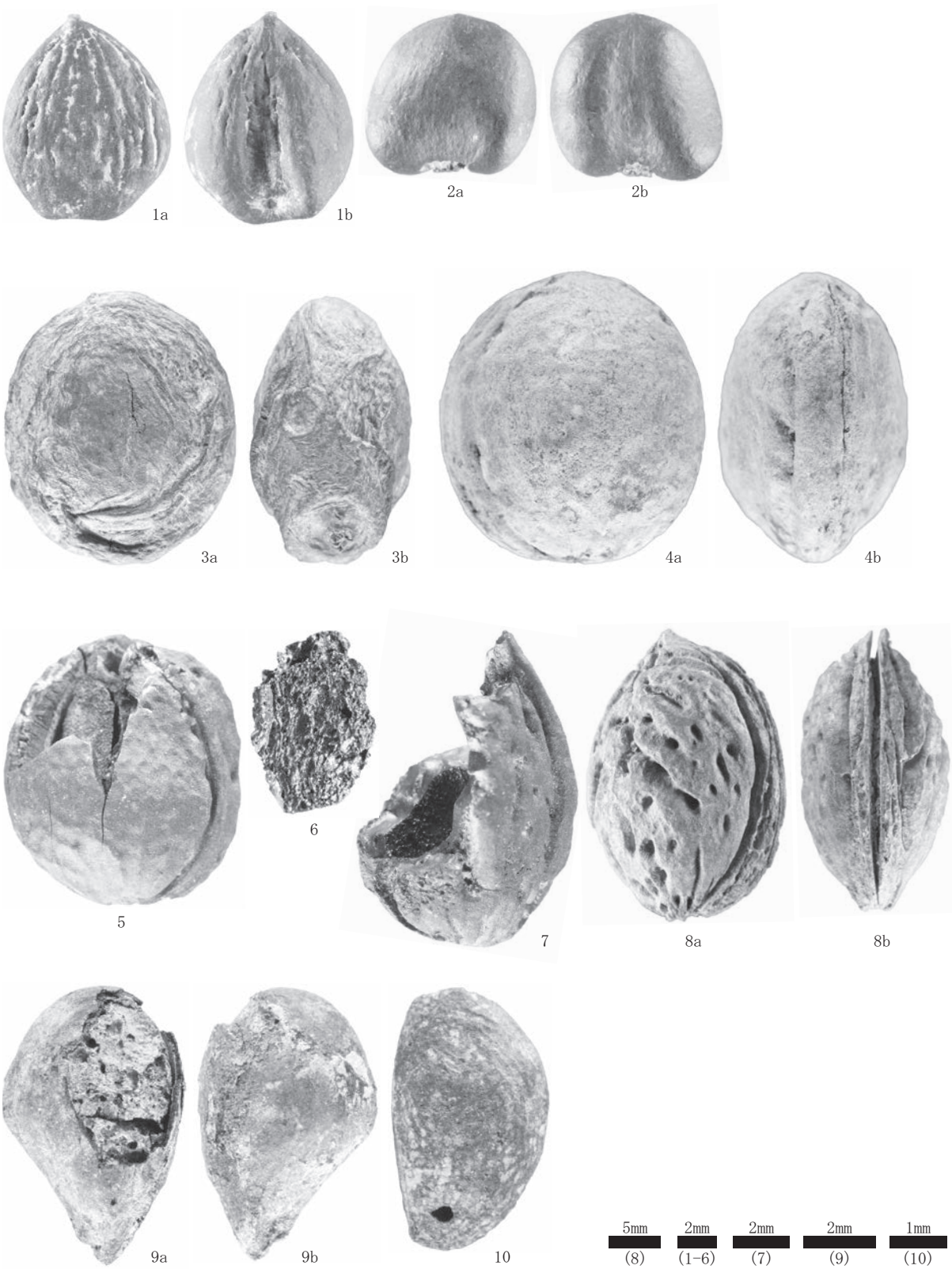


木口
No-10　スギ科スギ属スギ

柾目

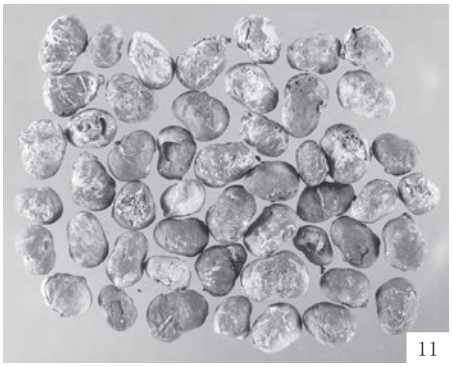
板目

樹種同定（４）

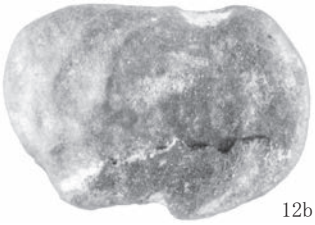


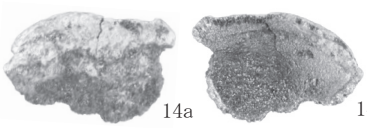
1. ホオノキ 種子(4-2;SE164 4層)
2. コブシ - タムシバ 種子(2-5;SE45 4層)
3. スモモ 果実(2-3;SE45 4層)
4. スモモ 核(2-3;SE45 4層)
5. スモモ 核・種子(2-3;SE45 4層)
6. モモ 種子(5-4;SKP272 1層)
7. モモ 核(5-4;SKP272 1層)
8. モモ 核(2-4;SE45 4層)
9. ナシ属-リンゴ属 種子(3-3;SE98 6層)
10. キハダ 種子(食痕)(4-2;SE164 4層)

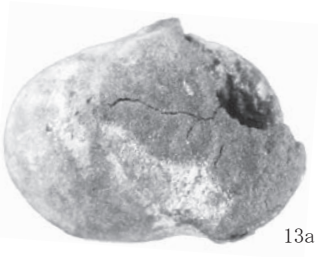
種実遺体（１）


11

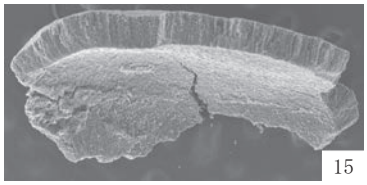
12a

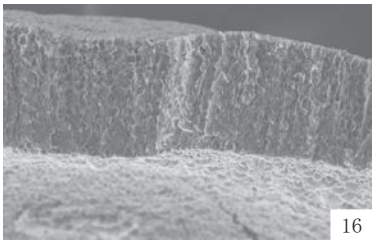

12b

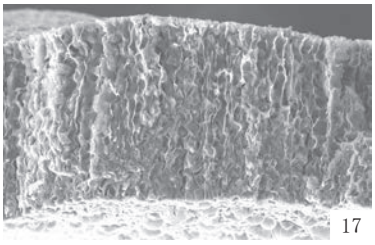

14a 14b


13a

13b

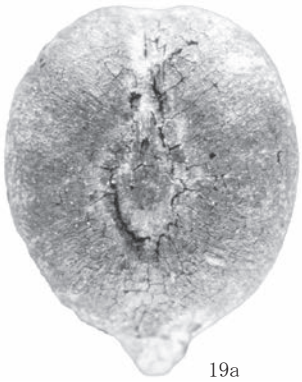

15


16


17

18a

18b


19a

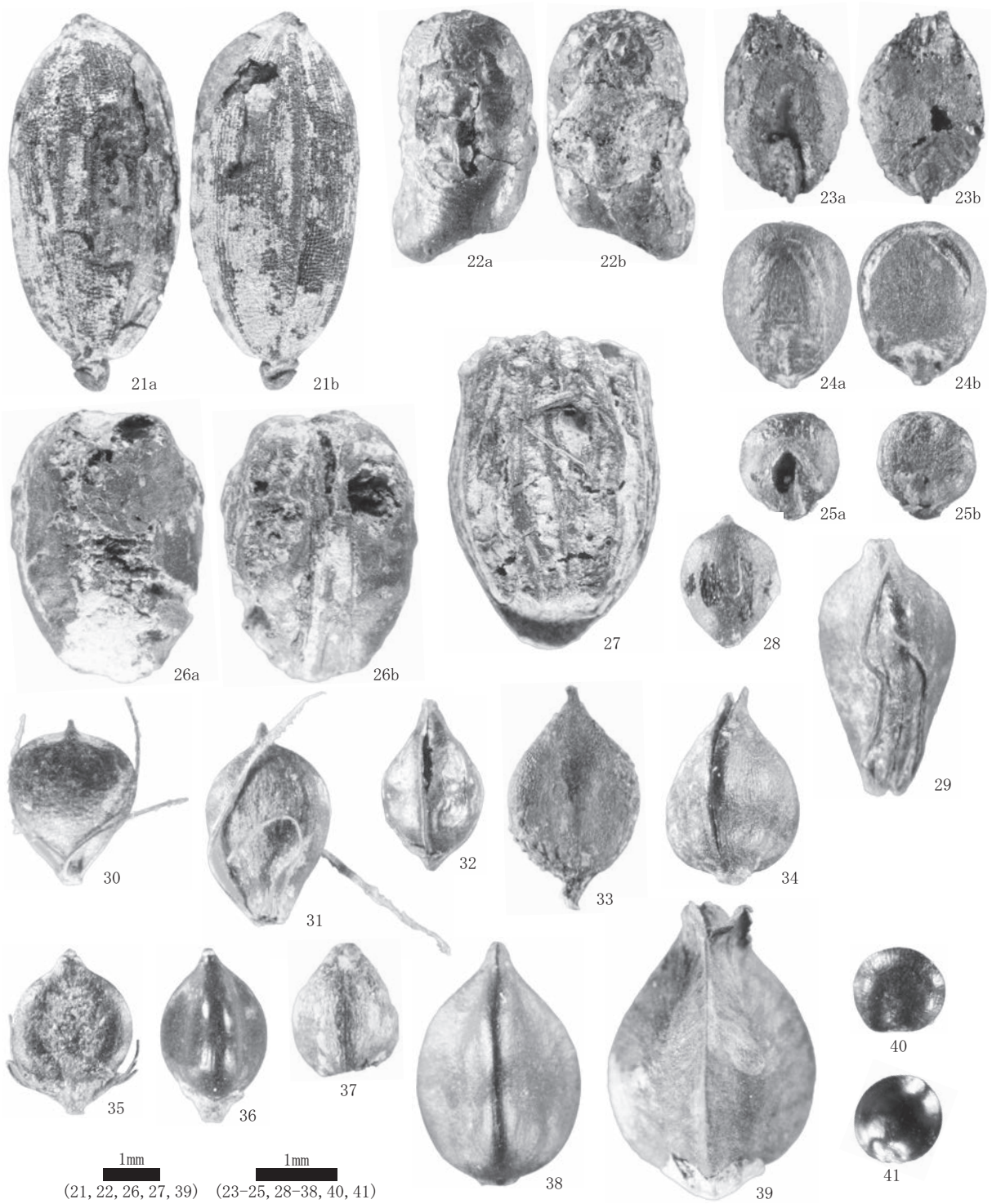
19b

20

200μm (15) 100μm (16) 50μm (17) 5mm (11) 1mm (12-14, 18-20)

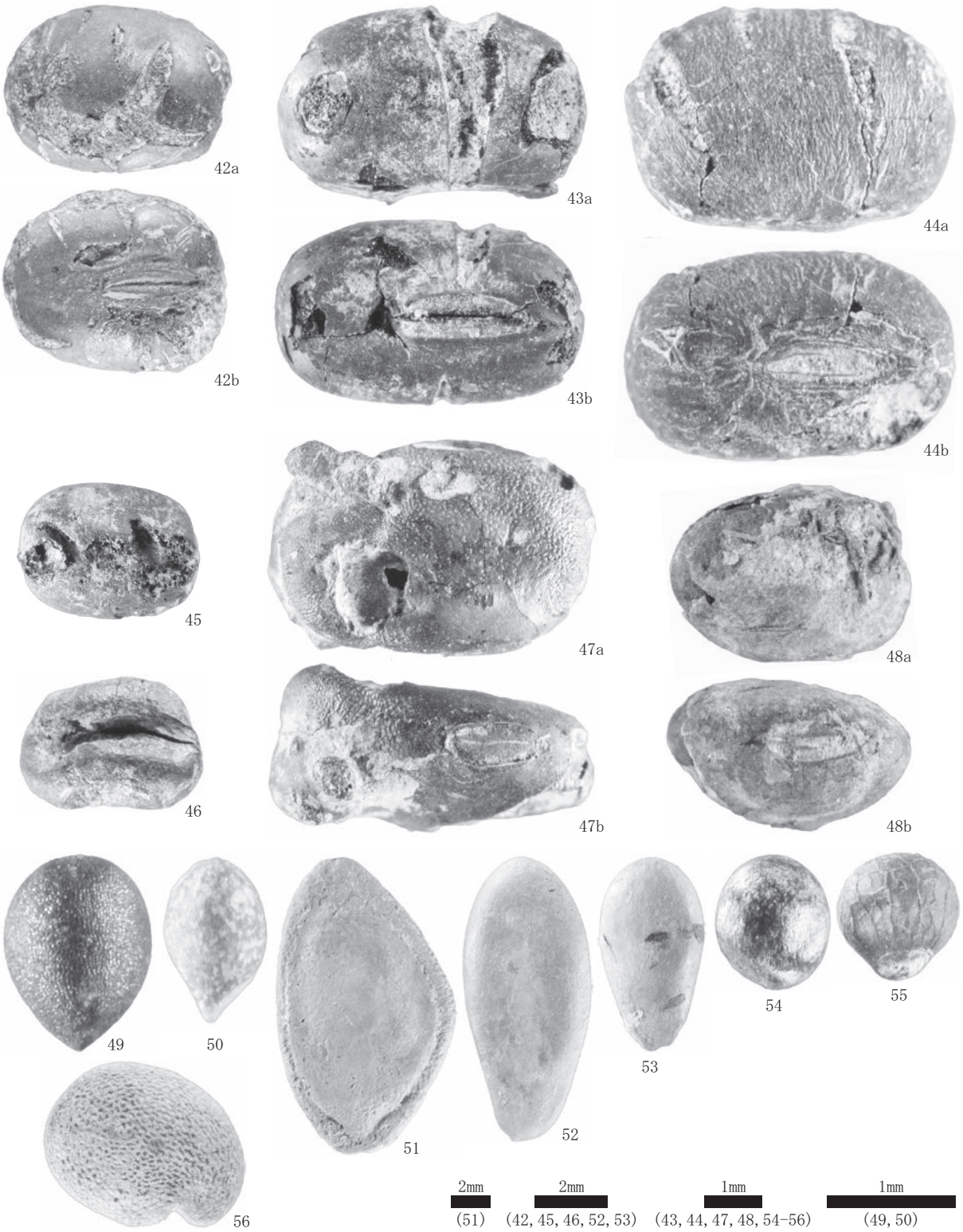
11. ウルシ近似種 核(3-6;SE195 5層)
12. ウルシ近似種 核(表面イネ穎付着)(3-6;SE195 5層)
13. ウルシ近似種 核(SEM観察対象)(2-5;SE45 4層)
14. ウルシ近似種 内果皮(SEM観察対象)(2-5;SE45 4層)
15. ウルシ近似種 内果皮(SEM画像)(2-5;SE45 4層)
16. ウルシ近似種 内果皮(SEM画像)(2-5;SE45 4層)
17. ウルシ近似種 内果皮(SEM画像)(2-5;SE45 4層)
18. サンカクヅル - エビヅル 種子(3-1;SE98 5層)
19. ヤマブドウ近似種 種子(5-1;SE200 7層)
20. ミズキ 核(2-5;SE45 4層)

種実遺体（２）



21. イネ 穎・胚乳(4-1;SE164 4層)
22. イネ 胚乳(4-1;SE164 4層)
23. ヒエ近似種 穎・胚乳(3-3;SE98 6層)
24. ヒエ - タイヌビエ 胚乳(3-1;SE98 5層)
25. イネ科 胚乳(3-3;SE98 6層)
26. オオムギ 胚乳(3-6;SE195 5層)
27. ミクリ属 果実(3-5;SE195 5層)
28. アゼスゲ類 果実(1-2;SE26 5層)
29. ウキヤガラ 果実(5-2;SE200 7層)
30. ホタルイ近似種 果実(2-6;SE45 4層)
31. ホタルイ属(平滑型) 果実(2-6;SE45 4層)
32. ギシギシ属 果実(5-2;SE200 7層)
33. ヤナギタデ近似種 果実(2-6;SE45 4層)
34. ボントクタデ近似種 果実(2-6;SE45 4層)
35. サナエタデ近似種 果実(2-6;SE45 4層)
36. イヌタデ近似種 果実(4-1;SE164 4層)
37. タデ属(3稜型) 果実(5-2;SE200 7層)
38. タデ属(3稜粗面型) 果実(4-1;SE164 4層)
39. ソバ 果実(4-1;SE164 4層)
40. アカザ属 種子(4-1;SE164 4層)
41. ヒユ属 種子(1-4;SE26 5層)

種実遺体（３）



42. アズキ類 種子(1-4;SE26 5層)
43. アズキ類 種子(2-5;SE45 4層)
44. アズキ類 種子(3-4;SE98 7層)
45. アズキ類? 種子(2-5;SE45 4層)
46. アズキ類? 種子(2-5;SE45 4層)
47. ダイズ類 種子(3-6;SE195 5層)
48. ダイズ類 種子(5-2;SE200 7層)
49. エノキグサ 種子(1-2;SE26 5層)
50. スミレ属 種子(1-2;SE26 5層)
51. キカラスウリ 種子(1-2;SE26 5層)
52. マクワ・シロウリ型 種子(4-2;SE164 4層)
53. 雑草メロン型 種子(3-5;SE195 5層)
54. ミツガシワ 種子(1-2;SE26 5層)
55. エゴマ 果実(1-2;SE26 5層)
56. ナス 種子(2-2;SE45 4層)

種実遺体（４）

図版34

1.哺乳綱 種類部位不明破片(試料№6;7HT SKC449 1層)

火葬施設（ＳＫＣ449）出土骨

報　告　書　抄　録

ふりがな	ふなといせき
書名	船戸遺跡
副書名	一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅴ
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第490集
編著者名	栗澤光男
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014－0802　秋田県大仙市払田字牛嶋20番地　TEL0187－69－3331
発行年月日	西暦2014年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
船戸遺跡（ふなといせき）	秋田県大仙市（あきたけんだいせんし） 北楢岡字船戸（きたならおかあざふなと） 482外（ほか）	05212	－	39° 31′ 10″	140° 22′ 37″	20120514 ～ 20120810	6,850㎡	一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る事前発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
船戸遺跡	散布地 集落跡	平安時代 中世以降	掘立柱建物跡　６棟 柱穴列　１条 竪穴建物跡　４棟 井戸跡　11基 かまど状遺構　４基 焼土遺構　５基 土坑　47基 火葬施設　３基 溝跡　10条 柱穴様ピット　338基	土師器、須恵器 陶磁器、木製品 石製品、銭貨	中世の火葬施設を３基検出した。

要約	検出遺構と出土遺物から船戸遺跡は、主に13世紀～14世紀に営まれた中世の集落跡と考えられる。また、集落北側で中世の火葬施設が３基検出されたことから、葬送が行われていたものと考えられる。このほか平安時代、近世（江戸時代）にも利用された場所であることがわかった。

秋田県文化財調査報告書第490集

船　戸　遺　跡

── 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ ──

印刷・発行　平成26年３月

編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802　大仙市払田字牛嶋20番地
電話（0187）69-3331　FAX（0187）69-3330

発　　行　秋田県教育委員会
〒010-8580　秋田市山王三丁目１番１号
電話（018）860-5193